

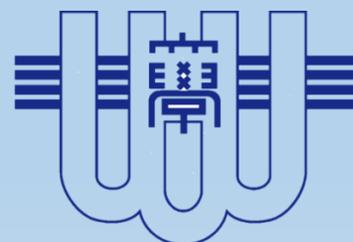
平成25年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」選定取組

つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築

一人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成一



事業報告書



平成27年1月～平成27年12月

長崎大学

長崎純心大学

<u>ごあいさつ</u>	-----	3
<u>わたしたちが目指すもの</u>	-----	7
<u>取り組みの内容</u>		
<u>I. 教育プログラム</u>		
コース受入目標・履修者数	-----	11
<u>II. 特色ある教育</u>		
1. 地域で学ぶ	-----	14
2. 将来の多職種連携につなぐ ～学科と大学を越えた共修～	-----	21
3. 総合診療能力を育む	-----	25
4. キャリアデザインを描く	-----	29
5. ICTの活用	-----	31
6. リサーチマインドを育む	-----	32
初期臨床研修	-----	32
後期臨床研修	-----	34
大学院教育	-----	35
<u>III. これまでの研究成果</u>		
長崎大学	-----	36
長崎純心大学	-----	39
<u>IV. 社会への情報発信</u>		
長崎大学	-----	50
長崎純心大学	-----	55
<u>管理・運営・評価の体制</u>		
管理運営委員会	-----	61
教育推進委員会	-----	62
外部評価委員会	-----	63
これまでの評価と対応	-----	63
<u>その他</u>		
1. シミュレーター 一覧	-----	67
2. ホームページ	-----	68
3. スタッフ名簿	-----	69



ごあいさつ

長崎大学長 片峰 茂

昨年末より、厚生労働省主管による「医療従事者の需給に関する検討会・医師需給分科会」の座長を仰せつかり、月に一回厚生労働省に通うようになりました。おかげで、これまで不勉強であった、現代及び未来の医療をめぐる諸課題について、勉強する機会が増えました。そして、改めて問題の重大さや深刻さを認識させられています。

医療技術の高度化、複雑化の一方で、人口の偏在と急激な高齢化が進行しています。しかし、国の財政悪化の状況では、それに対応するだけの医療費、社会保障費の増加は望むべくもありません。未来への想像力を駆使して、医療・介護のあり方とそのため
のインフラをふくむ社会システムの根本的な見直しを行うしかありません。とくに、過疎化、高齢化と医療資源の偏在が極端な形で進行する地域においては、それは喫緊の課題です。

地域においては、もはや単独の医療施設あるいは単一の職能団体（医師会等）のみでは、地域住民の健康を守ることが不可能な時代となりつつあります。少々医師などの医療従事者の数を増やしても、問題は解決しません。地域全体による、地域のネットワークを駆使した地域の医療・介護の体制の再構築が求められています。

その際の最重要なキーワードが「多職種連携による地域包括医療」です。文部科学省の未来医療研究人材養成拠点形成事業として、平成25年度に長崎大学を中心に開始された「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築」は、この喫緊の課題と正面から向き合い、新しい人材育成教育プログラムを開発し、新しい研究分野を開拓するという、まさに時代の要請に合致するものです。

この3年間、事業は順調に推移し、多くの成果の芽が育まれつつあるようです。関係の先生方の努力に敬意を表します。個人的にとくに注目しているのは、長崎大学医学部と長崎純心大学現代福祉学科の共修授業です。学部・学科、大学の枠組みをこえて、将来異なる職種に就くことになる学生たちが時間と空間を共有して症例の検討を行うという試みです。そして、この共修を通して、学生たちが大学横断で学生サークル「長崎多職種連携たまごの会」を立ち上げ、自主的な学びを開始しています。とても頼もしく思います。

既存の枠組みにはない新しいブレークスルーを生み出す原動力は、将来を担う若者たちにあります。若者の清新な感性や柔軟な頭脳から生み出される破天荒な発想や、無尽蔵のエネルギーが生み出す行動力こそが、新しい日本の医療を創生していくのだと思います。

事業のさらなる発展と、学生諸君の成長を心より祈念します。

長崎純心大学長 片岡 瑠美子

未来医療研究人材養成拠点形成事業が始まり、早いもので3年が経過します。この間、本学に開設いたしました医療・福祉連携センターでは、NICEキャンパス長崎（大学間単位互換制度）を始め地域医療研究会や五島セミナーなどさまざまな連携事業を展開してまいりました。中でも、注目すべき事業として、本学現代福祉学科生と長崎大学医学部生による「共修授業」の実施と「長崎多職種連携・たまごの会」の活動を挙げるすることができます。「共修授業」は本学地域連携センターと長崎大学文教キャンパスとTV中継で結んで4つの教室に別れて実施されました。各教室とも事例の内容は異なりましたが、活発なグループワークや発表は医療や福祉の視点を踏まえた共修授業にふさわしい内容となっていました。また、多職種の“たまご”同士が共に育つ場を設けたいとして誕生した「長崎多職種連携・たまごの会」の定期ミーティングや勉強会などの活動は、学生による主体的な取組として各界で高く評価されておりま

このような両大学の医療と福祉による連携の進展をみると、改めて1945年、自ら被爆されながらも長崎医科大学救護隊第11医療隊三ツ山救護隊で負傷者の救護活動に当たられた長崎医科大学の永井隆博士と本学初代学園長江角ヤス先生のことを思い出されてなりません。学園創立80周年、原爆被爆70年に当たり、永井隆博士と江角ヤス先生の連携の精神を継承してくれる純心学生の学びの姿を頼もしく思っています。

最後に、本事業を通して学習背景の異なる大学及び学科とが医療・福祉系の枠を超えて、将来の医療職と福祉職との多職種連携に繋がる資質を養い、長崎の地域包括ケアを支える人材になることを祈念して止みません。

長崎大学医学部長 下川 功 (事業推進責任者)

今年度は、長崎大学医学部医学科、保健学科、長崎純心大学現代福祉学科の学生との共修が行われた。3つの会場をネットでつなぎ、270名が同時に参加し、幾つかのケースについて、異なった視点から活発な議論がされた。直後の学生の感想や評価も高かった。このような共修によって、異なった背景や特色を持つ医療人が育成され、互いの立場を理解しつつ、地域包括ケアを進めていってほしいと思う。

先日、WHO神戸センターが主催した「第2回WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション」に参加した。この国際シンポジウムでは、各国のスピーカーが高齢化の現状、それがもたらす社会的問題、医療政策などについて問題を提起し、そして、それを解決するための方策について討論した。高齢化問題は日本に限ったことではない。特に、途上国の高齢化が加速している。良質なケアを継続するための医療制度の変革、それをもたらすための「何らかのイノベーション」が期待されることは当然であるが、具体策は明確ではない。

高齢者のケアにかかる経費の負担が、個人や国家にとって過重にならないような医療・福祉モデルが必要とされる。先進国のモデルは、途上国には応用できないかもしれない。イノベーションという言葉は魅力的であるが、私自身も具体的なアイデアは思いつかない。

今年3月までに、私たちが推進しているこの地域包括ケア教育、研究プロジェクトの中間評価が行われる。これまでは、長崎大学と純心大学の共修、地域における実習などの実践に重きが置かれていた。もちろん、現在の取り組みをさらに充実させ、発展させることが最大の課題ではあるが、今後、国際社会における近未来の課題としての高齢化を見据えた視点を加えることが必要と思う。国内の問題としてだけでなく、途上国における地域包括ケアのモデルを提案できるよう発展させたいと思う。

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター長 永田 康浩

本事業も今年で3年目を終えることとなります。本年度は、これまで取り組んできた教育の場作りが形となり確実に動き始めました。まず、長崎大学と長崎純心大学の教育連携です。地域社会で「医療」と「介護・福祉」の連携が求められるなか、教育の現場から将来の連携に繋がる融合を目指し、お互いの能力向上と意識の共有を意図した共修授業では、共に刺激し合い熱のこもった討論が繰り広げられました。まだ十分な専門性を持ち合わせていないものの、相手の意見に耳を傾け、互いを尊重する姿勢、そして自身の能力を高めようとする意欲を感じ、将来の多職種連携を予感させるものがありました。

一方、地域基盤型の教育研究拠点の構築については、長崎市と長崎市医師会との教育に関わる連携により地域包括ケアシステムを活用した臨床実習が始まりました。これまでの病院、高齢者施設、診療所実習に加えて、地域包括ケアシステムの大きな歯車である地域包括支援センターと訪問看護ステーションに出向いて患者・利用者の生活の場で医学生が実習を受けることになりました。今後は各職能団体とさらに連携を深め、偏りのない社会的視点を養うことができる実習教育に発展させていくつもりです。

さて今回、われわれの教育プログラムでともに学んだ多職種のたまご達が自発的に学習サークルを立ち上げました。自らテーマを見つけ仲間と共に課題解決への道筋を探る姿に、リサーチマインドの芽生えを感じながら、これからも支援を続けたいと思っています。

教育の主役は学習者であり、本プロジェクトの成果はその学習者の活躍が社会へ貢献することで示されるものです。今回の教育組織の構築にあたり自治体、医師会、各職能団体、専門職の方々より寄せられる今回の事業への期待を常に感じています。我々の人材育成が、その過程においても教育を媒介にして地域と密接に関わることで医療と福祉の融合と成長が同時に叶っていくと信じて、次年度以降も事業を推進していきます。引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

長崎純心大学医療・福祉連携センターは、長崎大学医学部と連携して文部科学省の「未来医療研究人材養成拠点形成事業」を実施するため平成25年10月に設立されました。本センターでは、住み慣れた地域で尊厳を保持し、自分らしい生活を継続することができるように、地域住民の保健医療の向上と福祉の増進を包括的に支援する「地域包括ケア」体制の推進に関する理論的かつ実証的な調査研究を行ってきました。

平成27年度は、本事業の中核をなす「共修授業」の円滑な実施が大きな課題でした。自然科学と社会科学、それぞれ学問背景が異なる長崎大学医学部と長崎純心大学とが、「共修授業」の一般目標（General Objective）や行動目標（Specific Behavioral Objectives）を共有し、事例シナリオや利用者情報カードを作成するためには多くの時間と話し合いの場を必要としました。まさに、学生の多職種連携は教員同士の多職種連携でもありました。平成27年11月4日と11日に実施された「共修授業」では、医療・福祉系の枠を超えたグループワークを通して、両大学の学生に大きな学びの機会を与えるとともに、実証的な成果も得ることができました。

また、長崎大学医学部生と本学学生の連携は「共修授業」の他にもいろいろとありました。特に、五島市での地域医療セミナーや秋田大学医学部主催の全国シンポジウムでの取り組みを通して生まれた「長崎多職種連携・たまごの会」の活動は、他大学などからも学生の主体的活動として評価されるなどの成果も生まれました。

ところで、本センターが構想する地域包括ケアシステムは、その対象を単に高齢者に限定するのではなく、生活の主体者である地域住民を中心に地域の福祉を創造するために、地域住民が生活と福祉の増進を図る主体者となり、年齢や障がいの有無に関わらず、様々な生きづらさを抱え、何らかの支援を必要とする人々を包摂する住民主体の支援システムとしての機能を具備したものとしております。このことを後押ししてくれるかのように平成27年9月、厚生労働省の「新たな福祉サービスのシステム等のあり方検討プロジェクトチーム」は、地域包括ケアシステムをさらに前進させた地域包括支援体制の構築を掲げ、すべての人が世代や背景を問わず、安心して暮らし続けるまちづくりを提唱しました。この考えは、本センターが目指す地域包括ケアシステムと軌を一にするものであり、一層の確信をもった次第です。

今後とも、本センターでは、地域包括ケアシステムに関する調査研究で得られた学術的な知見を広く長崎の地に還元することを通して、地域住民による主体的な支え合いと相まって、誰もが必要な時に適切な医療や介護・福祉サービスを利用しつつ、安心して住み慣れた地域で生活を継続することができる地域包括ケアシステムの構築と発展に寄与していかなければならないと考えております。

わたしたちが目指すもの

わたしたちが目指すもの

長崎からの挑戦

長崎県は、2035年における老年人口割合が将来見通しでは全国で5番目に多く、後期老年人口割合も7番目に多いと推計されています。県全域には離島や半島が多く、また長崎市内が山に囲まれ急峻な坂が多い特殊事情もあり、医療・介護サービスの提供が容易ではない地域が多く存在します。このような状況で、超高齢社会を迎える中、多様な疾患を抱えた高齢者を全人的に診る医療の充実、および地域で高齢者を包括的にケアするシステムの充実が強く社会から求められています。

しかしながら、このシステムの中で大きな役割を果たすべき医師の育成については十分とは言えません。これは、医学教育において地域包括ケアシステムについての系統立てた教育と実習が行われていないことが一因と考えられます。今後は、生活モデルの視点から医療とケアのアプローチができ、さらに福祉・介護職と良好な連携がとれる医療人の育成が望まれます。

長崎の経験と実績を未来の医療人育成へ

・ 離島・へき地医療での教育経験

平成16年より全国初となる自治体からの寄付講座「離島・へき地医療学講座」を開設しました。全国に先駆けて地域医療教育を展開し、離島における学生実習に地域包括ケアフィールドを活用してきました。

・ 長崎で活動している地域包括ケアシステム

長崎には地域包括ケアシステムに関わる様々なネットワークの活動が活発です。

- ・ 長崎在宅Dr.ネット
- ・ P-net（長崎薬剤師在宅医療研究会）
- ・ 長崎県訪問看護ステーション
- ・ 長崎市包括ケアまちなかラウンジ
- ・ 長崎市斜面研究会
- ・ 長崎県基幹型認知症疾患医療センター
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 長崎県栄養士会（ながさき栄養ケア・ステーション）

長崎だからできること

本事業は平成25年度、文部科学省GP（Good Practice）「未来医療研究人材養成拠点形成事業－リサーチマインドを持った総合診療医の養成－」として、将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、地域の医療機関や市町村と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医を養成する事を目的に実施します。

このGPにおいて、長崎大学と長崎純心大学は連携し、地域包括ケアシステムを理解し、将来にわたり実践できる医師の人材育成と、超高齢社会に伴う諸問題を研究する医師を継続的に輩出する仕組みを構築します。

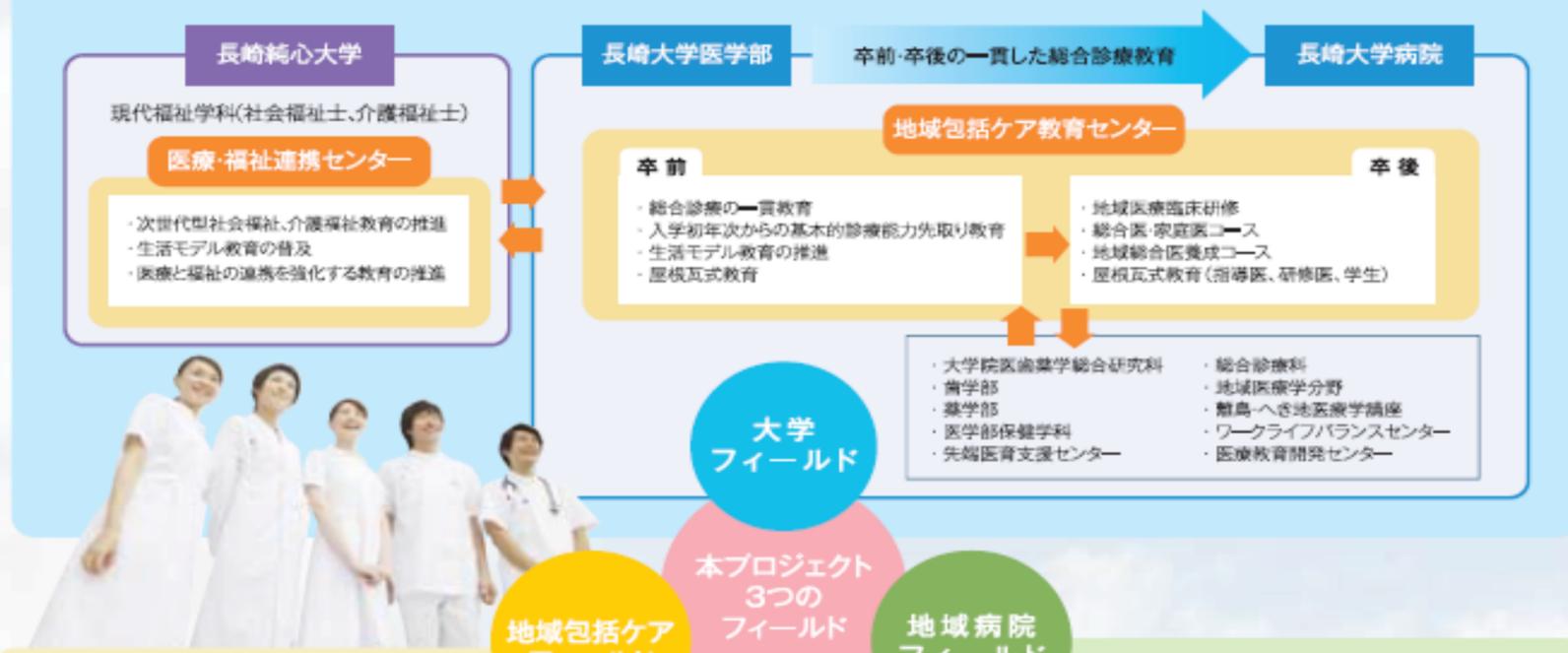
長崎の地において、長崎だからできることを目指します。

プロジェクトの全体像

本プロジェクトでは、つなぐ医療を実践できる医療人の育成を目指します。

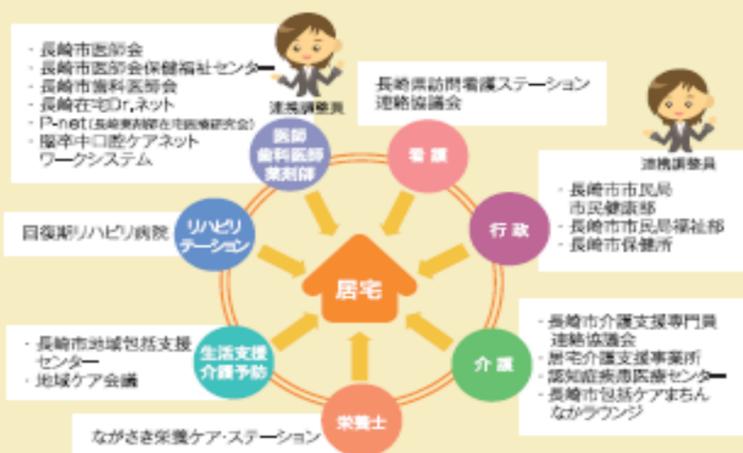
継ぎ目のない人材育成

社会福祉士、介護福祉士養成学科を有する長崎純心大学と連携する。



多職種との連携

訪問看護や介護等の各事業所と連携し、地域における実践的教育に取り組む。



生活モデルからアプローチする包括ケアの実践的・全網羅的教育の推進

リサーチマインドの育成

長崎市の拠点病院である長崎市民病院長崎市民病院に大学院連携講座を設置し大学院教育や地域病院として教育拠点の役割を担う。



教育の取り組み

I. 教育プログラム

◆コース受入目標・履修者数

継ぎめのない医療人育成

長崎大学は今後、地域医療機関・市町村・多職種と連携して幅広い視点で患者を診る総合診療医を育てることを目的に、卒前・卒後一貫教育システムを構築する。

卒前は地域ケア実習を含め、地域包括ケア教育を全医学生が受講し、医療・福祉系の共修や地域実習の中で多職種連携の重要性を学び、さらに卒後の臨床研究や生涯教育に繋げ、総合的診療能力やマネジメント能力の養成を図る。

卒前・卒後地域包括ケア一貫教育・研究プログラム

医学部医学科	初期臨床研修	後期臨床研修	生涯教育
地域包括ケア教育プログラム（必修）	総合医・家庭医コース	地域総合医養成コース	総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー
地域包括ケア共修プログラム（必修）	大学院（医歯薬学総合研究科）教育		地域包括ケアSD・FD
基本的診療能力育成プログラム（必修）	地域包括ケア研究医養成コース		

地域包括ケア教育プログラム（必修）

対象者 医学生1～6年生、現代福祉学科生1～4年生

修業期間 6年

教育内容 <必修科目>
医と社会（医と暮らし等）
臨床実習（地域ケア科目）
<選択科目>
高次臨床実習、地域医療ゼミ、医学ゼミ

対象者	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受入目標	履修者数								
医学生	0	0	500	544	620	629	620		620	
福祉学科生	0	0	30	0	30	36	30		30	
計	0	0	530	544	650	665	650		650	

地域包括ケア共修プログラム（必修）

対象者 医学科生、保健学科看護学専攻学生・理学療法学専攻学生・作業療法学専攻学生、薬学生、歯学部生、介護福祉学生、社会福祉学生

修業期間 2年

教育内容 <必修科目>
教養セミナー、医と社会
<選択科目>
NICEキャンパス長崎

対象者	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受入目標	履修者数								
医学生	0	0	0	17	240	374	240		240	
他学科生	0	0	0	16	560	469	560		560	
福祉学科生	0	0	0	26	30	83	30		30	
計	0	0	0	59	830	926	830		830	

基本的診療能力育成プログラム（必修）

対象者 医学生1～6年次生

修業期間 6年

教育内容 <必修科目>
医と社会、臨床実習
<選択科目>
高次臨床実習、地域医療ゼミ、医学ゼミ

対象者	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受入目標	履修者数								
医学生	0	0	660	544	660	629	660		660	
他学科生	0	0	0	0	0	106	0		0	
計	0	0	660	544	660	735	660		660	

総合医・家庭医コース

対象者 初期臨床研修医

修業期間 2年

教育内容 <必修科目>
総合診療科、救命救急センター、精神科、
皮膚科、内科、整形外科、小児科、
地域医療、地域包括ケア、
マネジメント法・教育法
<選択科目>
産婦人科、保健・福祉行政

対象者	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受入 目標	履修 者数								
初期研修医	0	0	0	4	5	7	5		5	

地域総合医養成コース

対象者 後期臨床研修医

修業期間 2年

教育内容 <必修科目>
総合診療科、救命救急センター、精神科、
皮膚科、内科、整形外科、小児科、
地域医療、地域包括ケア、
マネジメント法・教育法
<選択科目>
産婦人科、保健・福祉行政

対象者	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受入 目標	履修 者数								
後期研修医	0	0	0	0	5	2	5		5	

地域包括ケア研究医養成コース

対象者 医歯薬学総合研究科医療科学専攻大学院生

修業期間 4年（博士課程）

教育内容 <共通科目>
生命医療科学セミナー、生命医療科学概論
・生命医療科学特論
<地域包括ケア研究医養成コースの科目>
地域包括ケア学特論、地域包括ケア演習、
地域包括ケア学実習、在宅・地域医療実習
離島・へき地実習、研究科が指定する地
域包括ケア関連科目、研究科が開設する地
域包括ケア関連科目
<主科目>
所属専攻が開設する授業科目

対象者	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受入 目標	履修 者数								
大学院生	0	0	2	0	2	1	3		3	

総合医・地域包括ケア生涯教育セミナーコース

対象者 一般医師

修業期間 1年（博士課程）

教育内容 <必修科目>
セミナー
(地域医療学、地域福祉学、地域保健学、
地域介護学、総合診療学、家庭医療学、
地域リハビリテーション学、医療倫理学
地域保健・福祉行政学等)

対象者	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受入 目標	履修 者数								
一般医師	0	0	0	0	10	65	10		10	

地域包括ケア教育SD・FD

対象者 地域包括ケア関連専門職種

修業期間 1年

教育内容 <必修科目>
基本的教育理論、基本的教育手法、
コーチングの基礎、学生・研修医教育に
関わる問題点とその解決方法

対象者	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受入 目標	履修 者数								
一般医師	0	0	20	16	20	28	20		20	
その他	0	0	0	0	0	38	0		0	
計	0	0	20	16	20	66	20		20	

「地域包括ケア」教育カリキュラムのコンセプト

「医と社会」授業は1年から4年にかけて、学内外においての様々な活動を通じて社会に広く求められる人間性を養うために設けられた長崎大学医学部独自の科目である。当センターは平成26年から科目担当に加わり、平成27年度は「医と社会」の57%にあたる68コマを担当することとなった。それに伴い、従来の単年で完結する科目とは異なり低学年から高学年までスパイラルに向上するカリキュラムをつくりあげる。

概略

将来どのような医療現場へ進むに関わらず、地域包括ケアを通じて医学生が身につけてほしい知識、態度、技能を明確にし、これらを習得するためのカリキュラムとする。

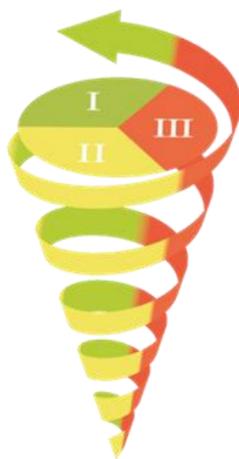
目標

- I. 地域包括ケアシステムを理解し、他職種と円滑に連携ができる
- II. 医師としての真摯な姿勢と素養を習得する
- III. 総合的診療能力（医学的知識と技能）を身につける

教育方法（カリキュラム構成）：Spiral curriculum

知識・態度・技能の養成は施設実習等の実践経験(early exposure)や臨床に即したグループワーク・シミュレーション実習を入学初年度から取り入れることで、モチベーションを刺激しながら満遍なく学べるよう構成した。そうすることで将来への展望をイメージしながら医学生としての必要な姿勢も早期から学ぶことが期待される。

Spiral curriculum



I：知識、II:技能、III：態度を織り交ぜ、各領域を学年とともにらせん階段状に巡りながら、それぞれの到達目標に向かって、全領域をバランス良くレベルアップするカリキュラム構成。

カリキュラムの特色

- 1) 診療能力育成先行型システム・シミュレーターを用いた実技を中心とした授業
- 2) 現場に近い専門職のファシリテーターとしての参加
- 3) 学外実習のフィードバック
- 4) 実習の細かなコーディネート
- 5) 実際の症例・事例を用い、学生自らイメージし、考える授業
- 6) グループワークを多用した授業
- 7) ICTの活用

期待される効果

- 地域包括ケアを実践するにあたり、将来必要となる基本技術（心電図、血圧測定、超音波検査等）を医学部入学初年度から学ぶことにより、解剖をはじめとした基礎医学や臨床医学により興味を持ち、後の学習や他科の授業および将来の診療がさらに深まる。
- 学外施設実習前後の授業により実習を充実させることができる。
- グループワークを多用することにより、チーム医療を体感し、その中での役割を身につける。

II. 特色ある教育

1. 地域で学ぶ

地域病院で学ぶ

医と社会【1年】病院見学実習

1年次の「医と社会」では、入学間もない時期から医療が高度先進病院だけで完結するのではなく、多職種が関わりながら生活へ復帰する様子を知ることができる医療施設での見学実習を、保健学科のりと共修する形で実施している。実習が単なる見学で終わらないためにも事前学習と振り返りを徹底した。

対象学生 医学科1年 121名 保健学科1年 110名
実習時期 5月26日（火）・6月2日（火）

- 実習目的 クライアントに関わる医療専門職者の実践活動を知り、チーム医療について考える。
- 到達目標
 1. クライアントを中心にしたチーム医療の実際を学ぶ。
 2. チーム医療を支える医療専門職者の役割を考える。
 3. 病気や障害を持った患者がどのような日常生活を送っているかを知る。
 4. 1～3をとおして、患者のQOL向上の視点からチーム医療について考える。

➤ 実習施設

実習協力施設（5施設）
一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院
社会医療法人健友会上戸町病院
社会医療法人春回会長崎北病院
独立行政法人国立病院機構長崎病院
医療法人厚生会虹が丘病院

事前学習

施設実習

振り返り学習

➤ 施設実習オリエンテーション

実習要領に沿って、各グループで実習計画書、事前学習レポート、および実習施設への挨拶文を作成し、実習先の概要と実習に対する目標・目的を明確にするための準備学習を行った。事前学習の段階から、それぞれの施設の特徴や地域での位置づけなどについて、実習先のスタッフから直接説明を受けた。

➤ 高齢者体験

学外医療機関のスタッフや利用者とは良好なコミュニケーションをとることを目標に、接遇に関する講義を行った。講義の中では、学生同士で自己の考えを語るグループワークや、タブレットの録画機能を活用した自己紹介の練習など、学生が能動的に行う活動を取り入れた。また、学外実習に向けて、高齢者と接するための基本を学ぶため、「お年寄り体験スーツ」を用いた実習、車いす体験実習、高齢者の栄養に関する実習を行った。



事前学習

施設実習

振り返り学習



学生の感想

- ・ いままで私が想像していた病院像には、大学病院みたいな病院と、まちのクリニックみたいな病院しかなかったので、今回、リハビリや長期療養が中心の長崎病院を見学することができて、非常にためになりました。将来の自分の選択肢が広がったような気がします。
- ・ 病院内ではスタッフのサポートがあり、それが当たり前になりがちですが、本当は自宅で自力で生活するのが当たり前であり、そこまで考えて医療を提供するのが本当の「患者さん思い」なのだと感じました。
- ・ 一番印象的に感じたことは、リハビリをしている患者さんに活気があり雰囲気がとてもよかったことである。患者さんと職員の方のコミュニケーションが活発であり、病院の設備が充実していることが、この良い雰囲気を作っているのだと私は思った。

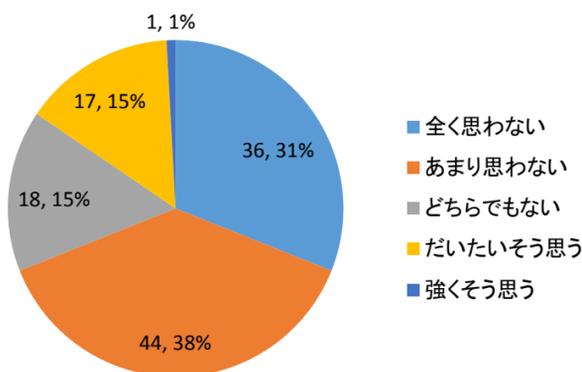
事前学習

施設実習

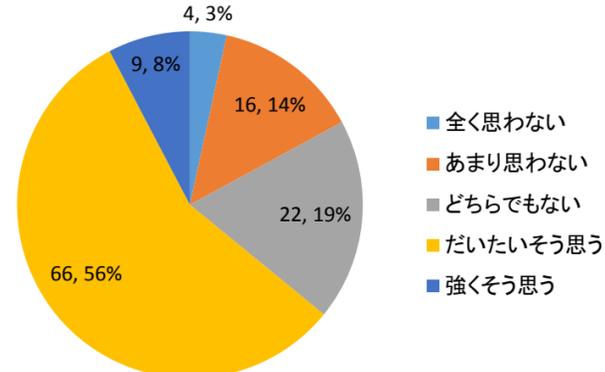
振り返り学習

Q 地域包括ケアシステムにおける多職種連携（IPW）について説明できる

授業前 (n=116)

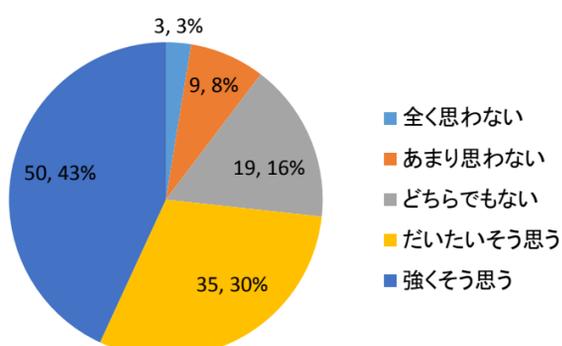


授業後 (n=117)

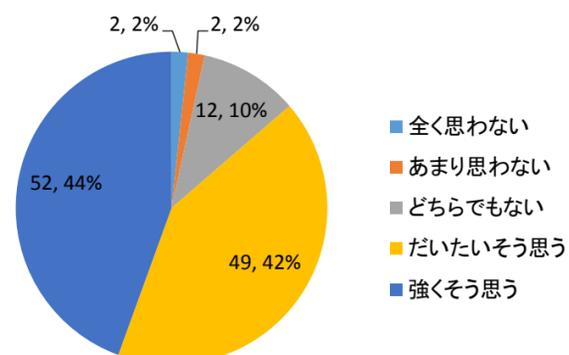


Q 地域医療に関心がある

授業前 (n=116)



授業後 (n=117)



3年次の「医と社会」では、基礎医学から臨床医学へと知識を深めつつあるなかで、実際の医療の場でどのような診療が行われているか、患者に医療を届ける場面を診療所での実習を行う。診療所医師の姿や病院スタッフとの連携のなかで必要な能力を感じ取る機会としている。

対象学生	医学科3年 128名
実習時期	5月27日（水）、6月5日（金）・12日（金）・19日（金）・26日（金）、30日（火）

事前学習

施設実習

振り返り学習

➤ 施設実習オリエンテーション

実習要領を配付し、各グループで実習計画書、事前学習レポート、および実習施設への挨拶文を作成し、実習先の概要と実習に対する目標・目的を明確にするための準備学習を行う。

➤ 診療の心得

医療面接

患者が訴えやすい症状を理解し、適切な医療面接のやり方を習得する。遭遇しやすい病名について現病歴を作成し、それに基づいて医師役、患者役、採点者、撮影者に分かれ、医療面接を経験する。

シミュレーター実習

在宅介護や看護に必要な手技についてシミュレーターで疑似体験し、高齢者の身体機能や心理状態を理解し、適切な対応を習得する。

学生の感想

- ・ 医療面接は人によって聞き方や答え方に差があり、自分の求めているものを引き出せるかは聞き方次第だなと感じた。
- ・ 良き医師になるためには医学の知識を持っているというのは基本中の基本で、いかに患者と向き合うかという人としてのレベルの高さのようなものが求められるのかなと思った。

事前学習

施設実習

振り返り学習

➤ 実習目的 医療の第一線である診療所で、患者、身障者や高齢者の方々と接する際の基本的マナーや心構え、あるいはその対応の仕方を学び、医学生として行動することができる。さらに地域で求められている医師や看護師等の医療専門職の役割を理解する。

- 到達目標
- 1) 地域医療を担う医師としてのプロフェッショナリズムの涵養
 1. 診療の実際を理解する
 2. 地域の医療・保健・福祉の関わりを理解する
 3. 地域医療への関心を持つ
 - 2) 診療参加型臨床実習で医療チームの一員となる準備

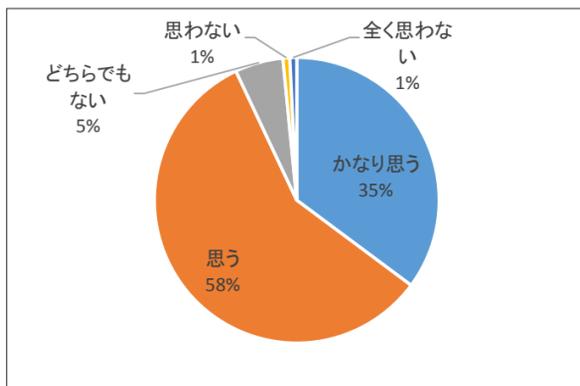
➤ 実習協力施設（46施設）

江上耳鼻咽喉科医院	井上病院	おにつか内科・消化器科	きのしたこどもクリニック
原田外科・胃腸科クリニック	油木坂クリニック	わたベクリニック	古市外科胃腸科医院
小島耳鼻咽喉科クリニック	ちひろ内科クリニック	宮崎内科医院	中西内科
おおぞら整形外科	たじま内科消化器内科	光風台病院	新里クリニック浦上
みどりクリニック	おおつる内科医院	出口外科医院	山根内科胃腸科医院
あそう眼科	もりハートクリニック	さかもとクリニック	原田医院
長崎腎病院	林医院	石川内科クリニック	ホーム・ホスピス中尾クリニック
山口整形外科医院	岩永医院	谷川放射線科胃腸科医院	鳴見台山中クリニック
小川クリニック	諸熊内科医院	ダイヤモンドまつぎクリニック	長崎宝在宅医療クリニック
思案橋ツダ眼科	産婦人科宮村医院	江良医院	福田ゆたか外科医院
長崎腎クリニック	たかすぎ内科クリニック	倉田醫院内科婦人科	
たがわ内科	ながさきハートクリニック	落内科医院	

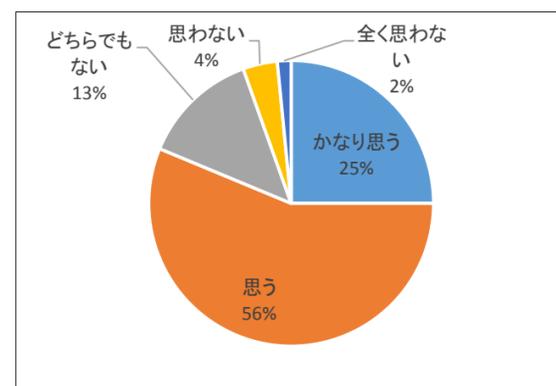
学生の感想

- さまざまな患者さんをたくさん診させていただき、大変勉強になりました。訪問診療などは初めてでしたが先生が丁寧に説明してくださいました。もう少し実習時間がとればさらによいものになると感じました。
- 地域の医療に貢献し活躍されている方と実際に接し話すことができ、その方の思いやモットー、工夫などを聞くことができ将来を考えるうえでとても参考になると思った。とてもいい体験ができたと思う。
- 実習を通じてどのように医療者が患者さんと信頼関係を構築しているのかが分かった。これは実際に現場に行かない限りはわからないことであるから貴重な体験ができたと思う。

Q. 診療所の実験を体験すると共に、診療所の位置づけと役割を理解できた。



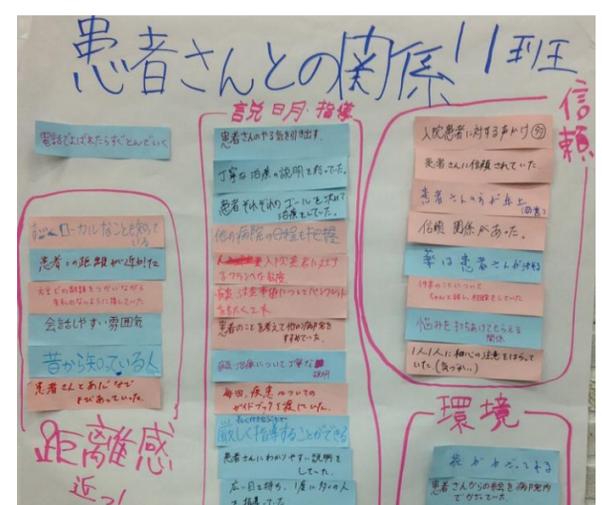
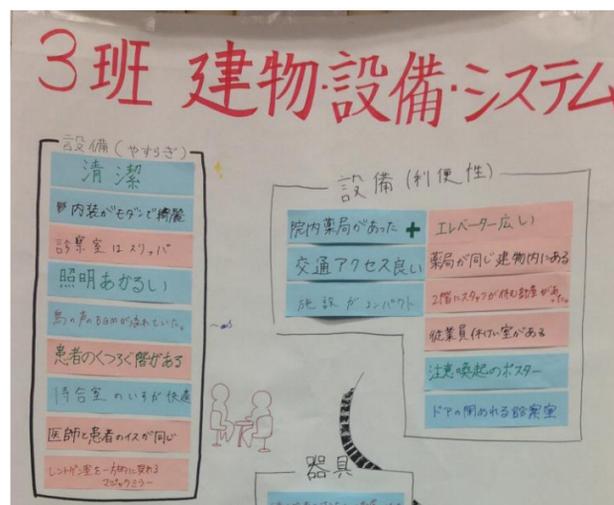
Q. 地域の医療・保健・福祉と、医療専門職の役割を理解することができた。



➤ テーマ：「実習で訪れた診療所の良かったところ」

グループごとにテーマに沿って実習した施設をもとに討論した。

- 建物、施設、システム
- スタッフ、多職種連携
- 患者さんとの関係
- 病院、診療所の医師



学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを目的として行う診療参加型の臨床実習である。

実習期間 第1ターム：平成27年4月6日～平成27年5月1日、第2ターム：平成27年5月7日～5月29日

実習時間 9：00～16：00 月～金

対象学年 6年次

【SBOs】

1. 指導医とともに在宅診療に参加し、現場で生きる基本的臨床能力を身につける。
2. 患者さんと良好なコミュニケーションをとることができる。
3. 患者さんの居宅環境や家族関係、生活スタイルなど、病院での診察では得られにくい情報に目を向けることができる。
4. 患者さんの抱える医学的問題点について、診療科の枠を越えて総合的にとらえることができる。
5. 患者さんを取り巻く家族、医療、介護、社会資源など、地域におけるチーム医療・多職種連携のあり方について理解し、説明できる。
6. 患者さんを看取る場面に立ち会った際は、死生観に関する深い洞察や理解を身につける。
7. 医療者として地域に貢献する態度を養成する。

【実習協力機関】

ホーム・ホスピス中尾クリニック（中尾 勘一郎 先生）



坂の町長崎の在宅医療経験



長崎宝在宅医療クリニック（松尾 誠司 先生）



フィードバック



【学生の感想】

- 救急要請とプライマリケア対応も在宅医の大切な仕事であると思った。
- 患者さんの考えていること、趣味、家族関係等については病院での医療よりも在宅医療の方が、
- 家庭を訪問するため非常に内容をつかみやすいということがわかりました。
- 実際に自宅にお邪魔する在宅医療は信頼が絶対的であり、医師という職の影響力・責任の重さを実感した。
- 在宅をすることで家族が幸せであるかを様々な視点から考えておりとても勉強になった。
- 栄養法の選択は、介護・処置・自宅・施設かなど様々な面から考えるべきであることを学んだ。
- 在宅医療は、病院よりもっと近い距離で話を聞いて、場合によっては家族を巻き込むことも出来るところが強みであることを実感した。

➤ 臨床実習 事前講義

平成28年1月からはじまる臨床実習の事前授業として、地域包括支援センターの役割について模擬事例の検討を通じて学びを深めた

➤ 講義目的

- 1.長崎市に住む高齢者をイメージし、多職種が連携した支援を学ぶ。
- 2.事例について情報収集し総合的なアセスメント技術を学ぶ。
- 3.グループワークを通して医師ができることについて気付く。

グループワークⅠ：事例の全体像を把握できるよう情報を整理する
整理した情報から「強み・弱み」を分析する

グループワークⅡ：支援目標を話し合う

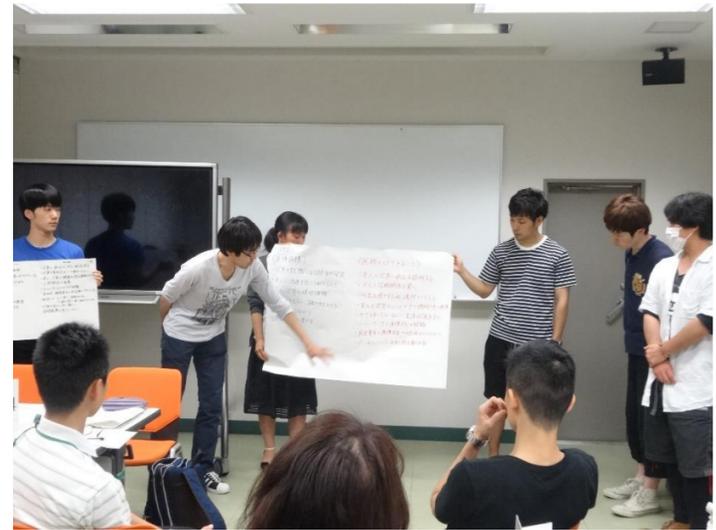
医師としてできること（医師の視点を養う）を話し合う

ファシリテーター 長崎市 2名、長崎市地域包括支援センター 11名

ファシリテーターを交えたグループワーク



全体発表



学生の感想

- 医学的なものだけでなく、幅広く全体をみる必要性を学ぶ機会になった。
- 支援と一口で言っても様々な要因が複雑に関わっていてサポートを考えるのは難しいと感じた。
- 現状を踏まえつつ支援目標を考えていくのは非常に難しいと思った。
- 今回の授業で感じたのが、本人のために医師ができることは少ないということ。医師にできることで挙げた内容は、患者と寄り添ったものではなく、指示や指導がほとんどであると感じた。なかなか直接的な関わり合いが難しいが、その中でも、相手に親身に接するのも大切だと思った。
- ワークショップにおいても医学科の学生だけで行うのは不十分で様々な専門教育を受けている多学科間の話し合いが行われなければ、実例を用いることの利益を活かしきれていないと思った。

専門職からの感想

- 社会資源を知るという学習の機会があってもよいと思う。
- 個人ワークをしてからのグループ協議は有効的だった。ポストイットを使ってよかった。
- たくさん書き出せる方とほとんど書けない方のバランスが多く見られたワークだった。
- 医療のことだけでなく、生活面、コミュニケーション等様々な視点から意見が出て、驚いた。

地域包括ケアシステムを医療資源として活用する医学教育の集大成として平成28年1月から地域包括ケア臨床実習が始まった。

➤ 実習の目的

超高齢社会を迎える我が国では、高齢者が地域で生活していくために社会の包括的な支援の充実が求められている。当センターの臨床実習では、地域で必要とされる医師を目指して、高齢社会の現状や地域の特性と実情を理解した上で、高齢者支援のための地域のネットワークにおける、個々の高齢者のニーズに応じた多職種連携の一員として行動できる事を目標とする。

上記の目標を踏まえて、当センターでは、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、消防署、地域医療連携センターの4つの施設を拠点として臨床実習を行う。

➤ 実習スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション	地域包括支援センター	消防署	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション
午後	地域包括支援センター	地域包括支援センター	消防署 オープンファンファレンス	訪問看護ステーション	まとめ

➤ 評価方法

指導者による出席の確認。地域包括支援センター実習、訪問看護実習、消防署実習それぞれレポートを提出する。出席とレポート、指導者評価3点の総合評価により不合格と判断された者は、休暇期間中の再実習を指示する。

➤ 実習施設

長崎市地域包括支援センター（19箇所）

1	桜馬場	11	南部
2	大浦	12	東長崎
3	江平・山里	13	片淵・長崎
4	西浦上・三川	14	岩屋
5	緑が丘	15	淵
6	滑石・横尾	16	小江原・式見
7	三重・外海	17	深堀・香焼
8	西部	18	日見・橘
9	小島・茂木	19	琴海
10	戸町・土井首		

長崎市消防署（2箇所）

1	長崎中央消防署
2	北消防署(岩屋橋)

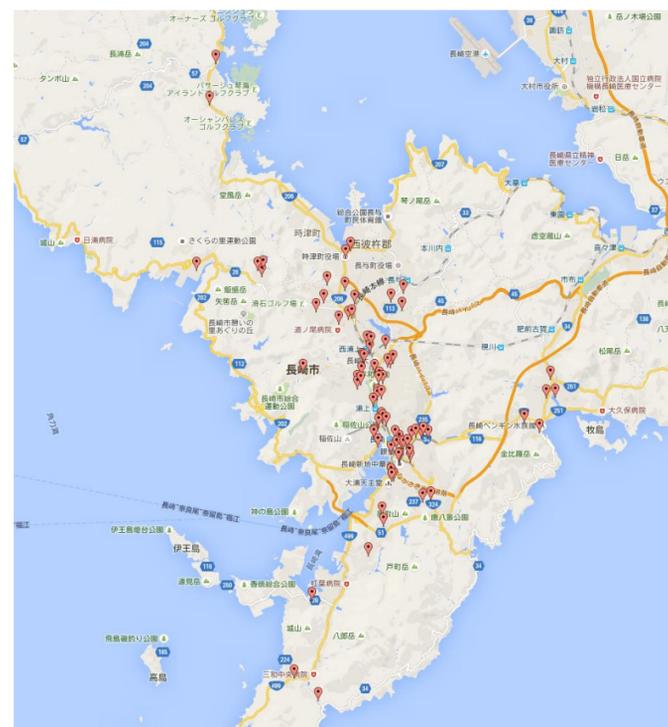
地域医療連携センター（1箇所）

長崎大学病院 地域医療連携センター

訪問看護ステーション（22箇所）

南部ブロック	訪問看護ステーションゆうあい	北部ブロック	訪問看護ステーション横尾
	セントケア訪問看護ステーション長崎みなみ		訪問看護ステーションすみ香
	訪問看護ステーションそよかぜ		訪問看護ステーション鳴見
	昭和会訪問看護ステーション		訪問看護ステーションひまわり
	訪問看護ステーション太陽		訪問看護ステーションあじさい
	訪問看護ステーション21		訪問看護ステーションコスモス
中央ブロック	訪問看護ステーションあんこう		訪問看護ステーションながよ
	長崎市医師会訪問看護センター		訪問看護ステーションほっと
	訪問看護ステーションYOU		訪問看護ステーションきんかい
	フランシスコ訪問看護ステーション		
	訪問看護ステーション花みずき		
	訪問看護ステーションさくら		
	訪問看護ステーションあさひ		

長崎市内全域に及ぶ実習施設



2. 将来の多職種連携につなぐために～学科と大学を越えた共修～

学科を越えた学び

教養ゼミナール【1年】（医歯薬共修）

医学部（医学科・保健学科）・歯学部・薬学部（薬学科・薬科学科）の1年生による共修形式のゼミ

多様な学科の学生との共同作業を通して、チームワークを養い、多職種連携能力につなげる事を目的とした授業。自ら興味を持ったテーマに対し、主体的に情報収集および考察を行う姿勢を学び、理解を深め、他者が理解しやすく、興味を抱くようなプレゼンテーションについて考え、実践した。

開講場所 長崎大学医学部
 開講期間 平成27年4月7日～平成27年7月14日
 開講時間 16:30～18:00 毎週火曜
 対象学年 1年次
 単 位 2単位
 受講学生 11名：医学科 4名、保健学科 3名、歯学部 1名、薬学部 3名

教養ゼミ 合同発表会
 日時：平成27年7月10日
 場所：長崎大学医学部ポンペ会館
 11G 120名

2015.7.10 教養ゼミナール発表会

認知症について

7班 ○塩湯涼 ○白神佳奈 ○田中亨育
 白井貴浩 杉本真征 関山竜五 勝木桃花
 牧野愛 戸未証人 高宮優真 佐原慈佳

教員：松坂雄亮（地域包括ケア教育センター）

村の特徴

・実際は認知症患者向けの介護施設。
 ・スタッフは250名、郵便局員や庭師、販売員などをしている。
 ・本人は出られないが、閉塞感はない。
 ・使用する薬が一般の人に比べて少ない。
 ・スーパーで財布を忘れても大丈夫。同じものをたくさん持って帰っても大丈夫。スタッフがフォローする。
 ・社会的孤立による精神的ダメージがないから、QOLの向上。



認知症について少し調べてみました



ネットでいろいろ調べていると、面白いものを見つけました



御清聴ありがとうございました!!

【学生の感想】

- ・九州に来てあまり知り合いのいない中だったため、ゼミという機会でも知り合いが増えて良かった。
- ・楽しく、他の学部の人とも活動できたのが一番良かった。
- ・PowerPointによる自己紹介はメンバーのことをよく知ることができてよかった。来年も続けてほしい。
- ・先生もメンバーもみんな優しく最高のゼミだった。
- ・自分の思っていたことと他の人の思っていることの相違によって考えがまとまった。発表の際は時間内におさまったので良かった。
- ・認知症村など、おもしろい情報について調べることができたので、とてもためになり本当に楽しかった。
- ・この教養ゼミナールを通して、自分達のテーマである「認知症」についての理解が深まっただけでなく、普段あまりかかわることのない他学部の人達と交流できたことでコミュニケーション能力なども上がった気がするし、自分の学習に対する態度も少し前向きになった気がする。

学習背景の異なる学科が枠を超えた学びの場を通じて、将来の多職種連携に繋がる幅広い医療と保健の視点を身につけるために、専門講義を受けつつある学年における共修授業を行った。

共修授業 10月19日（金）・10月26日（金）

対象学年 長崎大学医学部医学科 111名、保健学科 114名、歯学部 51名、薬学部 52名

➤ 到達目標

- 【SBOs】
1. 学部が異なる学生間で実際の症例について検討し、意見をまとめる事ができる。
 2. 事例検討を通じて多職種連携の視点を実感できる。
 3. 患者が地域で生活するための医療と保健のしくみを関係づける。
 4. 自分のめざす専門性への興味・モチベーションを向上させる。

➤ 授業内容：グループ毎に将来担うであろう専門職の立場で、提示された症例について情報収集を行い、問題点と解決方法、今後の方針を話し合い、発表する。

➤ プロダクト

・ 症例の概要

75歳、男性。身長170cm、体重52.0kg。6週間前にふらつきとしゃべりにくさを自覚し来院、脳梗塞疑いで当院へ入院となる。入院時の主訴は、右手足がうまく動かない、ろれつが回らない、右下の歯の痛みである。既往歴は、高血圧、糖尿病（降圧剤（Ca拮抗薬）、経口糖尿病剤（αグルコシダーゼ阻害薬）でコントロール良好。合併症なし）、心房細動（抗凝固剤内服中）がある。現在バイタルサインは安定している。身体状況は、軽度の運動麻痺と股関節屈曲・外転と膝関節屈曲制限、右上下肢の麻痺による筋力低下が見られる。ADLは、食事時々むせがあり、整容・排泄自立、移乗軽介助、トイレへの出入り・更衣・入浴部分介助、平面歩行（車いす操作）全介助、階段昇降不可である。総蛋白6.1g/dl、アルブミン2.9g/dlで低栄養状態である。経過は2病日転倒し大腿骨頸部内側骨折（GardenStageIV）を受傷、3病日ベッドサイドリハ開始、10病日骨接合術（ツインフック つば付きCHS）を施行、11病日右片麻痺出現 再梗塞を発症、13病日ベッドサイドリハ再開、39病日歩行訓練開始（平行棒内）である。家族状況は娘が二人で、キーパーソンは県外に住む長女である。受傷前はアパート（内外に階段や段差なし）での独居、生活は自立していた。本人の希望は自宅復帰であり、T字杖歩行の自立が必要である。家族は回復期病院でのリハビリテーション後可能であれば一人暮らしに戻ることが希望している。

臨床診断は#1右大腿骨頸部内側骨折、#2脳梗塞、#3辺縁性歯周炎、右下6、7残根である。

症例の問題点

- 1 右大腿骨頸部内側骨折、脳梗塞による運動障害に伴うADLの低下
- 2 右下の歯の炎症・痛みによる低栄養状態
- 3 嚥下障害、高齢による誤嚥性肺炎のリスク
- 4 脳梗塞による言語障害
- 5 再梗塞のリスク
- 6 退院後の生活での介護者不在

問題解決の方法

- 1 理学療法士が杖歩行獲得に向けたリハビリテーションを行う
- 2 歯科医師が右下歯の抜歯を行う。凝固剤内服中のため、止血時は注意を行う。抜歯後は義歯作成を行い、義歯の管理については看護師が説明を行う。
- 3・4 言語聴覚士が嚥下障害、言語障害の改善のためのリハビリテーションを行う。看護師が口腔ケアを行う。
- 5 薬によるコントロール、生活習慣で気を付けることの説明を行う。
- 6 介護認定を取得し、訪問介護などの導入を検討する。

・ 今後の方針

長女の希望の回復期病院に転院し、ADLの機能回復を目指す。

機能回復後、介護保険を活用し、在宅復帰を行う。

在宅復帰時には、訪問看護・ヘルパーなどの介護保健サービスの導入を検討する。

混合学科によるディスカッションとプレゼンテーション



学生の感想

- ・ 他の学部学科の人と1つの症例について考えることは今までなかったので、他の専門の人たちがどのように考えるかを聞くことができ新鮮だった。もっと勉強しようという意欲がわいた（医学科）
- ・ 実際もこんな感じでカンファランスを行うのかな、というリアルな実感がわいてきて非常に有意義なディスカッションができた。（保健学科）
- ・ 1回目のときは緊張してあまり話せなかったが、2回目は情報収集してからのぞんだので積極的に討論に参加できたと思う。（歯学科）
- ・ 薬物治療を行う中で、副作用や服用中の注意点などで医師、看護師と連携をとる必要がある場面が様々あるということがわかった。（薬学科）

学習背景の異なる大学及び学科とが医療・福祉系の枠を超えて、将来の多職種連携に繋がる学びの場を設けた。

共修授業 10月28日（水）・11月4日（水）・11月11日（水）

対象学年 長崎大学医学部医学科 124名、同保健学科 110名、長崎純心大学現代福祉学科 36名

➤ **目的** 学習背景の異なる大学及び学科とが医療・福祉系の枠を超えて共修の学びの場を通して、将来の多職種連携に繋がる医療と保健と福祉の視点を養う。

➤ **事前授業**

長崎大学医学部と長崎純心大学地域連携センターをネット回線で結び、長崎純心大学現代福祉学科 潮谷有二教授より、地域包括ケアシステムの概念および共修授業の目的について共に学んだ。

➤ **共修グループワーク**

各学部の混合グループによる、症例を用いたグループワークを行った。4症例（急性期・慢性期・癌終末期・医療拒否）にわかれて、下記のworkを行った。

【work 1】この症例の強みと弱みをまとめよう。

【work 2】この症例の目標となる姿（どうなってほしいか）まとめよう。

【work 3】目標を実現するために何ができるか、何を支援できるか、考えよう。

【work 4】この症例をサポートするための社会資源、職種およびその役割をイラスト・図を用いてまとめよう。各workの内容は小グループ発表を行った。work 4の内容は代表グループが全体発表を行った。

プレナリー授業



グループワーク 2週目



グループワーク 1週目



全体発表



学生の感想

□ 長崎大学医学科

- 地域医療（地域支援）について、漠然としていたものがぐっと具体的に理解できたように思う。漠然と多職種連携といっても、それぞれの職種の役割やできることがどんなものがあるのかわからなかったが、それがわかり、さらに今まで知らなかった役割があるのだなあと思いました。
- 先週に引き続き、いい刺激をもらえてすぐくためになる授業になったと思います。普段私たちは、病気になる仕組みやどういう検査値がでたらどういう病気と、病気そのものに目が向きがちですが、他の学部の方は、患者さんの生活や家族のことなど、患者さんのことを考えた視点での意見が多く、そういうところは参考にしていかなければいけないと思いました。
- 発表を考えるのも、聞くのもとてもよい勉強になりました。医療の観点からみても、私の思い浮かばなかった考えをおもいつく人たちがたくさんいるものだなあと思いました。柔軟な考えを持って、また患者さん、家族、福祉、様々な目線からアプローチができるようになる良い機会となりました。

□ 長崎大学保健学科

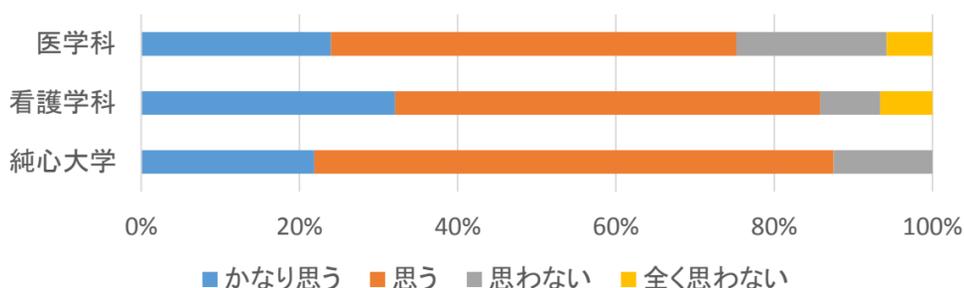
- それぞれの専門職で出来ないことを他の医療職者に補ってもらうことで、よりよい医療やサポートを患者さんに提供することが出来るんだなあと思いました。
- 学部による意見の差があり、ぶつかることもあったなあと思った。また、医、保は専門的知識が少なかったのでわからないことが多く、純心の人を中心にがちだったと思う。
- 他のグループの発表を聞いていて、自身のグループは発表にはなかったピアサポートの支援や障害年金の手続きといった意見もあったので、やはり多くの人と情報を共有することの大切さを知れたと思う。

□ 長崎純心大学現代福祉学科

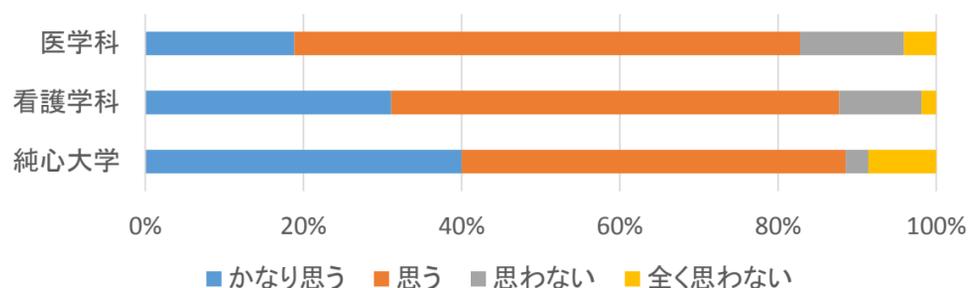
- 一つの専門職で多角的に事例を捉え、考えるのに限界があると思うので、一緒に考えることが出来て勉強になりました。
- 福祉的な意見を積極的に発言することで、多くの福祉からの声を意見に取り入れてもらうことができた。頑張れば協働できるということがわかったので、現場でもがんばっていきたいと思う。
- 時々意見がぶつかり合うこともあり、連携をしていく中でこのような状況が起こるということを実感し、意見のぶつかり合いも大切なことだと思いました。
- 授業では習っていないところまで自分で調べることで福祉に対するモチベーションを上げることができました。
- 自分の意見を伝え、他学科の意見について共感することができたと思う。福祉の視点を医学科や看護の学科も持っているとも感じた。

➤ 自己評価

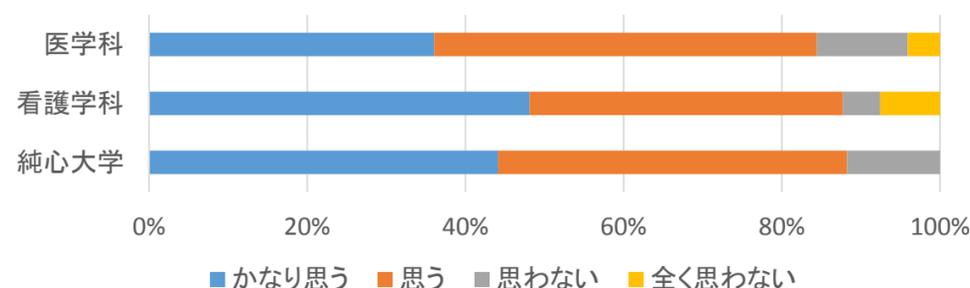
Q.他の大学・学科生が目指している専門職の仕事内容や役割を理解できた。



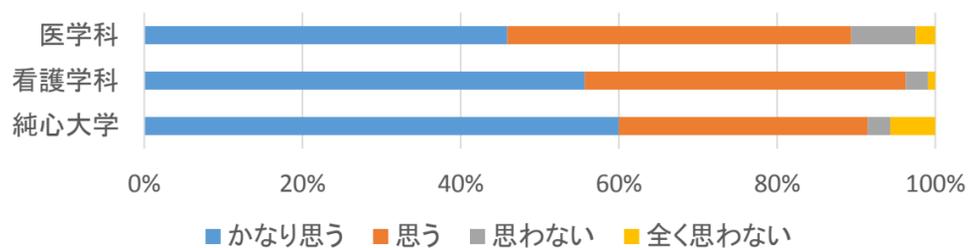
Q.自分の専門分野に対する興味・モチベーションを向上させることができた。



Q.他の大学・学科生が話した内容について共感することができた。



Q.グループワークを通して見方や考え方の違う他の大学・学科生と協働して課題解決に取り組む重要性を実感できた。



3. 総合診療能力を育む

早期からの基本的診療実習

医と社会【1年】

1年次の「医と社会」では、施設実習と並行して、早期からの基本的診療能力を育む実習を取り入れている。今年度の学内での早期診療体験実習は、保健学科との共修により約120名の学生を6グループに分け、合計12か所の実習ブースを順に回るサーキット方式で行った。実習内容は、ブースごとに基礎的事項を確認するワークシートを置き、各ブースで体験をしながら、今後の専門的な知識習得に結びつくことを期待している。



【学生の感想】

医学科

- 体験したことは頭に残りやすく、医師を目指すモチベーションを高めることにもつながったと思う。
- 実習は興味も持ちやすく、楽しいが、座学で知識をもっと蓄えておけば、さらに実習も楽しく、ためになるものになると思うので、これからの基礎の勉強を頑張らなくてはいけないと思った。
- 車いす、杖、自助具では、患者のADLのために考えられた構造をしていて、興味深かった。

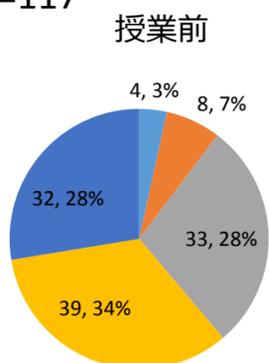
保健学科

- 自助具を使ったことが印象に残った。健常者では気付かないようなことのために役立つ道具がたくさんあって、面白いと思った。
- 実際に体を動かして勉強することは、後からフィードバックして思いだすことができ、これからの勉強の糧になっていこうと思った。
- 医学科と保健学科での共修はチーム医療の練習にもなると思うのでとても良い経験になった。

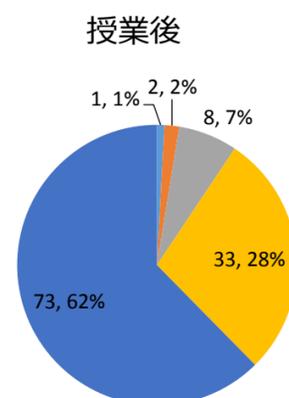
医学科

n=117

超音波検査を臨床実習で実際に行いたい



- 全く思わない
- あまり思わない
- どちらでもない
- だいたいそう思う
- 強くそう思う



- 全く思わない
- あまり思わない
- どちらでもない
- だいたいそう思う
- 強くそう思う

必修選択の科目であり、少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。

開講期間 平成27年9月25日～平成28年1月22日
 開講時間 8:50～10:20 毎週金曜
 対象学年 2年次（医学科生）
 単 位 1単位
 受講生 8名



ゼミテーマ 医師になるってどんなこと？ー包括医療事始めー

目的 医師として患者治療の意義を知り、これに関わる医療資源と社会資源について認識させる。

内容 最先端医療のゴールは患者さんの社会復帰である。疾病を患った患者が、医療機関で治療を受け、社会に復帰するまでに、どれだけの医療資源、社会資源を要するかを認識・理解し、これに関わる基礎医学、臨床医学、社会医学について考察すると共に、在宅実習の現場も体験する。

	テーマ
1	自己紹介、イントロダクション
2	TED「落書きをする人、集まれ！」
3	やってみよう、病歴聴取
4	「座間味島」地域医療視察報告
5	やってみよう、身体診察
6	聴診の極意「らんぐ君」
7	TED「病気の流を見る医療」
8	内視鏡室見学
9	臨床検査は何のため？
10	告知について
11	手術の説明と同意
12	シミュレーター実習
13	TED「チームで運営するヘルス・ケア」
14	「地域で活躍する総合診療医」をLEGOで見える化する
15	まとめ



医師として求められる全人的な視点を養うために、適切な診断・治療・予防のための情報マネジメントを行い（知識領域）、専門職の視点に立った価値観・態度・行動・倫理観を学び取り（態度領域）、コミュニケーションスキル（技能領域）を習得する。

開講期間 12月2日、9日、1月6日、13日（水）3・4限（全9コマ）
 対象学年 2年次（医学科生）124名

➤ 目標

【到達目標：SBOs】

- ①症例を通して入院関連機能障害を理解する。（知識）
- ②介護予防（機能維持）について考える。（知識）
- ③症例を通して患者さんの気持ちを理解する。（態度）
- ④患者さんの家族を含めた患者さんの周囲に目を向ける。（態度）
- ⑤ロールプレイを行い患者説明の実際を体験する。（技能）

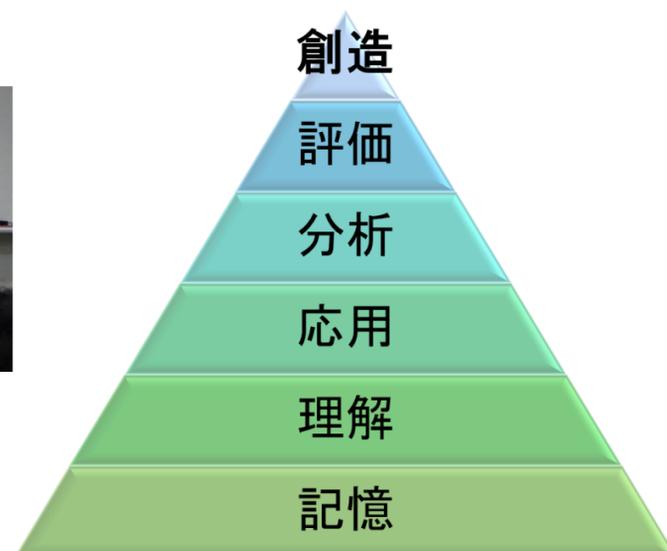


➤ 講義内容

症例を用いて大教室で小グループに分かれ、グループワーク・発表と教員からのフィードバック（授業終了後アイポートフォリオでの解説）
 ・課題の予習を繰り返し、実際に応用できる知識・態度・技能の習得を目指した。

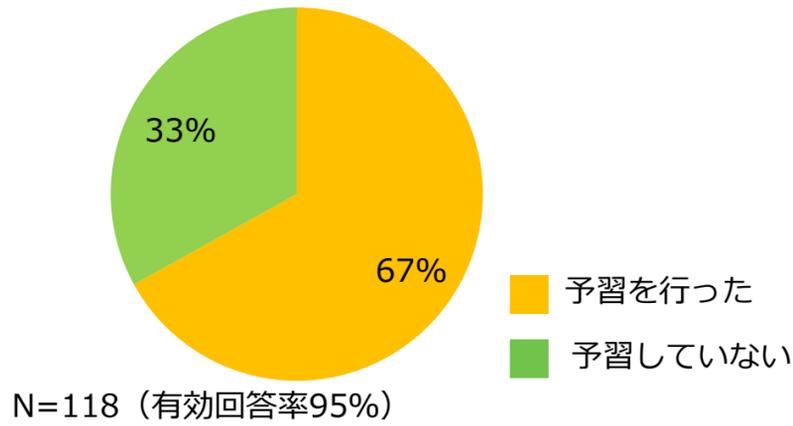
症例ベースに、異常所見の整理、検査の列挙、入院後経過での問題点、疾病の予防、連携チームの早期、退院時の対応などを検討した上で、本症例の強み弱みを挙げ、支援方針を考えた。

さらに、家族の要望・気持ちについて考え、主治医の立場で患者・家族を呼んで何を話し合い、説明・提案するか討論した。最後に、患者・家族・医師役にわかれ支援方針について話し合うロールプレイを行った。

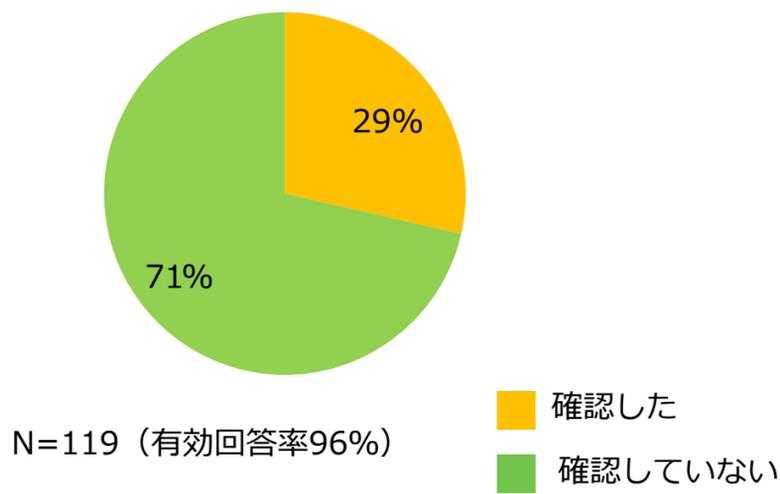


授業後評価

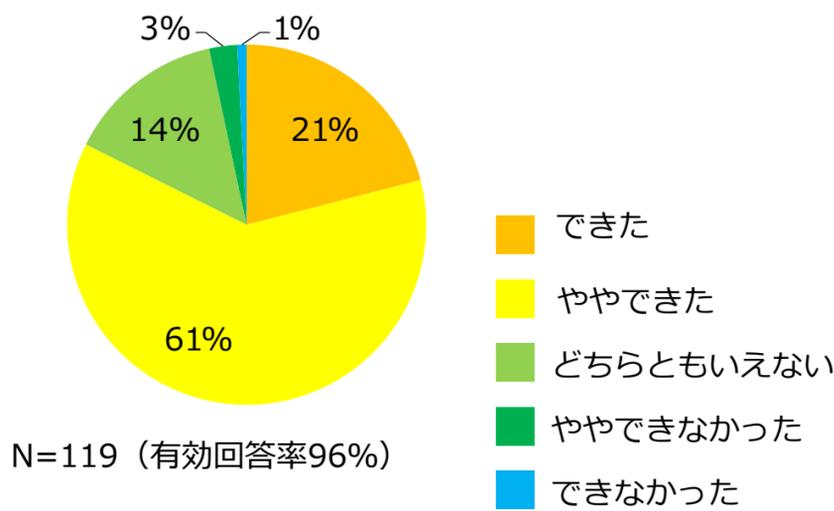
Q1. TBL授業前に、与えられた課題に対して自宅学習（予習）を行いましたか？



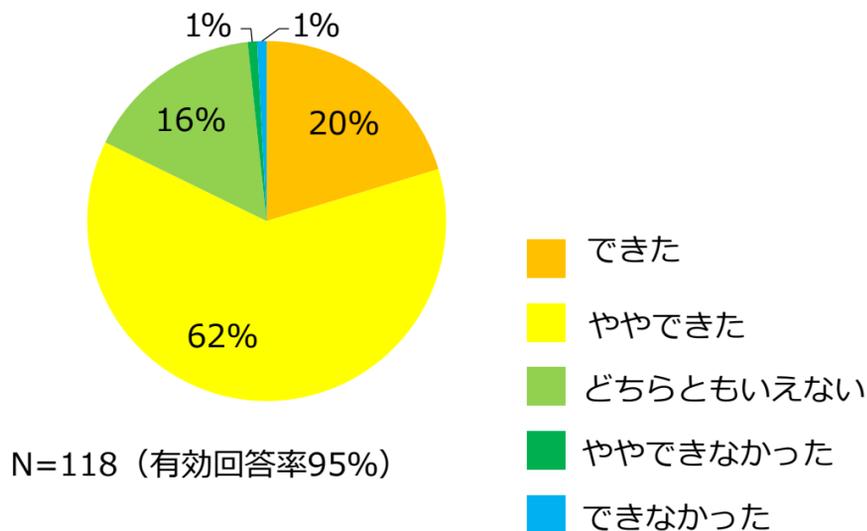
Q2. TBLの授業後に、iPortfolioで解説を確認しましたか？



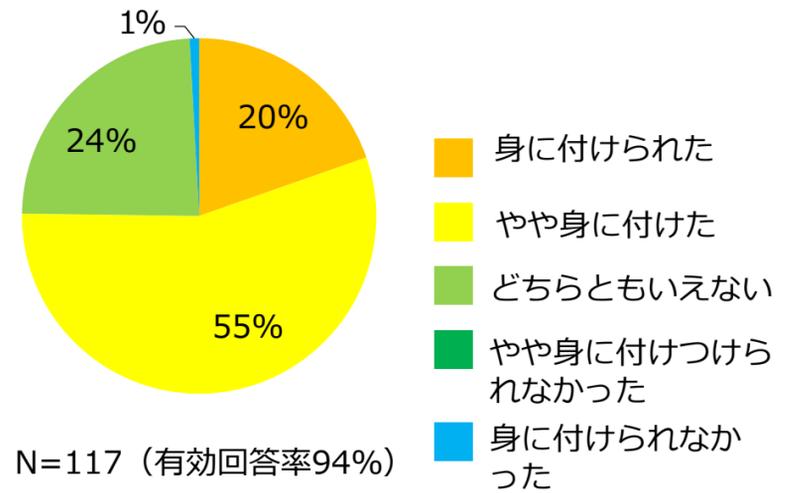
Q3. 地域包括TBLの6コマを通して、医師としての価値観・態度・行動・倫理観について考えることができましたか？



Q4. 地域包括TBLを通して、適切な診断・治療・予防のための情報マネジメントについて考えることができましたか？

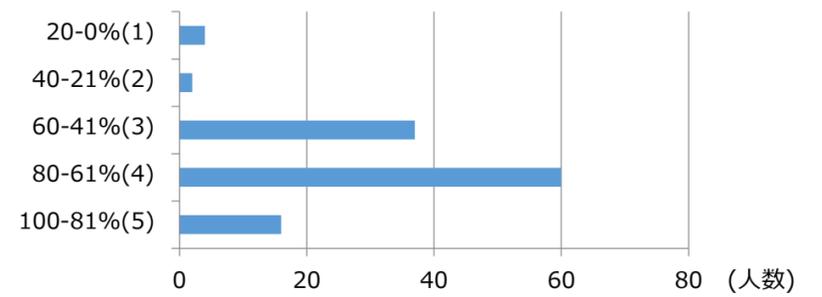


Q5. TBLを通してコミュニケーションスキルが身に付けられましたか？

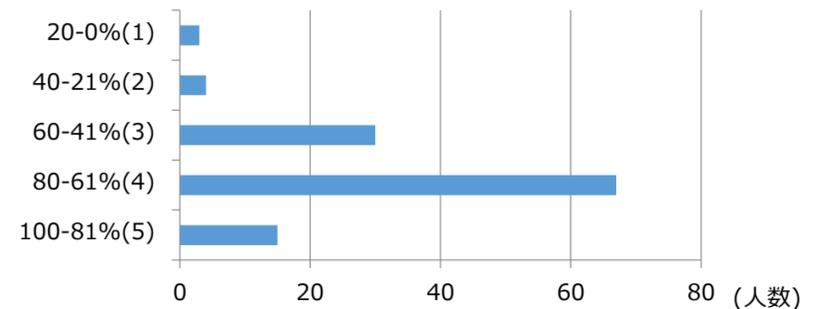


Q6. 今回の地域包括ケアTBLに関して到達目標の達成度を各々記載して下さい (0~100%)

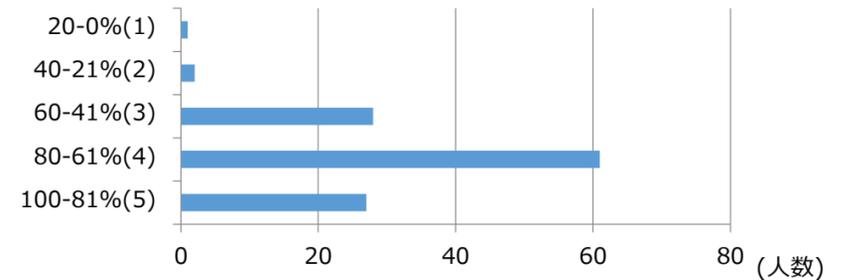
A. 症例を通して入院関連機能障害を理解できた。



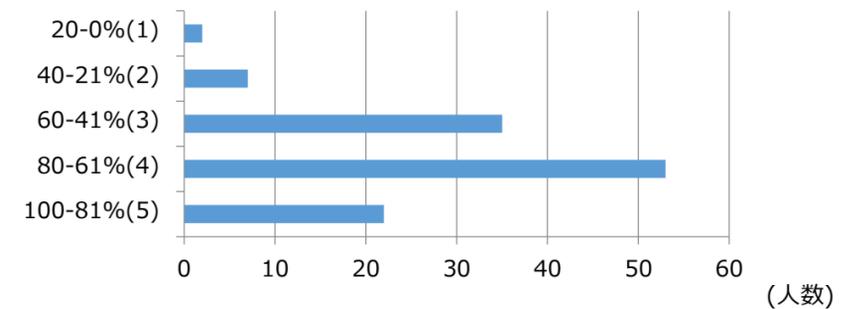
B. 介護予防（機能維持）について考えることができた。



C. 症例を通して患者の気持ちを理解することができた。



D. ロールプレイを行い患者説明の実際を体験できた。



4. キャリアデザインを描く

NICEキャンパス長崎

教養科目（共修科目）【1、2年】

長崎大学と長崎純心大学が連携し、共修科目であるNICEキャンパス長崎の科目を15コマ設定。学生時よりキャリアデザインについて他職種学生と共に学びながら、互いをよく理解し尊重できる専門職、職種を越えて価値観を共有できる人材の育成を目指します。

科目名 地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート Season2

開講場所 長崎大学薬学部

開講期間 平成27年4月8日～平成27年7月29日

開講時間 16:30～18:00 毎週水曜

対象学年 1年次以上

単 位 2単位

受講者 86名

長崎大学 医学科 14名、保健学科 2名、歯学部 2名、薬学部 7名、教育学部 12名
経済学部1名、環境学部 1名

長崎純心大学 現代福祉学科 24名、児童保育学科 9名、人間心理学科 12名
比較文化学科 2名

1	「地域」「女性」そして「輝き」について －プロローグ－	永田 康浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
2	救急科医師・フライトドクター ～人生でのいろんな選択～	増田 幸子	長崎医療センター救命救急センター 医師
3	「人生の計は勤にあり」 すべてのキャリアに求められる接遇力	田中 美吉子	インターナショナル エア アカデミー 長崎校 校長
4	これからの時代に求められるコミュニケーション力とは(初級編)	安永 誠太郎	JMS日本経営サポート協会 代表
5	これからの時代に求められるコミュニケーション力とは(中級編)	安永 誠太郎	JMS日本経営サポート協会 代表
6	アドラー流コーチングコミュニケーション	大城 あゆみ	arbre代表 ビジネスコーチ・ファシリテーター
7	仕事のやりがいと家庭	福島 千鶴	長崎大学病院 臨床研究センター 副センター長
8	女子も男子もスマイルライフ!	浜田 久之	長崎大学病院 医療教育開発センター長
9	魅力あるキャリアデザインを描くために ～医療ソーシャルワーカー編～	宮川 江利	長崎みなとメディカルセンター 市民病院 ソーシャルワーカー
10	創る・選ぶ 私のキャリア	松田 美和	長崎労働局ハローワークプラザ (キャリアカウンセラー)
11	創る・選ぶ 私のキャリア	松田 美和	長崎労働局ハローワークプラザ (キャリアカウンセラー)
12	“人生の経験値 我が家のキセキ”	藤田 文彦 藤田 利枝	長崎大学病院第二外科 医師 長崎県 県央振興局 保健部 (県央保健所)
13	長崎大学・川内村復興推進拠点での活動	折田 真紀子	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座 助教
14	魅力あるキャリアデザインを描くために ～介護福祉士編～	中道 聖子	社会福祉法人日輪会特別養護老人 ホームかたふち村 アドバイザー
15	総合討論－エピローグ－	永田 康浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

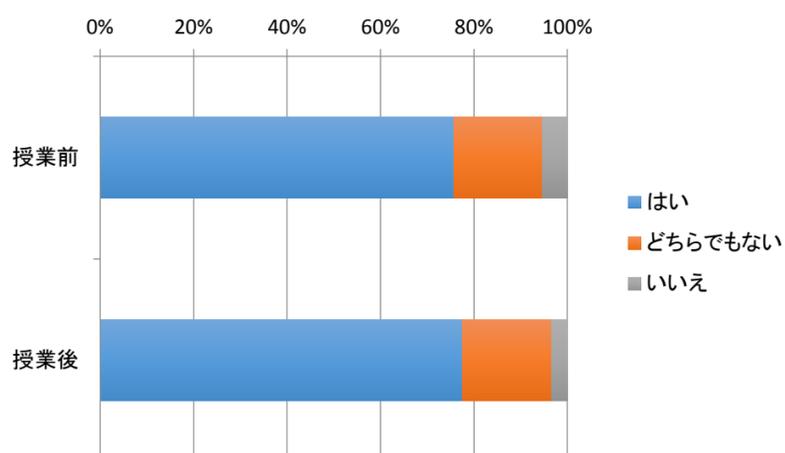
<受講者の感想>

- 一人でNICEキャンパス長崎に参加して、最初は不安しかなかったけど、班活動やペア活動などで話をする機会が数多くあり、自分の意見や考え方を主張する力がついた気がします。また、なかなか会えないような学部の人のお話を聞くことが出来てさらに考え方に広がりをもてました。（経済学部1年）
- オムニバスで色々な先生方、それも様々な分野の方々からのお話を伺えて本当に贅沢な講義でした。考えること、実践する事の大切さを学びました。次回があるのでしたらまた是非参加したいです。（保健学科1年）
- 自分の将来設計を考えさせられる授業が多かった。実際夢をかなえるために積極的に行動を起こしていった先生方のお話を聞き学ぶ点が多かった。また、グループワークは人との会話を円滑に行うすべを学べたと思う。座学だけではない授業だったので日常生活において実践できそうなことが多々あった。（薬学部1年）
- グループワークが多く初めて会う人とのコミュニケーションを取る力を身につけることができました。また、自分の意見や考えを表したり、発表したりする力もついたと思います。（教育学部1年）
- ディスカッションなどが多いことが良かった。複数の大学・学科の学生や講師が交流する機会を確保することがNICEキャンパス長崎の意義であると思えました。（現代福祉学科4年）
- 私がこの講義を受講した目的は自分の目標とする人に出会うことでした。全てを振り返り、先生方のキラキラ輝いている姿やどんな困難にも前向きに生きる姿を拝見することができロールモデルとなる方に出会えました。（児童保育学科4年）
- 振り返るとたくさんの先生から貴重なお話が聞けたと思います。これからの人生で大切にしようと思う言葉もいくつかありました。毎回メモをとっていてよかったと思います。あとから振りかえるべき価値あるノートができました。（比較文化学科1年）
- これから生きていくために手助けにきつとなるであろうキーワードをたくさん得ることができ受講してよかったと思えました。ぜひ来年も受けたいです。（児童保育学科1年）

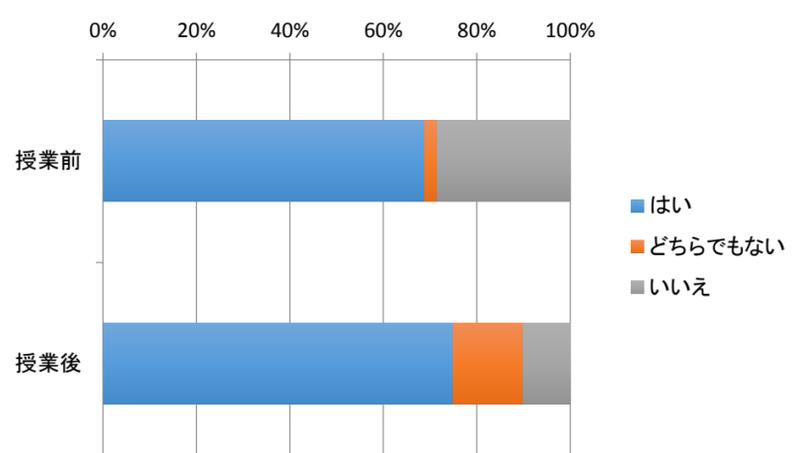


授業前後のアンケート

Q. 将来の目標やvisionを持っていますか？



Q. 将来こんな人になりたい人物像がありますか？



5. ICTの活用

ICTを活用した医学教育を推進するために、長崎大学医学部医学科の1年～6年生全員へタブレット端末を貸与した。ICTベースの教育用オンラインシステム「ヒカルミライ」を開発したことにより、学内、学外を問わず授業に必要な資料の確認やレポートの提出を常に行うことが可能となった。更に、平成27年より総合的診療能力を養成するために各分野での達成目標を定め、指導医と学生との円滑な実習運営となるようシステムの改良を重ねている。

本事業ホームページからアクセス可能

学生の自己学習や実習記録、教員の教育補助ツールおよび評価、地域の実習指導者との教育情報の共有等、様々な場面で活用している。



授業への活用

1分間スピーチを動画撮影



自分のコミュニケーションの傾向を観察し整理する



臨床実習評価システム

到達目標を学生と指導医の双方向で確認



ポートフォリオ、miniCEXも指導医の負担軽減



6. リサーチマインドを育む

◆ 学生サークル 長崎多職種連携・たまごの会



- 目的 多職種のたまご同士が生きた知識を教え学び合い、地域包括ケアをひっぱっていける存在になっていくことを目的としている。
- 特徴 本サークルには長崎大学医学部にとどまらず、他学部や他大学の学生でも参加できる。将来他の職種を理解でき、尊重し合いながら共に働くために、学生時代から違う職種のたまごたちと共に学び教え合う機会とする。医療・保健・介護・福祉と、それぞれ進む道は異なるが自身の専門外の分野を知り理解することにより、将来においても専門性を活かし協調性を持って多職種連携を実践し牽引できるよう、そのための準備を今からたまごの会を通して行っていく。

➤ メンバー

大学	学部	学年	人数
長崎大学	医学部 医学科	1	2
	医学部 医学科	2	5
	医学部 医学科	3	2
	医学部保健学科	1	1
	医学部保健学科	2	1
長崎純心大学	人文学部現代福祉学科	3	9
	人文学部比較文化学科	2	1
合計			21

開催日	内容
平成26年 8月	長崎地域医療セミナー in GOTO
11月	全国シンポジウムにて発表
12月	退院時カンファレンス見学
平成27年 1月	多職種の役割について考える勉強会
3月	勉強会の在り方についての話し合い：たまごの会誕生
平成27年 4月	MSWについて知る勉強会
5月	退院時カンファレンス見学
7月	退院時カンファレンス見学で学んだことを共有
10月	栄養サポートチームについて知る勉強会
11月	全国シンポジウムにて発表
平成28年 1月	出生前診断・生命倫理について考える勉強会
2月	残薬問題・訪問薬剤師の役割を知る勉強会
3月	栄養サポートチームの役割と課題を考える勉強会

顧問：永田 康浩（長崎大学 地域包括ケア教育センター長）



【これまでの活動をふりかえって】

平成26年8月、長崎地域医療セミナー in GOTOで長崎純心大学の学生がセミナー後に、「こんなに楽しくて学びのあるセミナーに参加したのは初めてです。ぜひ、これからは年1回ではなくもっと学生が交流し、一緒に学ぶ場を持ちたいです。」と私に言ってくれたことが始まりです。セミナー後に今回の学びや感じたことを話し合うなかで、医療と福祉が役割を果たすうえで多職種が協力することの重要性を感じ、今回出会えたチャンスを生かすために行動を開始しました。全国シンポジウムでの発表後、まず医師と社会福祉士が共に参加する退院時カンファレンスを見学させて頂き、見学で学んだことを基に勉強会を開催しました。今更ながら主体的に勉強することで知識が身につくことに気づいた私たちは、定期的を開催するためにも勉強会のサークル化に至りました。現在は活動を広く周知させながら積極的に専門家の先生方を勉強会へ招いていますが、将来は私たちが戻ってきて後輩を教える関係を築いていければと思っています。

たまごが孵って、羽ばたき、またいつか巣に戻ってくる。これがたまごの会です。

長崎多職種連携・たまごの会

長崎大学部長 内田 直子（長崎大学 医学部医学科 2年）



◆初期臨床研修（総合医・家庭医コース）

養成すべき人材像

- ①患者を幅広い視点で診ることのできる総合的な診療能力を有する。
- ②医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉・介護の幅広い職種からなるメンバーと協調できる。
- ③患者を全人的に理解し、患者・家族と良好的な人間関係を確立できる。
- ④医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献できる。
- ⑤高齢者に対して効率的に多様な医療を包括的かつ柔軟に提供できる。

コース登録者数：家庭医・総合医コース7名（初期研修医1年次）
家庭医・総合医コース4名（初期研修医2年次）

開催日	開催内容	講師
4/29	第28回 若手医師のための実力アップセミナー 「心電図道場」	長崎大学病院 循環器内科 教授 前村浩二先生 他
5/17	第29回 若手医師のための実力アップセミナー 「どこまでやれる？身体診療～明日から使える身体診察のポイント～」	東京慈恵会医科大学 内科学 准教授 古谷伸之先生
10/5	第30回 若手医師のための実力アップセミナー 「よくわかるEBM実践講座～論文結果をどう説明するか～」	武蔵国分寺公園クリニック 院長 名郷直樹先生
8/21	第31回 若手医師のための実力アップセミナー 「Unsuspected killer in ER ～疑うものは救われる～」	福井大学医学部附属病院 総合診療部 教授 林 寛之先生
10/2	第32回 若手医師のための実力アップセミナー 「～神経疾患の診察法～『めまい』はこう診療する！」	諏訪中央病院 内科総合診療部 山中克郎先生
1/14	グランドラウンド「インシデントレポートの書き方」	安全管理部 栗原慎太郎先生
2/4	グランドラウンド「排泄障害」	泌尿器科 松尾朋博先生
2/25	グランドラウンド「こどもの救急」	小児科 佐々木理代先生
4/14	グランドラウンド「血液型判定」	細胞療法部 長井一浩先生
5/13	グランドラウンド「おさえておきたい栄養剤のレシピ」	救命救急センター 泉野浩生先生
5/20	グランドラウンド「研修医の為の症候診断入門」	総合診療科 井上圭太先生
6/10	グランドラウンド「糖尿病薬、さてどれ使う？」	第一内科 阿比留教生先生
6/24	グランドラウンド「抗菌薬の使い方」	感染制御教育センター 泉川公一先生
7/8	グランドラウンド 「研修医に知ってほしいこと最低限ここまでして専門へ」	泌尿器科 松尾朋博先生
7/22	グランドラウンド「人工呼吸器Ⅰ」	麻酔科 一ノ宮大雅先生
8/5	グランドラウンド「人工呼吸器Ⅱ」	麻酔科 一ノ宮大雅先生
8/20	グランドラウンド「救急外来初期対応について」	救命救急センター 山下和範先生
9/2	グランドラウンド「心電図・不整脈」	循環器内科 土居寿志先生
9/30	グランドラウンド 「輸血医療の適正・安全な実践：ケーススタディを通して」	細胞療法部 長井一浩先生
10/7	グランドラウンド「胸部単純写真」	がん診療センター 芦澤和人先生
10/21	グランドラウンド「胸部CT」	がん診療センター 林 秀行先生
11/4	グランドラウンド「インシデントレポートの書き方」	安全管理部 栗原慎太郎先生
12/2	グランドラウンド「こどもの救急」	小児科 佐々木理代先生
12/16	グランドラウンド「初期研修で学ぶべき精神医学とは何か？」	精神科神経科 松坂雄亮先生

研修医セミナー グランドラウンド



第5回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会



◆後期臨床研修（地域総合医養成コース）

養成すべき人材像

- ①地域住民とのつながりを大切にしたい、継続的で包括的な保健・医療・福祉の実践及び学術活動が行える。
- ②地域・コミュニティをケアする能力を有する。
- ③患者中心・家庭志向の医療を提供する能力を有する。
- ④総合診療専門医資格を取得できる能力を有する。
- ⑤後進を指導できる。
- ⑥多職種と連携してリーダーシップがとれる。

コース登録者数：地域総合医養成コース2名

○長崎県・総合診療専門医養成推進委員会

長崎県独自の総合診療専門医育成システムを構築するために、県内で総合診療後期研修プログラムを稼働させている施設が軸となり、新専門医制度に備え盤石なプログラムの策定のために大学、自治体と一体となり協議を行っている。

【委員】

病院（日本プライマリ・ケア連合学会 後期研修プログラム稼働施設）

- 向原 圭（長崎医療センター 総合診療科医長）
- 和泉泰衛（長崎医療センター 総合診療科医長）
- 井上圭太（長崎大学病院 総合診療科 助教）
- 中桶了太（平戸市民病院 総合内科、長崎大学へき地医療学講座 准教授）
- 近藤 慶（上戸町病院 総合診療科 医長）

長崎大学

- 前田隆浩（長崎大学地域医療学講座 教授）
- 永田康浩（長崎大学地域包括ケア教育センター 教授）

長崎県

- 中山一成（福祉保健部 医療人材対策室 医師確保推進班 課長補佐）
- 浦井純一（福祉保健部 医療人材対策室 医師確保推進班 主任主事）

○長崎大学地域医療フォーラム ～地域医療人育成のロードマップを描く～

I 一般講演

座長 国立病院機構長崎医療センター
医長 和泉 泰衛 先生

「いつから始める総合診療教育？」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター
助教 松坂 雄亮 先生

「長崎から三重へ～原田直樹は何をしているか～」

三重大学大学院医学系研究科
伊賀地域医療学講座名張市立病院 総合診療科 助教
原田 直樹 先生

II 特別講演

座長 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療学講座
教授 前田 隆浩 先生

「総合診療に必要な能力とその教育方法」

三重大学大学院地域包括ケア・老年医学産学官連携講座・地域医療学講座
教授 竹村 洋典 先生

文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業「サーチマインドを持った総合診療医の養成」

長崎大学地域医療フォーラム ～地域医療人育成のロードマップを描く～

日時 平成27年10月31日（土） 15:00～17:00 場所 長崎大学医学部 ポンベ会館

I 一般講演
座長 国立病院機構長崎医療センター 総合診療科 医長 和泉 泰衛先生
「いつから始める総合診療教育？」
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター
助教 松坂 雄亮 先生
「長崎から三重へ～原田直樹は何をしているか～」
三重大学大学院医学系研究科
伊賀地域医療学講座名張市立病院 総合診療科
助教 原田 直樹 先生

II 特別講演
座長 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療学講座 教授 前田 隆浩先生
「総合診療に必要な能力とその教育方法」
三重大学大学院地域包括ケア・老年医学産学官連携講座・地域医療学講座
教授 竹村 洋典 先生

医学生、地域医療を志す初期・後期研修医、地域医療あるいは家庭医に関わる医師のみなさんのご参加をお待ちしております。
(問合せ先)
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター
永田 康浩
〒852-8523 長崎市堀本1丁目12番4号
e-mail miraiyo@ml.nagasaki-u.ac.jp
TEL: 095-819-7046 FAX: 095-819-7048

(主催) 長崎大学 (共催) 日本プライマリ・ケア連合学会 長崎県支部、ながさき地域医療人材支援センター

◆大学院教育

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻

地域包括ケア学講座 地域包括ケア学分野 地域包括ケア研究医養成コース

長崎の中核病院である長崎みなとメディカルセンター 市民病院に大学院連携講座を設置し、地域包括ケア学講座を開設したことにより平成26年度からの大学院生受け入れを開始した。地域に密着した病床を有する病院へ連携講座を設置することにより、高度機能病院と地域、双方のニーズを踏まえた教育・研究・政策提言などが期待されている。また、地域フィールドに近い場所で研究を行うことで、地域の実情に基づいた研究が推進され、超高齢化社会における諸課題の実質的解決へ向けた成果に結びつける。

長崎大学大学院連携講座「地域包括ケア学」開講記念 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 市民公開講座

長崎みなとメディカルセンター 市民病院は、平成26年度に長崎大学大学院連携講座「地域包括ケア学」講座を開講し、人間性豊かな医療人の育成と医療の発展に貢献する研究の拠点となることをめざしています。今回の市民公開講座「地域で拓く長崎の医学」では、最新医療の現状を紹介し、今後地域社会で求められる研究について会場の皆様からご意見をいただきました。

「地域で拓く長崎の医学」

日時 平成27年3月1日(日)

13:00~16:00

会場 長崎市立図書館 1階多目的ホール

主催 長崎みなとメディカルセンター 市民病院

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

地域包括ケア教育センター

共催 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

社会医療科学講座地域医療学分野



長崎大学大学院連携講座「地域包括ケア学」開講記念
長崎みなとメディカルセンター市民病院 市民公開講座
「地域で拓く長崎の医学」

平成27年 **3月1日(日)** 午後1時~4時 参加無料 事前申込不要

【会場】長崎市立図書館 1階多目的ホール
【主催】長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター
【共催】長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 社会医療科学講座地域医療学分野

概要
長崎みなとメディカルセンター 市民病院は、平成26年度に長崎大学大学院連携講座「地域包括ケア学」講座を開講し、人間性豊かな医療人の育成と医療の発展に貢献する研究の拠点となることをめざしています。今回の市民公開講座「地域で拓く長崎の医学」では、最新医療の現状を紹介し、今後地域社会で求められる研究について皆様と共に考えていただきます。

▼プログラム

時間	内容	講師
13:00-13:15	ごあいさつ	
13:15-13:30	長崎みなとメディカルセンター市民病院 長崎 藤田 謙二 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 小野 正史	
13:30-13:45	地域包括ケア学講座 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 市民病院 藤田 謙二	
13:45-14:15	【開講記念】 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院	
14:15-14:45	【地域で拓く長崎の医学】 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院	
14:45-15:00	休憩	
15:00-15:30	【地域で拓く長崎の医学】 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 藤田 謙二 正史	
15:30-16:00	【地域で拓く長崎の医学】 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎みなとメディカルセンター 市民病院	
16:00-16:15	閉会挨拶 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 藤田 謙二 正史	

長崎みなとメディカルセンター 市民病院 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 社会医療科学講座地域医療学分野
TEL: 095-822-3355 FAX: 095-824-8794

Ⅲ. これまでの研究成果

長崎大学

◆第47回日本医学教育学会大会

日時：平成27年7月24日（金）～25日（土）

会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

発表者：地域包括ケア教育センター長 永田 康浩

発表形式：シンポジウム「いかにして地域包括ケアにおける学習の場を大学と地域で協働して構築してゆくか？そこから見えてくるのは何か？」

発表テーマ：「福祉・介護と連携した地域包括ケア教育」

Community-based medical education integrated social welfare and nursing care

【はじめに】高齢者社会のニーズに応える医療人育成に向けて地域包括ケアの現場を活用する医学教育に関心が高まっている。地域包括ケアの現場は、医療のゴールが治療（Cure）に留まらずケア（Care）への継続であることやそこに関わる多職種との協働により生み出される医療を超えた総合力を実感できる場として貴重な実習機会である。しかし医学教育の既存の枠組みを超える実習現場と幅広い教育ソースを活用する体制作りが重要となる。

【取り組み】平成25年度より文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業において長崎大学は地域包括ケアシステムの中でリーダーシップを発揮できる医療人育成に取り組んでいる。地域包括ケアは高齢社会に対応するための医療・介護の一体的なサービス提供システムであり、教育体制の構築においても医療、行政、福祉各分野との連携が求められるはずである。そこで、自治体と医師会へ事務員を配置し現場と大学が連携し実習教育の運営を行うこととした。また、事業の連携校で社会福祉の教育実績をもつ長崎純心大学とは教育プログラムを共有し学習時から双方向の理解が深まるように大学の枠を超えた学びの場を設けた。

【成果と展望】自治体、医師会と連携する実習運営により、医学教育に対する現場指導者の理解が深まり多職種が関わる実習が可能となった。また、短期セミナーにおいては教育背景の異なる両大学の学生が、離島地域医療の体験実習を通じて互いの視点から見えるものを確認し合い、その後の能動的な学習活動に結びついている。社会の要請に応じて始まった医学教育の動きであるが、様々な融合により予想を超える効果も感じられる。福祉、介護と連携する医学教育で得たものが将来医師としての職種協働の現場で生かされることを期待したい。

発表者：地域包括ケア教育センター助教 牟田 久美子

発表形式：口演

発表テーマ：「電子ログブックによる診療参加型臨床実習の活動評価～試用からみえた課題～」

The assessment in clinical clerkship by the electronic logbook and its assignments through the trial operation

【背景】本学の臨床実習では紙媒体による「診療参加型臨床実習における経験と評価の記録（ログブック）」を使用していたが、煩雑さから運用が浸透しなかったこと、実習全体を通じた学生の達成度評価が存在しないことが課題であった。

【目的】ICTを活用した全体共通の臨床実習評価ツール（以下、電子ログブック）の試験運用により本格導入に向けた課題を検討した。

【方法】既存のログブックをベースとして学生と教官の相互評価が可能な電子ログブックを開発した。電子ログブックでは、到達目標を診療科毎に設定し、教官側には診療科が担当する評価項目のみ表記される。学生がポートフォリオや到達目標を入力すると、教官に通知されたコメントや達成度承認の入力ができる。今回、4診療科で電子ログブックの試験運用を行い、ポートフォリオと到達目標の達成度入力について学生と診療科双方の入力状況を調査した。

【結果】ポートフォリオの入力を行った学生は延べ48名中30名で、これに対する診療科のコメント入力は、4診療科中2診療科が100%、他2診療科は各々71%、50%であった。学生の到達目標達成の入力率は紙媒体に比べて格段に上がり、93%（45/48名）だった。一方、診療科側の評価の入力率は84%（38/45名）だった。

【考察】電子ログブックでは紙媒体のログブックと比べて使用状況の改善が見込めると判断できた。各診療科の入力状況は診療科や、同一診療科の中でも教官によりばらつきがみられたことから、今後は前科で偏りのない評価の実現に向けた対応を検討していく必要がある。

発表者：地域包括ケア教育センター助教 濱口 由子

発表形式：ポスター

発表テーマ：「医学部医学科生における地域包括ケア教育プログラムの効果測定：RIPLSを用いたベースライン調査」

The evaluation of effectiveness of educational programs for community comprehensive care among medical school students in Japan by using RIPLS as outcomes:The baseline survey

【背景】本学では文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業として、2013年から地域包括ケアシステムを支える人材育成へ向けた教育プログラム開発をめざしている。このような教育プログラム開発にあたり、アウトカムに対する質的・定量的評価は、内容の充実を図るために、必要不可欠な要素である。

【目的】医学部医学生に対する多職種連携教育（IPE）プログラムの効果を評価するためのベースライン値を測定し、分析する。

【方法】対象は全医学科生（1-6年次）720名。2014年度4月から9月の間に、RIPLS日本語版（多職種連携教育に対する準備性）を用いて、教育介入前の学生のIPEへの志向性を測定した。統計学的分析は、対象の背景因子（性、年齢、学年、編入学の有無）を考慮した調整モデルによる分散分析（ANOVA）および検証的因子分析（CFA）を用いたRIPLSの感度分析を行った。

【結果】有効回答率は、全体で30.9%。介入開始時点でのRIPLSのスコア平均値は、全体で72.1（SD10.04）、学年別に1年次から6年次の順に、73.9(SD11.4)、72.0(SD7.6)、71.5(SD8.3)、71.6(SD6.9)、77.2(SD9.1)および68.0(SD10.9)であった。ANOVAの結果、5年次のスコアが有意に高かった（平均値77.15、SD9.08、 $p=0.0202$ ）。CFAによる本対象におけるRIPLSの感度分析の結果、先行文献と同様の結果を得られた（尺度全体のCronbach α 0.91）。

【考察】地域包括ケア教育プログラム介入開始時点におけるIPEに対する医学生の反応を、ベースライン値として測定するとともに、RIPLSのアウトカム指標としての精度を検証することができた。今後は、地域包括ケアにおけるIPEの効果を測定するために、医学部医学科生および他学科生を対象に、経時的な検証を行っていく必要がある。

◆第115回 日本外科学会定期学術集会

日時：平成27年4月16日（木）～18日（土）

会場：名古屋国際会議場

発表者：地域包括ケア教育センター助教 久芳さやか

発表形式：特別企画「日本外科学会が目指すべき男女共同参画とは？」

演題名：「男女が共に医師として仕事を継続できるために医学教育としてできることは？」

The role of medical education on continuity of doctor's carrier in life.

【背景】外科医不足解消のためには外科医を増やす事とともに外科医を継続させることも重要であり、仕事の継続にはモチベーションが必要である。当大学ではメディカル・ワークライフバランスセンターによる職場環境の充実だけでなく、2年前から医学生に対してワークライフバランス(WLB)・キャリアデザインの講義を開始した。【目的】WLBやキャリアデザインに関する医学生の意識とニーズを調査し、仕事への意欲を抱くための教育や外科医としての役割について考察する。【方法】対象は当大学の医学生、WLBやキャリアデザインに対する認識、仕事の継続に対する意識などについてアンケート調査を行った。【結果】回答数は718人中186名(男:134、女:52)、回答率26%。WLB講義受講の有無でWLBに関する理解の差を認めしたが(60% vs 32%, $p=0.002$)、その理解の有無により仕事・私生活のプランを具体的に立てた割合に差はなかった。キャリアデザインに関し、理想の医師像を153人(82%)が持ち、その像はこれまで出会った医師など身近な人物が60%と最も多かった。理想の医師像をもつ者はない者と比べ10年後の自分(40% vs 15%, $p=0.008$)、仕事のプラン(77% vs 42%, $p=0.0002$)、私生活のプラン(60% vs 18%, $p<0.0001$)を具体的に考えていた。仕事の継続に関して全学生の71%が仕事と家庭の両立に不安があり、女子の81%はキャリアデザインを考える機会の増加を希望した。【考察】講義のみでは実際のキャリアデザインを具体的に描くことに結びつかず、能動的な授業の導入が必要とである。キャリア継続には使命感・責任感を重視する医師が多いと報告もあり、外科では特に臨床実習を通し、学生にvisionや理想の医師像を描けるような指導を考えたい。【結語】男女に関わらず医師を継続する意欲を育むには学部早期よりキャリアデザインに関する能動的教育の機会を創出し、そこにロールモデルとして外科医は積極的に関わるべきである。

学生発表

◆第47回日本医学教育学会大会

日時：平成27年7月24日（金）～25日（土）

会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

発表者：長崎大学医学部医学科 6年 山崎 愛子

発表形式：シンポジウム「よりよい地域医療臨床実習の在り方」

発表テーマ：「6年間を通して体験してきた地域医療教育を振り返り、いま感じること」

Community based medical education in Nagasaki



長崎大学では、平成16年から離島を拠点とする地域医療実習が始まり、これを契機として県内いくつかの地域でそれぞれの医療現場に応じた地域医療実習が行われるようになった。今回これまで自身が体験してきた地域医療実習を振り返り、学生の立場から感じていることを述べたい。

現在5年次の「地域医療実習」は必修であり、長崎市内と県央地域、そして離島地域にそれぞれ1週間滞在し包括的な地域医療を学ぶ実習を行っている。一方、地域枠で入学した学生は、1年次より夏季休業期間に開催される短期集中の地域医療セミナーへ参加している。さらに、自身は地域枠入学者として地域医療に関して前向きに学んできたため地域医療に関心を持つ学生たちと共に各種勉強会やセミナーに参加し、ときに企画の立場も経験した。

これらの実習や活動を通じ、地域の特徴を生かした実習や企画により学内実習では得ることができない多くの経験を積むことができた。しかし、実習機会が増え地域の幅広いニーズに応える医療現場を実感するにつれて、卒後の進路についてはむしろ不安が増幅していることも事実である。単純に地域を眺めただけでは十分とは言えず、受けてきた教育を初期研修以降にどのように活かすべきなのか。現在の教育内容が抱える問題点とは何か。本シンポジウムではこれらについて大学を超えて課題を共有し、今後の地域医療教育のあり方に繋がる討論の機会としたい。

○第4回全国シンポジウム

「日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える2015」

日時：平成27年11月7日（土）

会場：秋田キャッスルホテル

長崎大学・長崎純心大学

梅本由衣¹⁾、鈴木結子²⁾、石丸阿佐美³⁾、真島由佳⁴⁾、小川由一⁵⁾、山口由希⁶⁾、金子紅真⁷⁾、松崎翔太⁸⁾、内田由希⁹⁾、芳田彩夏¹⁰⁾、横山千夏¹¹⁾、川口裕貴¹²⁾、尾崎美穂¹³⁾、小塚松子¹⁴⁾、門田耕一郎¹⁵⁾、山崎友友¹⁶⁾、清水悠悠¹⁷⁾、奥村あすか¹⁸⁾、吉田麻衣¹⁹⁾、宮崎唯那²⁰⁾、高橋有斗²¹⁾、吉田真由²²⁾、前田真希²³⁾

1) 長崎純心大学文学部現代福祉学科3年 2) 長崎純心大学文学部人間心理学科3年
3) 長崎純心大学文学部現代福祉学科2年 4) 長崎純心大学文学部現代福祉学科4年
5) 長崎大学医学部医学科2年 6) 長崎純心大学文学部現代福祉学科4年
7) 長崎大学医学部医学科1年
8) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 社会医科学講座 地域医療学分野
9) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医務・人学地域医療学 離島医療研究科
10) 長崎純心大学 医療・福祉連携センター
11) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター

第3回 長崎地域医療セミナー in GOTO
～五島に来て、見て、気づいた多職種連携 広がる可能性～

1. 研修概要
目的：長崎県五島市での「保健・医療・福祉施設見学」と「講義・実習」を通して、地域における保健・医療・福祉の役割と機能を学ぶ。見学と講義を通じて学習した内容をもとに、退院前カンファレンスを想定した多職種ワークショップを通じて、地域包括ケアが必要とされる多職種連携の方法を考え、各専門職と連携するための能力と価値観を育む。

日 程：平成27年8月21日（金）～23日（日）（2泊3日）
参 加 者：長崎大学医学部産学科（1,2,3年生）、長崎純心大学文学部現代福祉学科（2,3,4年生）、久留米大学大学院比較文化研究科保健社会福祉学コース1年生、久留米大学医学部医学科2,3,4年生、近畿大学医学部医学科6年生、徳島大学医学部医学科4年生、日本大学医学部医学科2年生、山口大学医学部医学科2年生 合計42名

主 催：長崎大学、長崎地域医療セミナー実行委員会
共 催：長崎県、五島市、五島医師会、長崎県五島中央病院、長崎純心大学医療・福祉連携センター

2. 企画・運営の軌跡
平成26年度セミナーを終えて
見学の多様化を
同じ五島列島でも、他の島の医療はどうなっているのか？
見学した医療施設以外に、福祉施設は充実しているのか？
福祉系講義の充実を
家庭医療や救急救命などの医学系講義に加え、福祉系講義をより充実させたい！
多職種連携や地域包括ケアを、より具体的に学ぶ機会を
多職種連携が大切であることは、昨年度理解できた。
その次に、いつ連携があるのか？福祉って何するの？
連携のシーンを知りたい、行なってみたい！

本年度（平成27年度）の企画方針
学生実行委員が主体となった提案
・平成26年12月に学生自ら学生実行委員会を設立させ、Kickoff meetingを開催。
・去年度の学生の意見、感想をもとに、お呼びしたい講師リストや講義内容、見学先の候補やスケジュール案を作成し、「企画書」として先生方に提案した。
多職種連携とは「何？」から「どうするか？」へ
多職種連携をテーマに、学生が「具体性」を追求できるセミナーの実現を目指した。実際の多職種連携の場面を想定し、事例を用いたワークショップを企画した。
学生の提案と先生方の助言・指導により実現へ
前回の「長崎家庭医療実習中セミナー」から10年目を数える地域医療セミナーの伝統を踏襲し、施設見学で地域の実情に触れつつ講義・実習を行うことを軸とした。加えて、学生実行委員が新しいアイデアを提案し、それに対し先生方が助言・指導と各種調整を行なって頂くことで、学生の意向がより反映されたセミナーを共に作り上げた。

長崎大学・長崎純心大学

横山千夏¹⁾、内出由子²⁾、川口裕貴³⁾、芳田彩夏⁴⁾、尾崎美穂⁵⁾、梅本由衣⁶⁾、鈴木結子⁷⁾、石丸阿佐美⁸⁾、真島由佳⁹⁾、小川由一¹⁰⁾、金子紅真¹¹⁾、松崎翔太¹²⁾、小塚松子¹³⁾、門田耕一郎¹⁴⁾、山崎友友¹⁵⁾、清水悠悠¹⁶⁾、奥村あすか¹⁷⁾、吉田麻衣¹⁸⁾、宮崎唯那¹⁹⁾、高橋有斗²⁰⁾、吉田真由²¹⁾、前田真希²²⁾

1) 長崎純心大学文学部現代福祉学科3年 2) 長崎大学医学部医学科2年
3) 長崎純心大学文学部現代福祉学科2年 4) 長崎純心大学文学部現代福祉学科4年
5) 長崎純心大学文学部人間心理学科3年 6) 長崎大学医学部医学科3年
7) 長崎大学医学部医学科1年
8) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 社会医科学講座 地域医療学分野
9) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医務・人学地域医療学 離島医療研究科
10) 長崎純心大学 医療・福祉連携センター
11) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター

「長崎多職種連携・たまごの会」
～たまごたちが動きだした！医療と福祉のイノベーション from 長崎～

1. 「たまごの会」立ち上げまでの経緯

2014年8月 第2回長崎地域医療セミナー in GOTO
長崎純心大学が共同に加わり、初めて福祉系学生が参加した。福祉系学生と医学系学生が共に同じ経験をしたいにも関わらず、両者の情報共有は難しかった。

2014年9～10月 発表準備
セミナーでの気づきを整理化

2014年11月 第3回秋田全国シンポジウム in 秋田 学生セッション
両大学生が五島セミナーについての発表をするために、何度も勝ち負けを繰り返して話し合い、準備をした。経験世界の違いについて語り合うにつれ、その気づきは「医療と福祉のフレームの違い」だったことを確認した。

2014年12月 退院前カンファレンス打ち合わせ見学
医師と社会福祉士、特に医療ソーシャルワーカー（MSW: Medical Social Worker）が参加する退院前カンファレンスに興味を持ち、その打ち合わせ会議を見学させて頂いた。専門分野の知識のみならず、患者・利用者の立場、変更は不可欠と改めて気づいた。

2015年3月 島影学院の方向性を探るための有識者会議
参加者で話し合い、サクリル化すること。
・協議会の紹介や周知がしやすく、仲間を増やしやすい→社会的承認
・原資する場が、卒業しても残ってきやすい→基盤・ネットワーク化
・顧問の先生に相談しやすい→学生が持たない「社会課題のフル活用」という点から協議会をサークル化することを決めた。

2015年1月 Kickoff 勉強会「多職種連携を遊べる」
見学の気づきや学びを共有する勉強会を開催した。事例を作成し、疑問・後、半年後、1年後と時系列で思考・利用者のニーズとその対応方法を考えた。ニーズを出した際、医学系学生は「病気を治すこと」、福祉系学生は「利用者とその環境を共に生きていくこと」に重点を置いていた。一専門分野が異なることによる考え方・捉え方（＝フレーム）の違いを再認識した。

2015年3月 長崎多職種連携・たまごの会 結成
「多職種のたまご同士が生きた知識を教え合い共に育つ場づくり、そして地域包括ケアを引っ張っていく存在になる」
この目標に向けて「長崎多職種連携・たまごの会（以下「長崎たまごの会」）」が発足した。



1. 学会での発表

日本老年社会科学会第57回大会

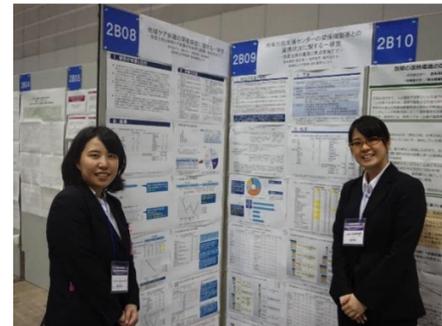
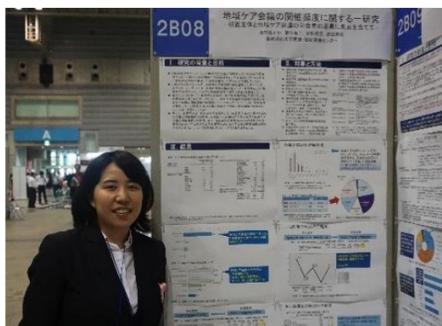
期 日：平成27年6月12日（金）～14日（日）

場 所：パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい）

大会長：高橋 龍太郎 氏（東京都健康長寿医療センター研究所 副所長）

○ ポスター発表 介護保険・介護サービス

- ・発表Ⅰ 「地域ケア会議の開催頻度に関する一研究 –設置主体と地域ケア会議の司会者の差異に焦点を当てて–」（奥村あすか助教）
- ・発表Ⅱ 「地域包括支援センターの関係機関等との連携状況に関する一研究 –設置主体の差異に焦点を当てて–」（吉田 麻衣助教）



参加者：潮谷 有二教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教

なお、発表資料は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。

(<http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/research/>)

第20回日本在宅ケア学会学術集会

期 日：平成27年7月18日（土）～19日（日）

場 所：一橋大学一橋講堂

学術集会長：亀井 智子氏（聖路加国際大学看護学部老年看護学）

○ 一般演題：口演1群：ケアマネジメント

- ・発表Ⅰ 「地域包括ケアの推進要件に関する一研究 –自由記述の分析を通して–」（吉田 麻衣助教）
- ・発表Ⅱ 「地域ケア会議の開催頻度に関する一研究 –自由記述の分析を通して–」（奥村あすか助教）



参加者：潮谷 有二教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教

なお、発表資料は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。

(<http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/research/>)

日本社会福祉学会第63回秋季大会

期 日：平成27年9月19日（金）～20日（日）

場 所：久留米大学御井キャンパス

大会長：永田 見生氏（久留米大学 学長）

○ 口頭発表B 地域福祉3分科会

- ・発表Ⅰ「地域包括支援センターの職員が認識している地域包括ケアの推進要件について -テキストマイニングによる自由記述の分析を通して-」（吉田 麻衣助教）
- ・発表Ⅱ「地域包括支援センターの職員が認識している地域ケア会議の開催要件について -テキストマイニングによる自由記述の分析を通して-」（奥村あすか助教）
- ・司会者：成田 光江氏、潮谷 有ニ氏 全体総括者：平野 隆之氏



参加者：潮谷 有ニ教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教

なお、発表資料は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。

(<http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/research/>)

2. 研修会・講演会等での発表

聖フランシスコ病院職員研修会

日 時：平成27年9月3日（木）17:30～

場 所：聖フランシスコ病院（長崎市小峰町）

テーマ：「地域包括ケアシステムと病院の果たす役割」

講 師：長崎純心大学教授・長崎純心大学医療・福祉連携センター長
潮谷 有ニ氏

演 題：「地域包括ケアシステムについて」

概 要：① 長崎純心大学医療・福祉連携センターについて

② 社会福祉を取り巻く状況

③ 社会保障制度の変遷と90年代以降の福祉政策

④ 平成23年介護保険法等の改正と地域包括ケアシステム

⑤ 社会保障と税の一体改革と地域包括ケアシステム

⑥ 平成26年介護保険法等の改正と地域包括ケアシステム

⑦ これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書（2008年3月31日）の論点

参加者：① 病院関係者

大曲病院長、石岡宗教部長、堀江看護部長、竹口事務長ほか約90人

② 地域包括支援センター関係者

長崎市江平・山里地域包括支援センター、長崎市西浦上・三川地域包括支援センター
長崎市緑が丘地域包括支援センターの関係職員

③ 医療・福祉連携センター

宮野澄男准教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教、森事務



島の介護と医療を考える講演会

日 時：平成27年11月14日（土）

場 所：新上五島町石油備蓄記念会館 2階大会議室

テーマ：「この島で生きる」

主 催：新上五島町、新上五島町地域包括支援センター

共 催：長崎県上五島病院

概 要

- 開 会
- 主催者あいさつ
- 講 演
 - ①「新上五島町の医療・介護・福祉事情について」
長崎県上五島病院 院長 八坂 貴宏 氏
 - ②「新上五島町地域包括支援センターの活動について」
新上五島町地域包括支援センター 管理者 林田 京子 氏
- 特別講演
「地域包括ケアシステムについて」
長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長 潮谷 有二 氏
- 総合討論 ディスカッション
- 閉 会 参加者：潮谷 有二教授、吉田 麻衣助教



第52回九州医療ソーシャルワーカー研修会さが大会

期 日：平成27年11月21日（土）～22日（日）

場 所：武雄市文化会館（佐賀県武雄市）

テーマ：『地域で暮らすを支える 第弐幕』～地域包括ケアとソーシャルワーク～

主 催：九州医療ソーシャルワーカー協議会、第52回九州医療ソーシャルワーカー研修会 さが大会 実行委員会

後 援：九州医療ソーシャルワーカー協議会、佐賀県医師会 佐賀県看護協会 佐賀県社会福祉士会 他 県内の関係各団体

- 教育講演「認定社会福祉士制度について」～地域包括ケアシステムを視野に入れて～
潮谷 有二 氏（長崎純心大学現代福祉学科教授）
- シンポジウム「それぞれの立場から考える地域包括ケアと権利擁護」
古賀 義行 氏（武雄杵島地区医師会会長 敬天堂古賀病院理事長）
- ・シンポジスト 潮谷 有二 氏（長崎純心大学現代福祉学科教授）
江越 正嘉 氏（わかくす法律事務所 弁護士）
山口 光之 氏（佐賀県中部保健福祉事務所 所長 行政職）
永松五百重 氏（武雄杵島地区医師会きしま訪問看護ステーション管理者 看護師）
松永 幸子 氏（NPO法人 幸の輪 代表 社会福祉士）
桧枝 和広 氏（一般社団法人 仲間たち 代表 独立型社会福祉士）

参加者：潮谷 有二教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教



大阪府立大学21世紀科学研究機構「教育福祉研究センター」 第4回キックオフセミナー

期 日：平成27年9月26日（土）

場 所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

テーマ：「すべての子どもを包括する支援システム:学際的議論 —『学校プラットフォーム』の
意味とは—」

主 催：大阪府立大学21世紀科学研究機構スクールソーシャルワーク評価支援研究所・教育福祉研究センター・地域保健学教育
福祉学類

後 援：大阪府・大阪府教育委員会・一般社団法人日本社会福祉士養成校協会・堺市教育委員会・公益社団法人日本社会福祉士会

概 要

○ 基調講演 1

「福祉政治学の立場から」 宮本 太郎 氏（中央大学教授）

○ 基調講演2

「教育行政学の立場から—国の教育政策や自治体の取組み動向—」

小川 正人 氏（放送大学・東京大学名誉教授・中教審副会長）

○ 討 論

大谷 圭介 氏（文部科学省生涯学習政策局参事官 子供の貧困担当）

坪田 知広 氏（文部科学省初等中等教育局児童生徒課長）

中野 澄 氏（国立教育政策研究所総括研究官）

松田 恵示 氏（東京学芸大学教授・学長補佐）

○ コメント

古川 夏樹 氏（厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課長）

○ 進 行

潮谷 有 二 氏（長崎純心大学 教授（元厚生労働省専門官・社養協事務局長代理））

山野 則子 氏（大阪府立大学21世紀科学研究機構スクールソーシャルワーク
評価支援研究所 所長）



参加者：潮谷 有 二 教授、吉田 麻衣 助教

3. 「地域包括ケア論」の開講

授業のねらい

超高齢社会を迎える中、医療と介護を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっている。また、地域包括ケアを進める上で、近年、多職種連携の必要性が増している。したがって、多職種で連携ができる資質を学部教育の中で養うことは、今後、地域包括ケアシステムを各地域で構築する上では肝要なプロセスであると考えられる。

そこで、本授業では、地域包括ケアシステムの理解はもとより、長崎大学医学部生との共修を通じて多職種連携に必要な資質を実践的に学ぶことを目的としている。

一般目標 (GIO)

地域包括ケアの現状や諸課題を通して、地域包括ケアシステムに関する基礎的・基本的な内容を理解するとともに、長崎大学医学部との共修を通して、地域包括ケアシステム構築の基盤ともなる将来の多職種連携に繋がる資質を実践的に養う。

行動目標 (SBOs)

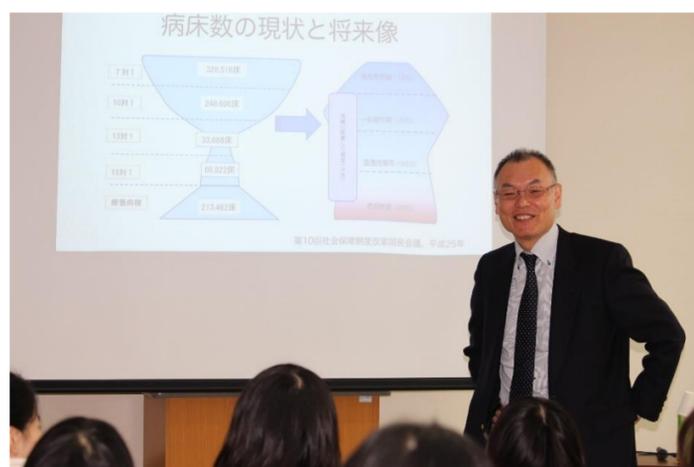
- SBO01：地域包括ケアシステムを取り巻く社会的背景や現状、諸課題を理解することができる。
- SBO02：地域包括ケアシステムの基本理念を理解することができる。
- SBO03：地域包括ケアシステムを構成する基本的な要素について理解することができる。
- SBO04：関係団体との連携を深め、医療・介護・予防を一体的に提供することにより、住み慣れた地域での生活を支える仕組みが構築できることを理解することができる。
- SBO05：地域包括ケアシステムの構築に関心を持ち、今後の学習に生かそうとする意欲を持つことができる。
- SBO06：急性期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができる。
- SBO07：回復期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができる。
- SBO08：地域包括ケアの推進における医療と福祉との多職種連携の意義について理解することができる。
- SBO09：地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割や業務内容を理解することができる。
- SBO10：地域包括支援センターによる関係機関等との連携など地域のネットワークづくりの実際を理解することができる。
- SBO11：地域ケア会議の設置及び運営並びに諸課題について実践事例をもとに理解することができる。
- SBO12：地域ケア会議が個別ケースに留まることなく、地域課題を関係者と共有し、課題解決に向けて新たな社会資源の開発、さらには政策形成化など、ボトムアップする機能を有していることを理解することができる。
- SBO13：地域ケア会議における地域の多職種や住民等、関係者間の連携や協働の重要性について理解することができる。
- SBO14：地域包括ケアにおける地域ケア会議の役割について理解することができる。
- SBO15：共修授業を通して、見方や考え方の異なる他の大学生と協働して課題解決に取り組むなど、多職種連携の基盤となる実践的な態度を養うことができる。

授業計画

長崎純心大学医療・福祉連携センター

日時	タイトル	講師等
9月28日(月) (18:00~19:30)	地域包括ケア論とは	長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長 潮谷有二 教室：長崎純心大学三ツ山キャンパスS310
10月3日(土) (10:40~12:10)	地域におけるケアシステムの現状と課題(1) ～地域包括ケアシステムを支える地域包括支援センターの役割～	長崎市民局福祉部福祉総務課 保健師(前福祉部理事) 吉峯悦子 教室：長崎純心大学地域連携センター
10月3日(土) (12:55~14:25)	地域におけるケアシステムの現状と課題(2) ～地域包括支援センターと関係機関との連携の実際～	長崎市民局福祉部福祉総務課 保健師(前福祉部理事) 吉峯悦子 教室：長崎純心大学 地域連携センター
10月5日(月) (18:00~19:30)	地域包括ケアシステム構築のための理論と手法	長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長 潮谷有二 教室：長崎純心大学三ツ山キャンパスS310
10月24日(土) (9:00~10:30)	地域におけるケアシステムの現状と課題(3) ～急性期退院カンファレンスと多職種連携～	長崎みなとメディカルセンター市民病院 医療ソーシャルワーカー(社会福祉士) 宮川江利 教室：長崎純心大学地域連携センター
10月24日(土) (10:40~12:10)	地域におけるケアシステムの現状と課題(4) ～回復期退院カンファレンスと多職種連携～	社会医療法人春回会 長崎北病院 医療ソーシャルワーカー(社会福祉士) 井上加奈子 教室：長崎純心大学地域連携センター
10月28日(水) (14:40~16:10)	オリエンテーション及び地域包括ケア論	長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長 潮谷有二 教室：長崎純心大学地域連携センター 長崎大学医学部坂本キャンパス
11月4日(水) (13:00~14:30)	講義及びワークショップ①(事例検討) ～ディスカッション～	長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長 潮谷有二、宮野澄男、奥村あすか、吉田麻衣 長崎大学地域包括ケア教育センター センター長 永田康浩、関係教職員 長崎大学医学部保健学科 理事 松坂誠徳、関係教職員 教室： 長崎純心大学地域連携センター 長崎大学文教キャンパス(スカイホール、A11、G3A、A33)
11月4日(水) (14:40~16:10)	ワークショップ②(事例検討) ～発表準備(グループ別)～	
11月11日(水) (13:00~14:30)	ワークショップ③(医療・保健・福祉の連携) ～プレゼンテーション(各教室別)～	
11月11日(水) (14:40~16:10)	ワークショップ④(医療・保健・福祉の連携) ～プレゼンテーション(優秀グループによる)～	
11月28日(土) (10:40~12:10)	医療と介護・福祉サービスにおける多職種連携 ～地域・チームで高齢者等を支える仕組み～	長崎大学地域包括ケア教育センター センター長 永田康浩 教室：長崎純心大学地域連携センター
11月28日(土) (12:55~14:25)	地域ケア会議の開催(1) ～地域課題の共有、社会資源開発、政策形成～	佐々町地域包括支援センター 係長 江田佳子 教室：長崎純心大学 地域連携センター
12月12日(土) (10:40~12:10)	地域ケア会議の開催(2) ～多様な職種や機関等との連携協働～	島原市地域包括支援センター 所長 辻 敬子 教室：長崎純心大学地域連携センター
12月12日(土) (12:55~14:25)	地域包括ケア論総括	長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長 潮谷有二 教室：長崎純心大学地域連携センター

※ 朱で囲まれた部分が長崎純心大学と長崎大学医学部との共修授業です。

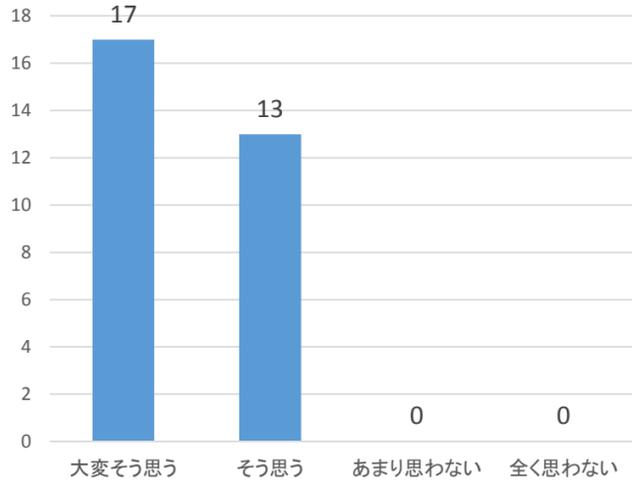


地域包括ケア論第12講授業評価

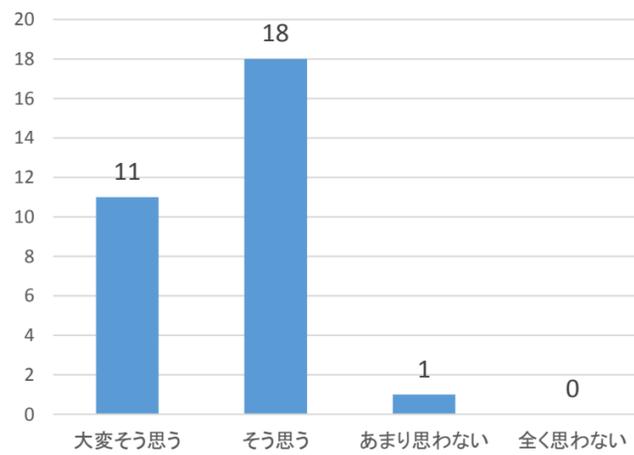
「医療と介護・福祉サービスにおける多職種連携～医療の視点からみる地域包括ケアシステム～」

講師：長崎大学地域包括ケア教育センター センター長（教授）永田康浩

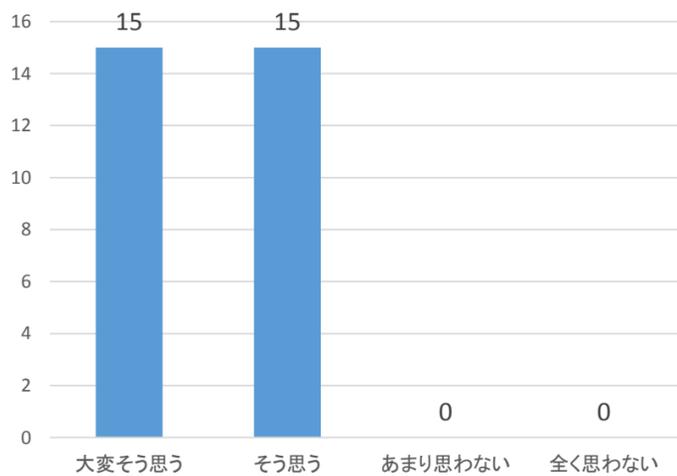
問1. 今日の私は、授業に対して意欲的に取り組んだと思う。(n=30)



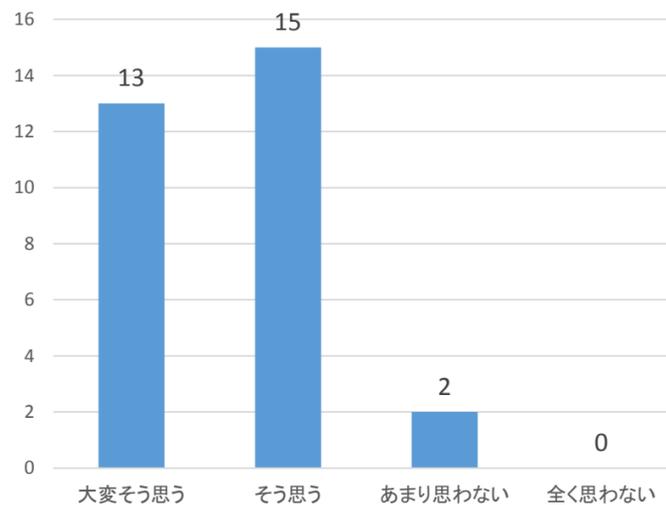
問2. 今日の私は、本時の学習課題を理解して授業に臨んだと思う。(n=30)



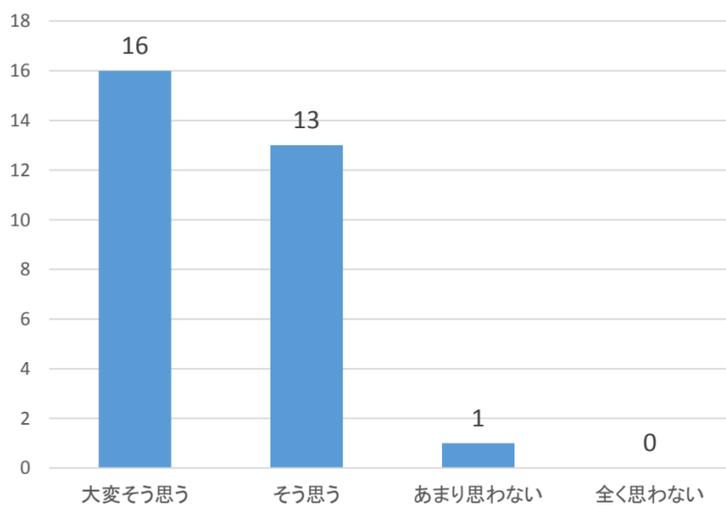
問3. 本日の授業でわからないところがあれば、私は、自分で調べたり、先生や友だちに質問したりするつもりでいる。(n=30)



問4. 今日の私は、授業で学習した内容はだいたい理解したと思う。(n=30)



問5. 今日の私は、授業で「わかった」「できた」という達成感をもつことができたと思う。(n=30)



【学生の感想】

○今日の講義は医療の視点から地域包括ケアについて学ぶことができた。医療は主に病気になってから活用することが多いが、なってからではなく、予防としても考えていくことが必要だということ、また、医療のゴールは病気を治すことではなく、患者が地域で生活していけるようにすることだということをとて考えさせられた。医療分野での連携は、医療分野での連携と多職種の二つに分かれるが、どちらにせよ、メリットとデメリットがある中でどれほどのデメリットを感じずに、多職種連携できるかという点に着目する必要があることを感じた。また、その際にはチームワークの目的は「成果」を出すことではなく、メンバーが気持ちよく仕事ができるよう配慮することが重要でその姿勢が患者の幸せにもつながっていくのではないかと考えた。

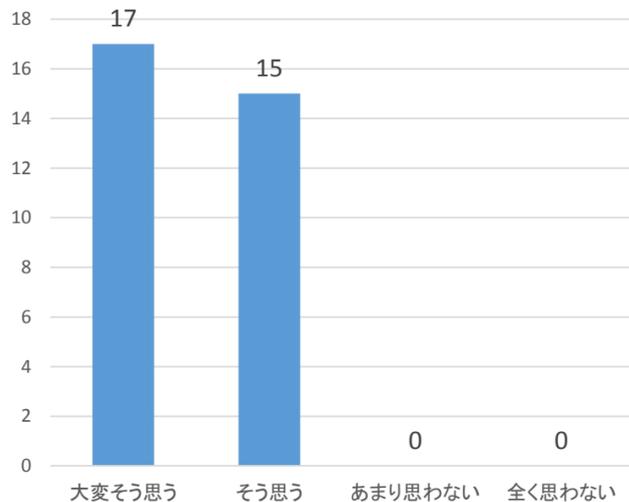
○今日は、医療の視点からみる地域包括ケアシステムについて講義をしていただき、改めて多職種連携の必要性や異なる視点を持つ者同士リスpektし合うことの重要性を学ぶことができた。私は医療ソーシャルワーカーを目指しているので、本日の講義の内容を十分に吸収し、活かしていきたいと思う。

地域包括ケア論第15講授業評価

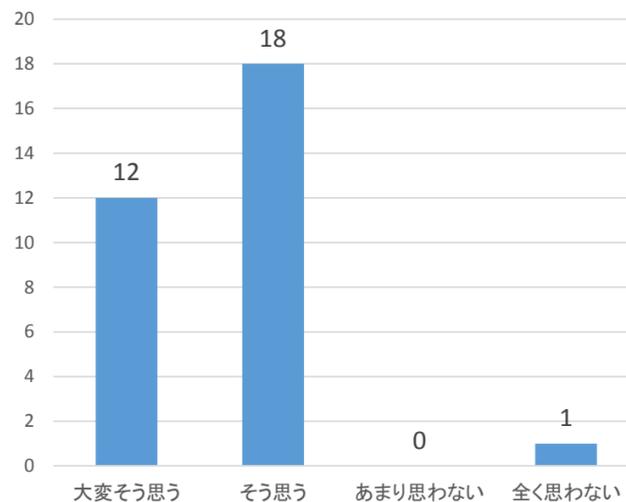
「地域包括ケア論総括」

講師：長崎純心大学医療・福祉連携センター センター長（教授）潮谷有二

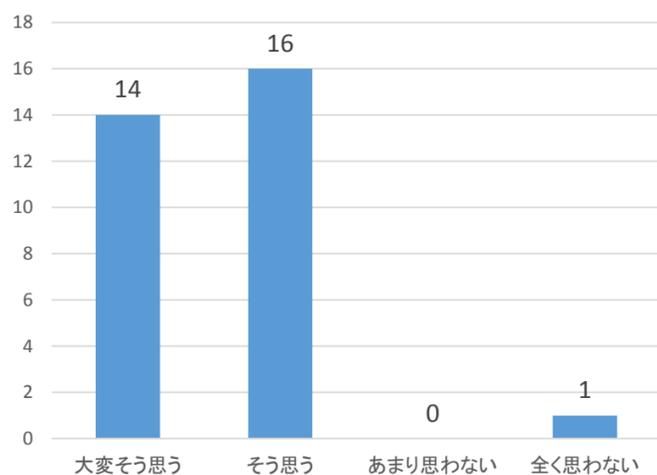
問1. 今日の私は、授業に対して意欲的に取り組んだと思う。(n=32)



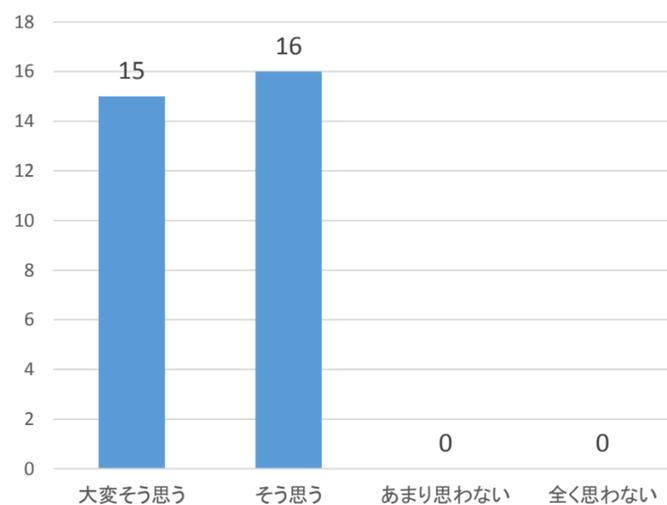
問2. 今日の私は、本時の学習課題を理解して授業に臨んだと思う。(n=31)



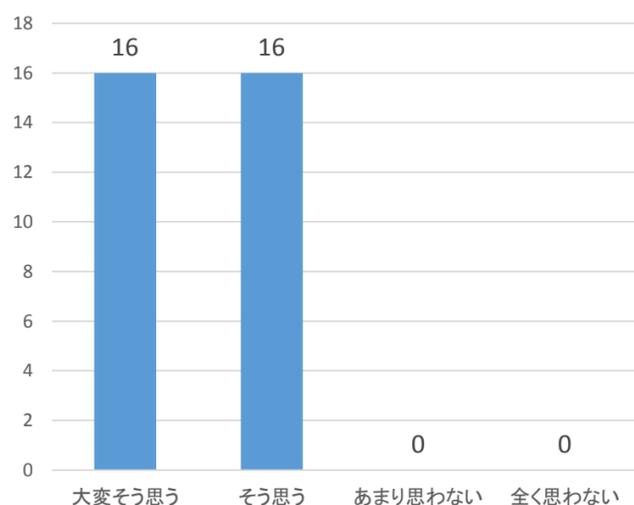
問3. 本日の授業でわからないところがあれば、私は、自分で調べたり、先生や友だちに質問したりするつもりでいる。(n=31)



問4. 今日の私は、授業で学習した内容はだいたい理解したと思う。(n=31)



問5. 今日の私は、授業で「わかった」「できた」という達成感をもつことができたと思う。(n=32)



【学生の感想】

○15回講義で現場で働く方々のお話をお聞きすることができたこと。共修授業で長大の方と学ぶことができ、とても充実した時間となりました。学んだことを今後生かしていきたいです。そしてこれからも学び続けるということ大切にしたいです。ありがとうございました。

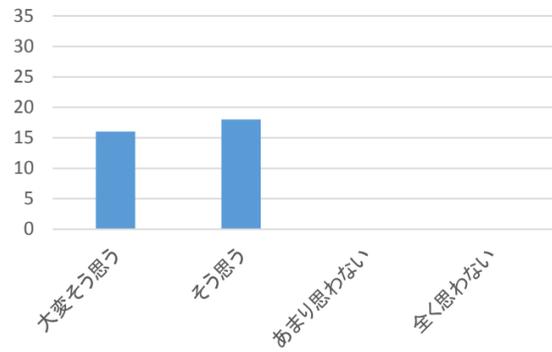
○医学部生との話し合いをして、自分の意見や考えを相手に伝えることや理解・納得してもらえるように説明する難しさを感じたが、福祉からの視点を医学部生の前で話せて、少しは分かってくれたと思うと嬉しいし、達成感も少しあります。来年のこの企画はより良いものになり、医学との連携が深くなれば良いと思います。

○15回の講義を経て、教科書にないような現場のこと、支援の実際を学ぶことができた。また、共修授業を通して医療分野の知識を新たに吸収したり、自分の福祉の知識が浅いということを見つめ直す機会になった。本講義で得た学び・経験を、これからの学習にも活かしていきたい。活かしていけるよう、より学習しなければならないと感じた。

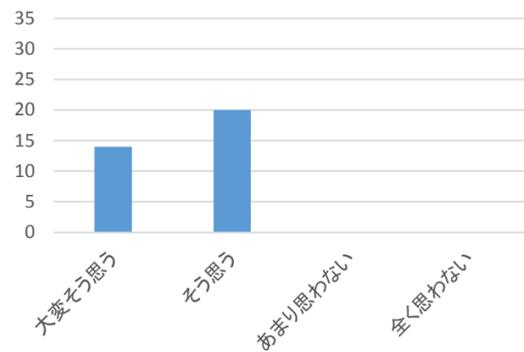
「地域包括ケア論」SBOs授業評価

地域包括ケアシステムについて

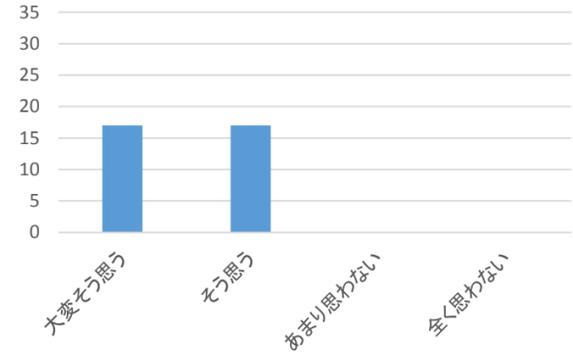
EC01 私は、地域包括ケアシステムを取り巻く社会的背景や現状、諸課題を理解することができた。



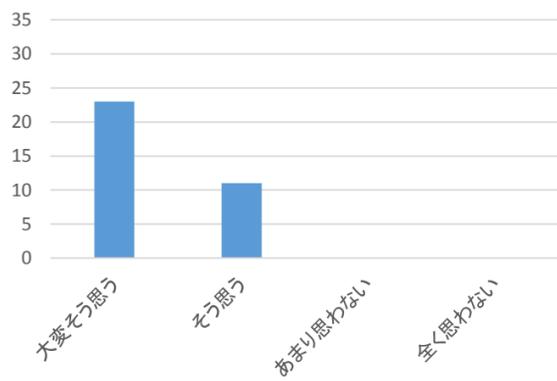
EC02 私は、地域包括ケアシステムの基本理念を理解することができた。



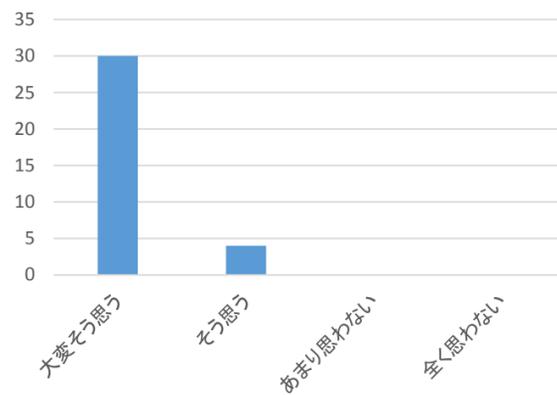
EC03 私は、地域包括ケアシステムを構成する基本的な要素について理解することができた。



EC04 私は、関係団体との連携を深め、医療・介護・予防を一体的に提供することにより、住み慣れた地域での生活を支える仕組みが構築できることを理解することができた。

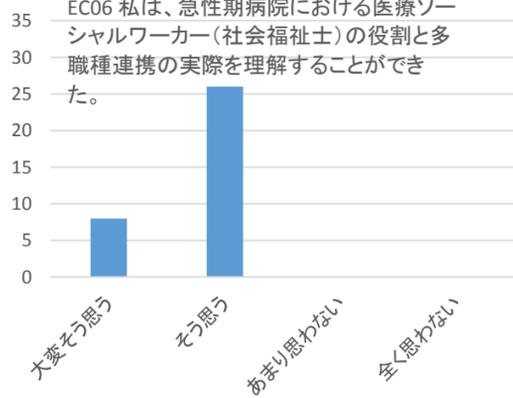


EC05 私は、地域包括ケアシステムの構築に関心をもち、今後の学習に生かそうとする意欲を持つことができた。

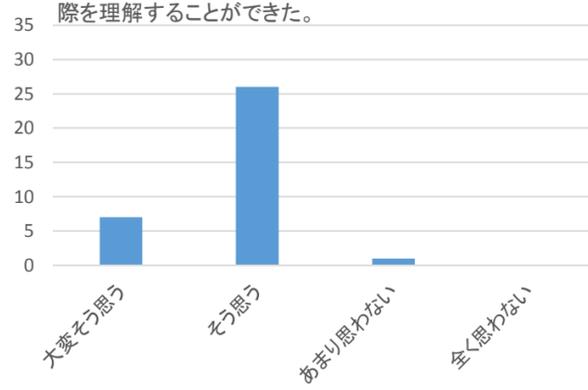


多職種連携について

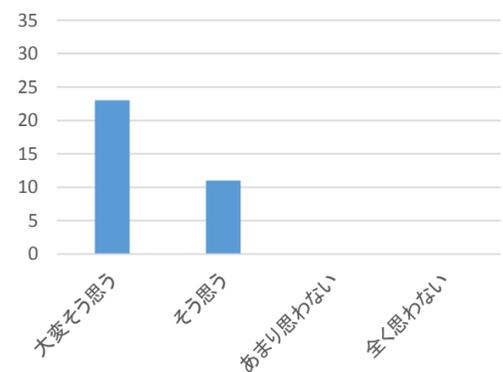
EC06 私は、急性期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができた。



EC07 私は、回復期病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と多職種連携の実際を理解することができた。

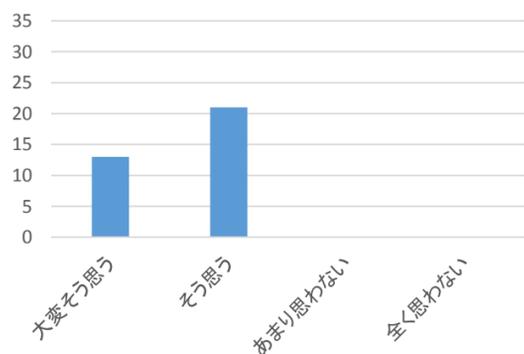


EC08 私は、地域包括ケアの推進における医療と福祉との多職種連携の意義について理解することができた。

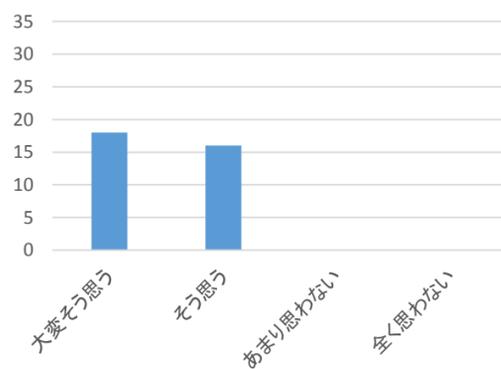


地域包括支援センターについて

EC09 私は、地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割や業務内容を理解することができた。

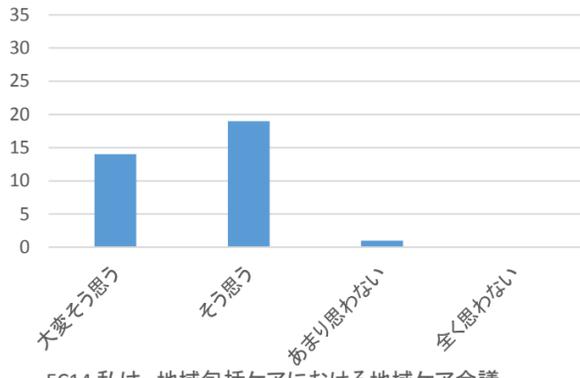


EC10 私は、地域包括支援センターによる関係機関等との連携など地域のネットワークづくりの実際を理解することができた。

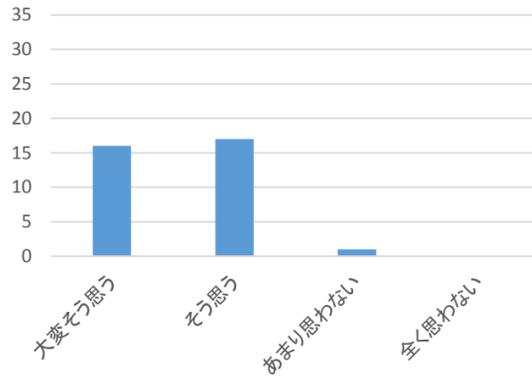


地域ケア会議について

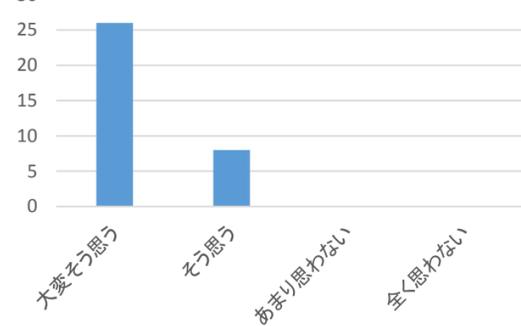
EC11 私は、地域ケア会議の設置及び運営並びに諸課題について実践事例をもとに理解することができた。



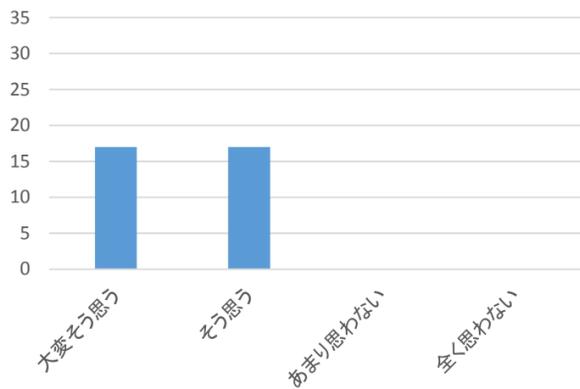
EC12 私は、地域ケア会議が個別ケースに留まることなく、地域課題を関係者と共有し、課題解決に向けて新たな社会資源の開発、さらには政策形成化など、ボトムアップする機能を有していることを理解することができた。



EC13 私は、地域ケア会議における地域の多職種や住民等、関係者間の連携や協働の重要性について理解することができた。



EC14 私は、地域包括ケアにおける地域ケア会議の役割について理解することができた。



【学生の感想】

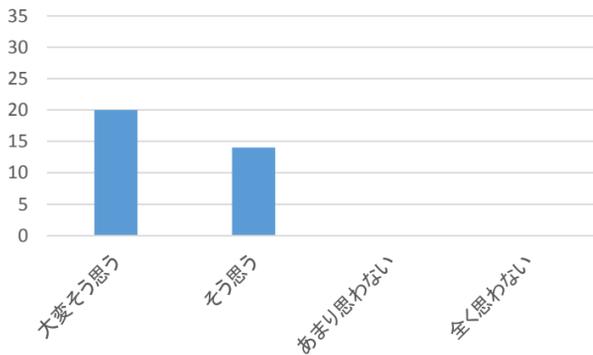
○医療と福祉とは、それぞれ違う視点で考えていると思っていたが、そうではなく多職種連携を行うことによって、利用者という相手がいる中で成り立つものであり、それぞれの専門性をいかに広げることができるのが重要であるのだと思った。共通の言葉もあり、医療のことも私たちも学ぶことはこれからにつながるだろうと思っている。とてもいい学びになった。

○多職種連携の大切さを講義の中でできき、理解することができているものの、実際のディスカッションの場では、連携して相手に自分の伝えたいことが伝えられるようにすることの難しさを感じた。しかし、前もつての準備や、伝えるための気持ちを持ってむかえることでグループに一人でアウェイな状況でも対応することができ、自分に自信を持つことができた。

○初め、私についていけるのかと不安で参加し、あっという間の15回でした。参加する中で多くの新たな学びがあり、また長大の学生との共修授業もあり、参加してよかったと思いました。これまでの学びを活かし、地域包括ケアや自分の生活する地域について考えていきたいと思っています。

共修授業について

EC15 私は、共修授業を通して、見方や考え方の異なる他の大学生と協働して課題解決に取り組むなど、多職種連携の基盤となる実践的な態度を養うことができた。



○長崎大学での共修授業に参加できたことを誇りに思って今後役に立てていきたいと思っています。地域包括ケアシステムについてや、多職種連携についてなどたくさん学ぶことができました。

○今回初めて共修授業というものを体験して、新鮮さ、そして自分自身の未熟さを感じつつ、もう少しできることがあったのではないかとこのもどかしさが残った。しかし、この思いを忘れず、さらに自身の知識や人に伝える力を磨いていきたいと思う。これからどんどん新しい場に踏みこむ姿勢を大切にしたい。

○自分の学んできた知識を他学科の学生に説明することは、難しいと感じたが、異なる分野を学ぶ学生に分かりやすく説明しようと考えながら行うことができた。

○共修授業を通して、他学科の学生とディスカッションをすることで、異なる視点を知ることができ、お互いに意見を尊重しあって学ぶことができたので、多職種連携を行う上で、とても重要なことを実践できたと思う。

共修授業評定尺度結果

概要:

11月4日(水)と11日(水)の共修授業後、長崎大学医学部医学科、保健学科、長崎純心大学現代福祉学科の受講学生を対象に、下記評価項目(EC1~EC12)について4選択肢の自己評価を実施し、学生たちの意識がどのように変化したかを調査した。調査結果を一元配置分散分析と対応のあるt検定の分析を行ったところ、特徴的な項目は、次のとおりであった。

【医学科】

EC3・EC10・EC11において、両日の平均値間に統計的な有意差が見られた。

【保健学科】

EC3・EC6・EC8・EC9・EC10・EC11において、両日の平均値間に統計的な有意差が見られた。

【現代福祉学科】

EC1・EC10において、両日の平均値間に統計的な有意差が見られた。

分析結果		EC1		Paired	EC2		Paired	EC3		Paired	EC4		Paired	EC5		Paired	EC6		Paired
評価項目	実施日	Nov. 4	Nov.11	t-test															
医学科	平均値	2.72	2.79	n.s.	2.84	2.92	n.s.	2.90	3.16	p<.01	2.84	2.94	n.s.	3.06	2.92	n.s.	3.00	2.94	n.s.
	度数	109	109		109	109		109	109		109	109		109	109		109	109	
	標準偏差	.721	.759		.772	.829		.576	.709		.772	.780		.678	.873		.638	.705	
	尖度	-.198	-.553		.555	-.079		.847	.239		.100	-.493		.442	-.156		.925	1.158	
	歪度	-.115	-.014		-.707	-.538		-.297	-.551		-.461	-.261		-.430	-.604		-.435	-.730	
保健学科	平均値	2.81	2.93	n.s.	2.99	3.15	n.s.	3.01	3.19	p<.01	3.00	3.03	n.s.	2.85	2.87	n.s.	3.04	3.18	p<.05
	度数	98	98		98	98		98	98		98	98		98	98		98	98	
	標準偏差	.637	.561		.634	.778		.565	.550		.812	.710		.829	.833		.608	.663	
	尖度	.392	2.508		.349	1.055		1.549	-.058		.936	1.212		.251	.093		1.860	.197	
	歪度	-.303	-.742		-.240	-.946		-.347	.078		-.943	-.749		-.702	-.619		-.581	-.437	
現代福祉学科	平均値	2.76	3.06	p<.05	3.00	2.91	n.s.	2.91	3.09	n.s.	3.15	3.15	n.s.	2.88	3.00	n.s.	3.18	3.21	n.s.
	度数	34	34		34	34		34	34		34	34		34	34		34	34	
	標準偏差	.606	.649		.492	.830		.621	.668		.821	.702		.686	.778		.797	.880	
	尖度	-.379	-.455		1.655	.739		2.180	-.625		1.023	-.867		.745	1.061		.138	1.478	
	歪度	.144	-.054		.000	-.842		-.753	-.100		-.984	-.213		-.445	-.819		-.718	-.1279	
合計	平均値	2.76	2.88	—	2.93	3.01	—	2.95	3.16	—	2.95	3.01	—	2.95	2.91	—	3.04	3.08	—
	度数	241	241		241	241		241	241		241	241		241	241		241	241	
	標準偏差	.671	.673		.685	.814		.578	.641		.799	.742		.748	.842		.651	.723	
	尖度	-.013	.166		.923	.307		1.226	.184		.379	.033		.551	.018		.929	.880	
	歪度	-.176	-.272		-.610	-.724		-.390	-.349		-.699	-.446		-.635	-.629		-.498	-.720	
One-way ANOVA	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	n.s.	—	n.s.	p<.05	—	

評価項目	実施日	EC7		Paired	EC8		Paired	EC9		Paired	EC10		Paired	EC11		Paired	EC12		Paired
		Nov. 4	Nov.11	t-test															
医学科	平均値	3.24	3.14	n.s.	3.39	3.31	n.s.	3.05	3.14	n.s.	2.72	3.06	p<.001	2.77	3.12	p<.001	3.21	3.28	n.s.
	度数	109	109		109	109		109	109		109	109		109	109		109	109	
	標準偏差	.792	.775		.639	.729		.672	.726		.744	.678		.715	.649		.668	.695	
	尖度	.499	.366		1.926	1.096		1.139	.012		-.003	1.059		.480	1.031		1.756	1.513	
	歪度	-.910	-.730		-.1007	-.999		-.613	-.512		-.330	-.612		-.558	-.534		-.840	-.956	
保健学科	平均値	3.24	3.32	n.s.	3.38	3.54	p<.01	3.02	3.24	p<.001	2.82	3.19	p<.001	2.81	3.16	p<.001	3.30	3.36	n.s.
	度数	98	98		98	98		98	98		98	98		98	98		98	98	
	標準偏差	.826	.832		.601	.540		.574	.610		.581	.511		.620	.550		.596	.542	
	尖度	.746	1.444		-.652	-.881		.129	-.521		.508	.188		.050	.066		-.568	-.860	
	歪度	-1.047	-1.312		-.386	-.565		.002	-.184		-.289	.281		-.114	.074		-.204	.000	
現代福祉学科	平均値	3.09	3.26	n.s.	3.59	3.47	n.s.	3.09	3.18	n.s.	2.68	3.03	p<.05	3.06	3.24	n.s.	3.35	3.59	n.s.
	度数	34	34		34	34		34	34		34	34		34	34		34	34	
	標準偏差	.712	.790		.657	.825		.621	.716		.589	.717		.547	.654		.734	.783	
	尖度	1.067	.524		5.854	3.083		-.232	1.295		-.551	.786		.653	2.888		1.773	5.543	
	歪度	-.664	-.913		-.2050	-.1792		-.053	-.801		.198	-.567		.049	-.967		-.1166	-.2322	
合計	平均値	3.22	3.23	—	3.41	3.43	—	3.04	3.19	—	2.76	3.11	—	2.83	3.15	—	3.27	3.36	—
	度数	241	241		241	241		241	241		241	241		241	241		241	241	
	標準偏差	.794	.802		.628	.680		.624	.679		.660	.623		.660	.610		.649	.656	
	尖度	.559	.668		1.232	1.676		.679	.158		.210	1.205		.492	1.045		1.059	1.682	
	歪度	-.918	-.973		-.899	-.1177		-.339	-.491		-.302	-.494		-.408	-.426		-.692	-.975	
One-way ANOVA	n.s.	n.s.	—	n.s.	p<.05	—	n.s.	n.s.	—										

(出典:長崎純心大学医療・福祉連携センター「第13回事業企画委員会資料」)

評価項目	内容
EC1	私は、自己の目指す専門職の仕事内容や役割を、他の大学・学科生に説明できた。
EC2	私は、他の大学・学科生が目指している専門職の仕事内容や役割を理解できなかった。
EC3	私は他の大学・学科生と同じ視点を有していることに気づくことができた。
EC4	私は、他の大学・学科生とは異なった視点を有していることに気づくことができた。
EC5	私は自分の考えを他の大学・学科生に伝えることができなかった。
EC6	私は自分の専門分野に対する興味・モチベーションを向上させることができた。
EC7	私は、他の大学・学科生が話した内容について共感することができなかった。
EC8	私は、グループワークを通して見方や考え方の違う他の大学・学科生と協働して課題解決に取り組む重要性を実感できた。
EC9	私は、グループワークを通して、指示事例の目標となる姿(本人がどうなりたいかまた本人にどうなって欲しいか)を列挙し、その実現に向けての具体的支援方を提案できた。
EC10	私は、地域住民が地域で生活するための医療のしくみを理解することができた。
EC11	私は、地域住民が地域で生活するための福祉のしくみを理解することができた。
EC12	私は、医療職と福祉職とが連携することの意義について理解することができた。

IV. 社会への情報発信

長崎大学

「長崎が目指す未来の地域包括ケアの姿」シンポジウム

開催日時：平成27年2月7日（土）14:00～17:00

会場：メルカつきまち（5階長崎市市民生活プラザホール）

- 14:00-14:15 **挨拶**
長崎大学学長 片峰 茂
長崎純心大学学長 片岡 瑠美子
- 14:15-14:30 **事業進捗状況**
長崎大学地域包括ケア教育センター長 永田 康浩
- 14:30-15:10 **講演**
座長 長崎大学医学部先端医育センター長 安武 亨
「地域包括ケアシステムの構築に向けて」
長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二
- 15:10-15:20 **休憩**
- 15:20-16:00 **特別講演 I**
座長 長崎大学社会医療科学講座地域医療学分野 前田 隆浩
「2025年に向けた医療提供体制の改革と地域包括ケアシステムの構築について」
厚生労働省 医政局地域医療計画課長補佐 西川 宜宏
- 16:00-16:50 **特別講演 II**
座長 長崎大学地域包括ケア教育センター長 永田 康浩
「地域包括ケアシステムに求められる多職種連携～医師に果たすべき役割～」
国民健康保険 平戸市民病院長 押淵 徹
- 16:50-17:00 **閉会挨拶**
長崎大学医学部長 下川 功



「長崎から発信する医療と福祉の融合と調和」シンポジウム

開催日時：平成27年10月17日（土）13:00～17:00

会場：長崎大学医学部記念講堂

- 13:00～13:15 **1. 挨拶**
長崎大学学長 片峰 茂
長崎純心大学学長 片岡 瑠美子
- 2. 事業進捗状況**
13:15～13:45 長崎大学域包括ケア教育センター長 永田 康浩
13:45～14:05 長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二
14:05～14:20 学生による活動報告
学生サークル 長崎多職種連携・たまごの会
- 14:20～14:35 **休憩**
- 3. 講演**
14:35～15:35 **特別講演 I 「地域包括ケアの実現に向けて-医療と福祉の連携を視野に入れて-」**
座長 長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二
演者 桜美林大学大学院老年学研究科教授 白澤 政和
- 15:35～15:45 **休憩**
- 15:45～16:45 **特別講演 II 「社会医学的な視点と総合診療医の役割」**
座長 長崎大学社会医療科学講座地域医療学分野教授 前田 隆浩
演者 昭和大学病院病院長、日本専門医機構副理事長 有賀 徹
- 16:45～16:50 **4. 挨拶**
衆議院議員 富岡 勉
- 16:50～17:00 **5. 閉会挨拶**
長崎大学医学部医学科長補佐 川上 純



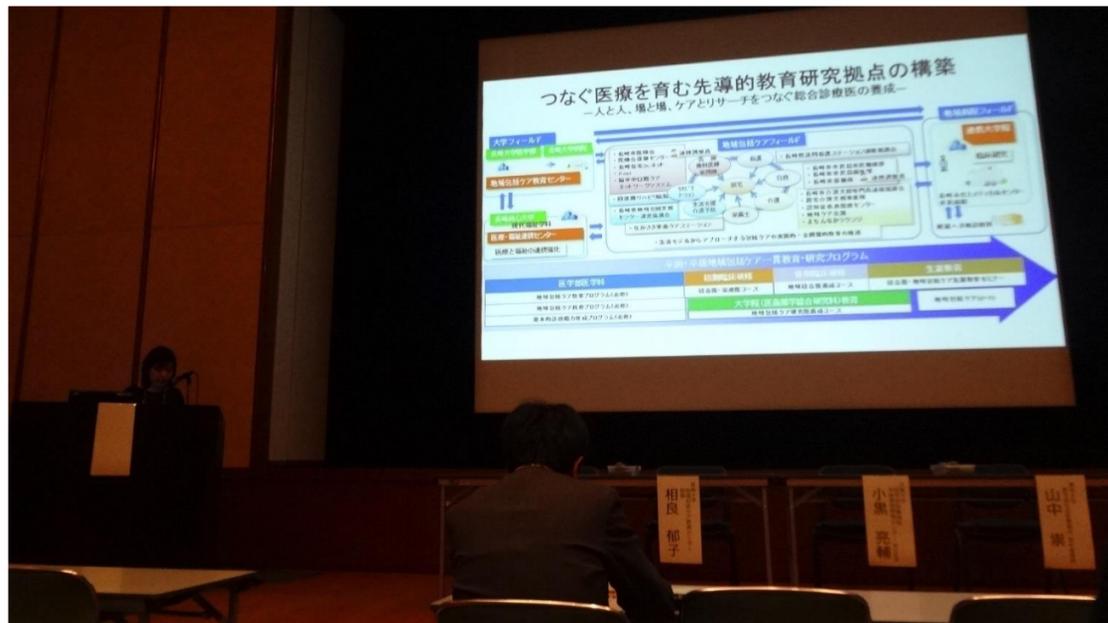
◆第2回 合同公開フォーラム リサーチマインドを持った総合診療医の養成

日時：平成27年1月30日（金）10：00～16：30
場所：千里ライフサイエンスセンター

セッション3（老年・高齢化社会）

プレゼンテーション 発表者：相良 郁子

「長崎大学が展開するつなぐ医療プロジェクト」



文部科学省：未来医療研究人材養成拠点形成事業

リサーチマインドを持った 総合診療医の養成

第2回 合同公開フォーラム

事前申込み
不要
参加費
無料

今後の日本に求められる総合医養成の課題と展望

期日=平成27年1月30日[金]10:00~16:30
会場=千里ライフサイエンスセンター
〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 <http://www.senrlc.co.jp/access/index.html>
対象=総合診療に興味のある医療関係者、大学関係者、行政関係者、メディア等

将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できる優れた総合診療医の養成について、選定大学における取組事例も含め各界の参加者が幅広い視点で議論いたします。

【プログラム】
特別講演 寺門成真(文部科学省高等教育局医学教育課長)
セッション1 総合診療医養成にかかる拠点からの発信と日本の将来像
セッション2 拠点形成事業の進捗と展望
セッション3 超高齢社会に対応する総合診療医養成の課題と展望
シンポジウム 今後の日本に求められる総合医および、本事業の継続性について
新木一弘(東京医科大学 大和病院)
大内剛義(社団法人 日本老年医学会 理事長、その門下院院長)
大田秀樹(医療法人 アスミス 理事長)
梶井英治(自治医科大学 地域医療学センター長)

フォーラムに参加された方には以下の専門医・認定医更新のための単位が付与されます。
日本老年医学会 2単位 / 日本プライマリ・ケア連合学会 5単位

主催=大阪大学
後援=社団法人 日本老年医学会、一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会
<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/home/sotsugo/sougou-i/index.html>
【事務局】大阪大学医学部附属病院後援教育開発センター 電話:06-6879-5054-5055

◆第3回長崎地域医療セミナーin GOTO

日時：平成27年8月21日（金）～8月23日（日）
場所：五島市富江町公民館3階ホール
主催：長崎大学、長崎地域医療セミナー実行委員会
共催：五島市、五島医師会、長崎県五島中央病院、
長崎純心大学医療・福祉連携センター
参加者：学生42名

大学名	学部	学科	人数
長崎大学	医学部	医学科	25
長崎純心大学	人文学部	現代福祉学科	10
		人間心理学科	1
日本大学	医学部	医学科	1
近畿大学	医学部	医学科	1
徳島大学	医学部	医学科	1
山口大学	医学部	医学科	1
久留米大学	大学院 比較文化研究科	保健福祉 社会 学コース	1
	医学部	医学科	1
合計			42

第3回 長崎地域医療セミナー in GOTO

「しまで学ぶ！感じる！つみあげる！」

地域における保健・医療・福祉の連携やその現場での教育が重要視されています。長崎大学では医療や福祉を通じた地域との早期の関わり合いを提供し、地域包括ケアの現場で活躍できる人材の育成を目指しています。情熱を持った学生さんを全国より募集します。下記の応募要項を確認のうえお申し込み下さい。

日時：平成27年8月21日(金) 12:00～23日(日) 16:00 (2泊3日)
会場：長崎県五島市富江町 宿泊施設「としまる」および「富江町公民館」
対象：長崎大学医学部医学科1～3年生・長崎純心大学福祉系学科1～4年生
地域医療や地域包括ケアに関心のある全国の医療福祉系学生
費用：10,000円(宿泊費および食事費用として・五島市までの交通費は自己負担です)

【主な内容】
五島市内の医療機関や保健・福祉機関の見学
地域医療・地域包括ケアに関する講義・ワークショップ
その他、夏の五島ならではの楽しいイベントも企画しています

【募集要項】所属されている大学の授業や実習等に支障がないことを確認のうえ、電話もしくは電子メールにて必要事項をご連絡ください。また、途中参加などの希望にも可能な限り対応いたしますのでご相談ください。なお、学年や所属学部の制限はありませんが、内容としては長崎大学医学部医学科1～3年生および長崎純心大学福祉系学科1～4年生を対象としたものが中心となることを予めご了承下さい。
募集人数：8名(学外参加として)
募集期間：6月30日(火) 17:00まで(希望者多数の場合は早めに締め切る場合があります)
必要事項：氏名(フリガナ)、性別、生年月日(年齢)、所属大学、学部、学科、学年
郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス、地域医療や地域包括ケアへの意気込み(自由記載)

【連絡先】〒853-8691 長崎県五島市吉久木町205番地(長崎県五島中央病院内)
長崎大学 離島・へき地医療学講座 離島医療研究所
TEL:0959-74-2673 FAX:0959-74-2635 E-mail:ritouken@vc.ftcv-net.jp
担当：野原 夏樹

主催：長崎大学、長崎地域医療セミナー実行委員会
共催：五島市、五島医師会、長崎県五島中央病院、長崎純心大学医療・福祉連携センター

◆学生向けセミナー『医学の学び方を探ろう』

日時：平成27年5月20日（水）19：00～20：00

場所：医学部セミナー室



『医学の学び方を探ろう』

～医学科カリキュラム全体を概観し、本質的な勉強法を模索する～

**学生向け
セミナー
受講者募集**

対象：医学科学生（全学年）

日時：平成27年5月20日（水）19:00～20:00

場所：医学部セミナー室3～5

申込方法：学年、氏名、連絡先（携帯番号）を記載の上、下記アドレスまたは登録フォームまでご連絡ください。

メールアドレス
mirairyo@ml.nagasaki-u.ac.jp

登録フォーム

講師 地域包括ケア教育センター
助教 松坂 雄亮 先生

医学の進歩に伴い、医学生が習う内容も増える一方です。授業数の増加、内容の高度化・細分化の中で、「いったい今何を勉強してるんだ？」と困惑することはありませんか？「医者になる」その根本に立ち返り、今している勉強内容を問い直す。卒業5年目を迎えた一精神科医からの、明日輝く医者たちに向けたメッセージ。

問合せ 地域包括ケア教育センター（医学部基礎研究棟 6 F） TEL 095-819-7046

◆地域包括ケアに関わる専門職種のための多職種連携セミナー 「地域包括ケアと救急医療」

地域包括ケアシステムに関わる専門職のための生涯教育の一貫として、高齢者に対する救急医療について、救急医療の現状と多職種連携の意義を知ると同時に、簡単な初期処置に関して専門医の指導を受け、救急医療を介する地域包括ケアシステムの向上に寄与することを目的とし開催した。

日時 平成27年3月7日（土）9：00～12：00

場所 長崎大学医学部 第1講義室

対象者 地域包括ケアに関わる専門職種



地域包括ケアに関わる専門職のための多職種連携セミナー

「地域包括ケアと救急医療」

地域包括ケアシステムに関わる専門職のための生涯教育の一貫として、高齢者に対する救急医療について、救急医療の現状と多職種連携の意義を知ると同時に、簡単な初期救急処置に関して専門医の指導を受け、救急医療を介する地域包括ケアシステムの向上に寄与することを目的とし開催いたします。

日時：平成27年3月7日（土）9:00-12:00

場所：長崎大学医学部医学科基礎棟1階第1講義室
(演習：セミナー室)

対象者：地域包括ケアに関わる専門職 20名程度

講師

- ◆心肺蘇生の実践と現場での連携
長崎大病院救命救急センター 准教授 山下和範先生
- ◆高齢者の救急医療と地域の連携について
長崎大病院救命救急センター 教授 田崎 修先生

【問い合わせ】
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
TEL: 095-819-7046 FAX: 095-819-7048

【主催】長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター
【共催】長崎大病院救命救急センター

◆テレビ取材

KTN テレビ長崎 (平成27年11月26日 O.A)

みんなのニュース

特集 タマゴたちの取り組み

地域包括ケアをどう充実させていくのか、学部や専門の壁を越えて将来の地域医療を支える大学や学生達の取り組みということで、長崎大学 医学部 (医学科・保健学科)・長崎純心大学 現代福祉学科の共修授業と医学ゼミ、たまごの会の取材がありました。



KTN テレビ長崎 (平成27年8月18日 O.A)

ヨジマル

2015年8月18日(火) KTN 「ヨジマル」 のコーナー「国保でホッ！健康づくりのミナモト」で、当センター助教の牟田久美子が、慢性腎臓病(CKD)についての解説や対応策などを紹介した。



1. 研究会・講演会の開催

地域における医療と介護の連携に関する研究会

テーマ：「地域における医療と介護の連携の在り方」

日時：平成27年3月24日（火）14:00～16:30

場所：長崎純心大学ケアセンター扇町

主催：長崎純心大学医療・福祉連携センター

プログラム

- ① 開会あいさつ（14:00～14:15）
長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二
- ② 講演（14:15～15:15）
演題：地域における医療と介護の連携
講師：熊本県健康福祉部 長寿社会局長 山田 章平 氏
- ③ 休憩（15:15～15:30）
- ④ 意見交換等（15:30～16:25）
司会：長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二
- ⑤ 閉会あいさつ（16:25～16:30）
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター長 永田 康浩 氏

参加者：42名



地域医療と介護の連携に関する研究会

テーマ：「地域における医療と介護の連携の在り方」

日時：平成27年11月2日（月）14:00～16:30

場所：長崎純心大学地域連携センター（旧ケアセンター扇町）

主催：長崎純心大学医療・福祉連携センター

プログラム

- ① 開会あいさつ（14:00～14:15）
長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二
- ② 講演（14:15～15:15）
演題：地域における医療と介護の連携
講師：岡山市保健福祉部 統括審議監 柴田 拓己 氏
- ③ 休憩（15:15～15:30）
- ④ 意見交換等（15:30～16:25）
司会：長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二
- ⑤ 閉会あいさつ（16:25～16:30）
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター長 永田 康浩 氏

参加者：27名



2. 国内視察、地域包括ケアシステムに関する研究会等への参加

都市部の在宅医療を考える シンポジウム

期 日：平成27年11月15日（日）

場 所：東京大学医学部教育研究棟鉄門記念講堂

主 催：東京大学医学部 在宅医療学拠点

概 要

- 開会の挨拶（11:00~11:10）
東京大学大学院医学系研究科・医学部医学系研究科長・医学部長 宮園 浩平 氏
- 講演（11:10~11:25）
「『新しい大学－地域間連携での研究人材育成』に期待すること」
文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室室長補佐 中湖 博則 氏
- 講演（11:25~11:40）
「地域包括ケアシステムと在宅医療」
厚生労働省医政局地域医療計画課長 迫井 正深 氏
- 講演（11:40~12:00）
「東京大学医学部在宅医療学拠点の活動報告」
東京大学医学部在宅医療学拠点特任准教授 山中 崇 氏
- シンポジウム前半（13:00~14:05）
「都市部の在宅医療の現状と課題」
座長 全国在宅療養支援診療所連絡会会長 新田 國夫 氏
演者：東京大学高齢社会総合研究機構准教授 飯島 勝矢 氏
「都市部の在宅医療の現状と課題」
シンポジスト：東京都健康長寿医療センター理事長 井藤 英喜 氏
国際医療福祉大学大学院医療福祉ジャーナリズム分野教授 大熊 由紀子 氏
- シンポジウム後半（14:15~15:20）
「在宅医療に対して積極的に取り組む、リサーチマインドを持った総合診療医を養成するために」
座長：東京大学大学院医学系研究科加齢医学教授 秋下 雅弘 氏
演者：日本老年医学会前理事長 国家公務員共済組合 虎の門病院院長 大内 尉義 氏
「超高齢社会に求められる、リサーチマインドをもった総合診療医の養成」
シンポジスト：大分県立看護科学大学理事長・学長 東京大学名誉教授 村嶋 幸代 氏
日本在宅医学会代表理事 前田 憲志 氏
- 総合討論（15:30~16:15）
演者：国立長寿医療研究センター名誉総長 大島 伸一 氏
東京大学大学院医学系研究科加齢医学教授 秋下 雅弘 氏
- 閉会の挨拶（16:15）
東京大学大学院医学系研究科加齢医学教授 秋下 雅弘 氏



参加者：奥村あすか助教

3. 長崎県内、地域包括ケアシステムに関する研究会等への参加

平成26年度上五島地区離島医療教育研究会

期 日：平成27年3月5日（木）

場 所：長崎県上五島病院

主 催：長崎大学・長崎県上五島病院

共 催：長崎純心大学医療・福祉連携センター

概 要

- ① 開会あいさつ 長崎県上五島病院 病院長 八坂 貴宏 氏
- ② 報告
「長崎大学離島医療実習記録及びアンケート結果」
長崎大学 地域医療学分野 助教 小屋松 淳 氏
- ③ 講演Ⅰ 演題：「地域の捉え方－離島での学生実習が医師になってどう役立つか」
演者：千葉大学予防医学センター特任研究員 長嶺由衣子 氏
- ④ 講演Ⅱ 演題：「離島医療実習の質をどう上げて行くか」
演者：長崎県上五島病院病院長 八坂 貴宏 氏

参加者：潮谷有二教授、宮野澄男准教授、奥村あすか助教、吉田麻衣助教

現代福祉学科4年 赤瀬温子、出雲幸奈、加藤小百合、金崎一花、小佐々愛
林田佳蓮、馬越葉子、松井 茜、山田実来

現代福祉学科3年 荒田瑠美、石原理子、大関あい、戸口四郎、中尾よしの、芳田彩夏



平成27年度吉岐地区離島医療教育研究会

期 日：平成27年6月11日（木）

場 所：長崎県吉岐病院研修センター

主 催：長崎大学・長崎県吉岐病院

共 催：長崎純心大学医療・福祉連携センター

概 要

- ① 開会あいさつ 長崎県吉岐病院 病院長 向原 茂明 氏
- ② 長崎大学離島医療保健実習について 長崎大学 地域医療学分野 助教 小屋松 淳 氏
- ③ 講演Ⅰ 演題：「吉岐における地域包括ケアシステムの展望」
演者：長崎県吉岐病院 病院長 向原 茂明 氏
- ④ 講演Ⅱ 演題：「地域ぐるみの医療人教育～地域との本格連携を目指して～」
演者：長崎大学 地域医療学分野 教授 前田 隆浩 氏

参加者：潮谷有二教授、宮野澄男准教授、奥村あすか助教、吉田麻衣助教

地域包括ケア人材養成コース推進フォーラム

期 日：平成27年7月11日（土）

場 所：長崎大学医学部保健学科101講義室

主 催：長崎大学医学部保健学科

後 援：公益社団法人長崎県理学療法士協会、一般社団法人長崎県作業療法士会

概 要 ① プログラム概要

長崎大学医学部保健学科保健学実践教育センター センター長 井口 茂 氏

② 講演：「地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション専門職の役割」

講師：大阪府大東市保健医療部 高齢支援課 理学療法士 逢坂 伸子 氏

③ シンポジウム：「行政・関係機関からみた地域包括ケアシステムの中でのリハビリテーション専門職の役割」

「長崎県における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み」長崎県福祉保険部長寿社会課 田島 玲悟 氏

「地域包括支援センターの立場からみたリハビリテーション専門職の役割」佐々町地域包括支援センター 江田 佳子 氏

「リハビリテーション専門職に期待すること」長崎市介護支援専門員連絡協議会 榎本 哲子 氏

参加者：宮野澄男准教授、奥村あすか助教、吉田麻衣助教、森 万記事務

平成27年度対馬地区離島医療教育研究会

期 日：平成27年10月16日（金）

場 所：対馬グランドホテル2階 浅茅の間

主 催：長崎大学・長崎県対馬病院

共 催：長崎純心大学医療・福祉連携センター

概 要 ① 開会あいさつ 長崎大学 地域医療学分野 教授 前田隆浩 氏

② 「長崎大学離島医療実習記録及びアンケート結果」

長崎大学 地域医療学分野 助教 小屋松 淳 氏

③ 講演Ⅰ 演題：「福岡大学医学部の早期臨床教育と離島研修」

演者：福岡大学医学部 医学教育推進講座教授 安本 佐和 氏

④ 講演Ⅱ 演題：「教育効果からみた効果的な地域医療実習プログラムの提案」

演者：神戸大学大学院 地域医療教育学部門特命教授 岡山 雅信 氏

参加者：奥村あすか助教

高度リハビリテーション専門職の養成推進フォーラム

期 日：平成27年10月31日（土）

場 所：長崎大学医学部良順会館

主 催：長崎大学医学部保健学科

後 援：公益社団法人長崎県理学療法士協会、一般社団法人長崎県作業療法士会

概 要 ① プログラム概要

長崎大学医学部保健学科保健学実践教育センター センター長 井口 茂 氏

② 講演：「今後の医療・介護の動向に適応できる理学療法士の育成」

講師：日本理学療法士協会 会長 半田 一登 氏

③ 講演：「生活の再構築と社会参加に向けた作業療法士の役割～生活行為向上マネジメントの活用～」

講師：日本作業療法士協会 会長 中村 春基 氏

④ 意見交換：「理学療法士・作業療法士における現状の課題と今後の展望～大学教育における学内・リカレント教育の融合に向けて～」

参加者：宮野澄男准教授

第9回九州EBM work shop in 長崎

期 日：平成27年11月14日（土）

場 所：長崎大学医学部第2講義室

主 催：長崎大学大学院 地域医療学分野

テーマ：「地域医療で実践する根拠に基づく

医療（Evidence Based Medicine）」

概 要

①セッション1

「臨床現場での二次資料の効率のよい使い方」

② セッション2

「原著論文の批判的吟味」

参加者：宮野澄男准教授

現代福祉学科3年 北村春菜、福田史織、水田千夏



平成27年度スクールソーシャルワーカー基礎研修

期 日：平成27年11月28日（土）・29日（日）

場 所：日本社会福祉士養成校協会研修室（東京・品川）

主 催：一般社団法人日本社会福祉士養成校協会

一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会

第1日目

講義：「ソーシャルワーク基礎－人々の『生活』を支える『社会福祉援助』の理解と『ソーシャルワーク・マインド』の共有をめざして－」

- ・第1講 社会福祉とソーシャルワーク
- ・第2講 生活支援の方法としてのソーシャルワーク
- ・第3講 ソーシャルワークの概要
- ・第4講 ソーシャルワークにおける価値と倫理
- ・第5講 ソーシャルワークの展開

講師：同志社大学 教授 空閑浩人 氏



第2日目

講義：「子ども家庭の現状、なぜ学校なのか、SSWとは」

グループワーク：「スクールソーシャルワークの実際、ミクロ、メゾ、マクロの意義」

- ・SSWの動き方の実際（メゾ）
- ・アプローチのいろいろ（ミクロ、メゾ）

講師：大阪府立大学 教授 山野則子 氏

参加者：宮野澄男准教授、奥村あすか助教、吉田麻衣助教

管理・運営・評価の体制

各種委員会

長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会

委員長 下川 功

氏名	機関名	職名
下川 功	長崎大学 医学部	学部長
小路 武彦/下川 功*	長崎大学 医歯薬学総合研究科	研究科長
増崎 英明	長崎大学病院	病院長
田中 悟郎	長崎大学 医学部保健学科	学科長
中山 浩次/澤瀬 隆*	長崎大学 歯学部	学部長
中山 守雄/黒田 直敬*	長崎大学 薬学部	学部長
松永 公隆	長崎純心大学現代福祉学科	学科長
兼松 隆之	長崎みなとメディカルセンター 市民病院	院長
奥 保彦	長崎市医師会	会長
森山 良英	長崎大学 医歯薬学総合研究科	事務部長
永田 康浩	長崎大学医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター	センター長
潮谷 有二	長崎純心大学 医療・福祉連携センター	センター長

* 平成27年度より

・平成26年度 長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会

日 時：平成27年3月24日（火）11:00～12:00
場 所：長崎大学医学部セミナー室4・5
参加総数：19名

1. 報告事項

- ・平成26年度事業推進計画について
- ・長崎地域包括ケア教育外部評価委員会について
- ・平成27年度研究拠点形成費等補助金調書について
- ・中間評価について

2. 審議事項

- ・平成27年度事業計画の策定について

・平成27年度 第1回長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会

日 時：平成27年8月19日（水）14:00～15:00
場 所：長崎大学医学部 小会議室
参加総数：17名

1. 報告事項

- ・平成27年度事業推進計画・進捗状況について
- ・シンポジウム開催について

2. 協議事項

- ・外部評価委員の追加について
- ・中間評価について
- ・予算について

委員	機関名	職名
下川 功	長崎大学 医学部	学部長
永田 康浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター	センター長
潮谷 有二	長崎純心大学 医療・福祉連携センター	センター長
市川 辰樹	長崎みなとメディカルセンター 市民病院 連携講座	教授
大園 恵幸	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座総合診療学分野	教授
前田 隆浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野	教授
安武 亨	長崎大学医学部先端医育支援センター	教授
浜田 久之	長崎大学病院医療教育開発センター	センター長
伊東 昌子	長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター	センター長
伊東 博隆	長崎県福祉保健部	部長
三井 敏弘	長崎市市民局福祉部	部長
吉峯 悦子	長崎市市民局福祉部	保健師
高柳 公司	島原市池田病院	理学療法士
江田 佳子	長崎県佐々町住民福祉課 地域包括支援センター	課長補佐
武田 達哉	長崎大学病院	研修医 1年次
山下 彩	長崎大学病院	研修医 1年次
内田 直子	長崎大学医学部医学科	学生 2年生
戸口 四郎	長崎純心大学現代福祉学科	学生 4年生
澤田 寿美	長崎純心大学現代福祉学科	学生 3年生

・平成27年度 第1回長崎地域包括ケア教育推進委員会

日 時：平成27年7月2日（木）16：30～17:30
場 所：長崎大学医学部 セミナー室
参加総数：27名

1. 報告事項

- ・平成27年度事業推進計画・進捗状況について
- ・文部科学省との意見交換会について
- ・シンポジウムについて

2. 協議事項

- ・総合診療医の養成について

・平成27年度 第2回長崎地域包括ケア教育推進委員会

日 時：平成27年12月10日（木）15：00～16:00
場 所：長崎大学医学部 セミナー室
参加総数：32名

1. 報告事項

- ・平成27年度事業推進計画・進捗状況について

2. 協議事項

- ・中間評価について
- ・平成28年度事業推進計画について

氏名	機関名	職名
蒔本 恭	長崎県医師会	会長
押淵 徹	国民健康保険 平戸市民病院	院長
菊森 淳文	公益財団法人 ながさき地域政策研究所	研究所長
長尾 一雄	公益社団法人 認知症の人と家族の会 長崎県支部	世話人代表
益本 昌明	長崎県社会福祉協議会	事務局長
慎改 彰子	KTN テレビ長崎 報道制作局 報道部	専任部長

平成26年度 長崎地域包括ケア教育外部評価委員会

日 時：平成27年2月19日（木）15:00～16:00

場 所：長崎大学医学部セミナー室4・5

参加人数：委員 5名、オブザーバー 8名

大学名	長崎大学、長崎純心大学
事業名	つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築 —一人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成—
事業期間	平成25年10月～平成30年3月
外部評価委員からのコメント	
評価 できる点	<p>○地域包括ケアシステムの構築に向けて、各分野、多職種間の連携・協働の要となる人材の教育・育成に視点、力点をおいた本事業の目的はきわめて有意義と感じる。</p> <p>○全医学部生が地域包括ケアシステムの教育を受けることはもとより、医学生と福祉系学生の系統的な交流学习、研究の場の設定は、将来に向けてそれぞれの活躍（飛躍）を十分予感させるものである。学生も学習機会を有効に活用し、意欲的に取り組んでおり、成果があがりつつある様子が伺える。</p> <p>○学生の時期から、地域医療を学ぶためには「地域包括ケアシステム」構築を指向した教育を行うことであるとの明確な方針を示したこと。</p> <p>○「自宅→急性期病院→リハビリ病院→福祉施設→在宅介護」という、高齢者が要介護状態になる過程に沿った教育システムは医学部だけでは形成できず、医学と介護福祉が協働することによって最適な解を提示できると思う。この観点から、本事業は画期的・斬新な取組だと高く評価できる。</p> <p>○医師とcomedical（医療関係専門職）とがそれぞれ相手の業務の役割と限界を知ることにより、患者の立場に立ったスムーズな協働を可能にすると思う。専門医も重要であるが、総合診療医も重要で、医学教育の初期の段階で導入する意義は大きい。</p> <p>○医療、介護福祉とも、社会保障改革の中で、給付の抑制が今後も継続的に行われる可能性が大きく、医療の「入口」の段階で、効果的な診断・治療が行われることが不可欠。「総合診療医」を制度化すれば、患者・病院・介護施設・行政すべてメリットを受ける。</p>

改善を要する点	<p>○社会を支える仕組「自助、互助、共助、公助」の教育が必要ではないか。その仕組みに各々の職種がどのように関わっているかを知る。</p> <p>○地域包括ケアシステムの基礎を成すのは「健康づくり」であり、その事業で果す各職種の役割を理解させること。</p> <p>○介護予防事業についての理解、特に運動機能向上については、理学療法、作業療法学科の関与が伺い知れるが、栄養改善、口腔機能リハビリについての理解を深める学習を通じて多職種連携の姿を知る。</p> <p>○2025年に認知症の高齢者が700万人前後に達すると見込まれています。厚労省は認知症も一般的な病気だとして「よりよく生きていくための環境整備」を目指しています。認知症について、より深い理解を期待します。</p> <p>○地域医療・介護（包括ケア）を考えるならば、「予防」・「疾病の早期発見（兆候）」にも焦点を当ててほしい。</p> <p>○介護福祉の現場では「ケアマネ」の役割が大きく、各人の生活環境を背景にした在宅介護にまでスムーズに至ることができるかどうかで、患者のQOLが大きく異なる。本プロジェクトでここまでカバーすべきかどうかと思われるが、将来的には、大きな流れや方向性だけでも理解する教育にしてほしい。</p>
その他ご意見	<p>○地域包括ケアシステムは、まさにこれから具現化されるものである。新たな地域支援事業をはじめ、本県における方向性が完全に定まっていない部分も多く、可能な範囲で進捗状況に応じた教育をお願いしたい。</p> <p>○地域包括ケアシステムにおいては、住民参加を基礎とした「互助」の推進が重要であり、新システムのなかでの生活支援サービスについても理解促進を図っていただきたい。</p> <p>○離島、過疎地、限界集落などの地域特性や社会的孤立、自殺、虐待、認知症対策などの深刻化、潜在化する生活課題・福祉課題との関連についてもご指導いただきたい。</p> <p>○終末期の取り組みについて（今後の課題）</p> <p>○認知症対策として「理解の普及・啓発」「介護者への支援」「本人や家族の視点の重視」「若年性認知症対策」「適切な医療と生活支援」などが挙げられています。</p> <p>認知症の人と家族の会は「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができること」を目指しています。</p> <p>○長崎県は離島・へき地が多く、必要最小限の一次医療を確保するためにも、「総合診療医」の存在は大きい。課題は、この職種の医師が「やりがい」「使命感」を感じて継続できる制度的枠組みが必要。公立病院が大半になると思われるので、過重労働とならない一定数の医師の確保と処遇に工夫が必要だと考える。</p>

事務運営会議

平成27年度第1回 事業打合せ

日時：平成27年2月25日（水）11：00～11：30

場所：長崎大学医学部研修・打ち合わせ室

参加者：永田康浩、江口正倫、門村由紀子、濱田恵子、平尾加奈子、山崎美香、小川若菜、舟越純子、實藤英子、陣内恵子、江崎智子、野田美紀、山崎知恵、安永智子、森美紀子、松本知佳

平成27年度第1回 事業打合せ

日時：平成27年4月3日（金）12：00～13：00

場所：長崎大学医学部研修・打ち合わせ室

参加者：永田康浩、潮谷有二、宮野澄男、相良郁子、牟田久美子、奥村あすか、吉田麻衣、門村由紀子、濱田恵子、森万記、平尾加奈子、山崎美香、小川若菜、小笹絢女、梶村希



協議事項

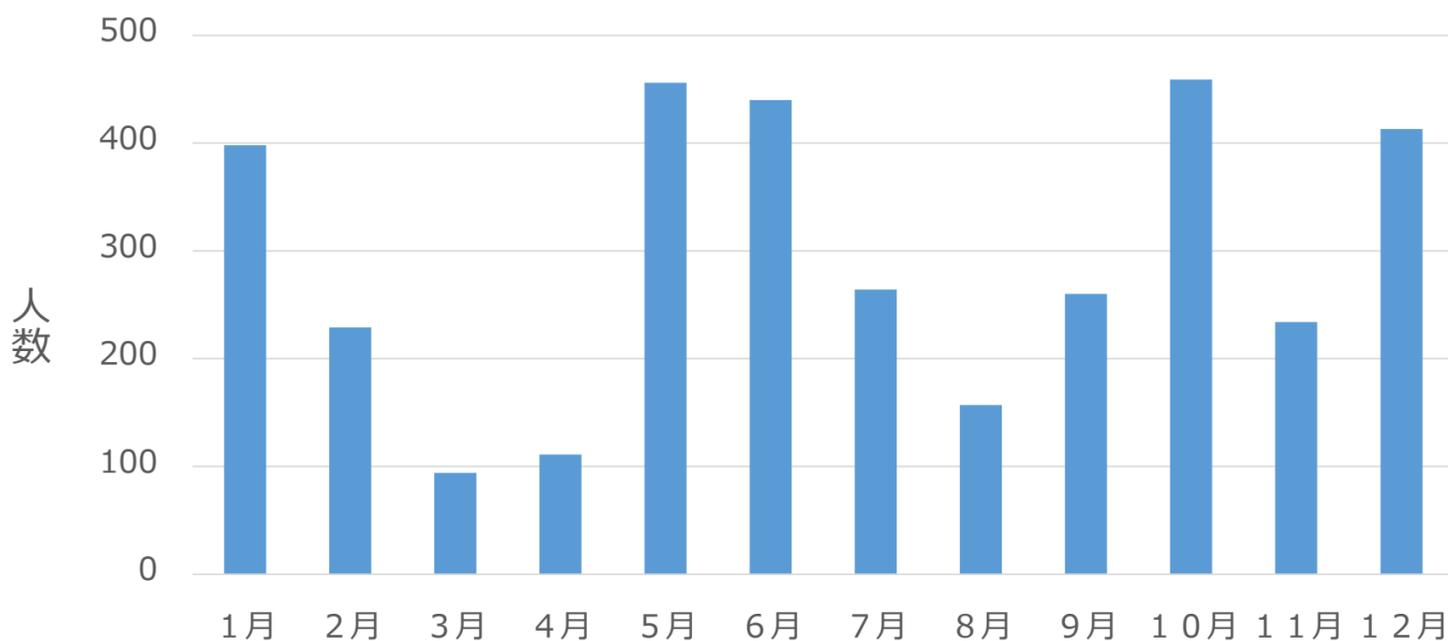
- ・平成27年度事業について
 - シンポジウムについて
 - FDについて
 - 管理運営委員会について
 - 純心大学での研究会について
 - DVD作成について
- ・中間報告に向けて

その他

1. シミュレーター一覧

No	品名	No	品名
1	外傷・救急用超音波診断トレーニングファントム	28	LAPX 腹腔鏡手術シミュレーター 日本ライトサービス
2	上腹部解剖モデル ECHO-ZOU型	29	ALS Sim アドバンスド SimPad (モニター無)
3	乳房超音波診断ファントム“BREAST FAN”	30	シミュレーター用コンプレッサー (自動自発呼吸機)
4	超音波診断ファントム上腹部モデル“ECHOZY”セット	31	男性導尿・浣腸シミュレータ
5	フィジカルアセスメントトレーニングモデル“Physiko”	32	女性導尿・浣腸シミュレータ
6	コードレス聴診教育システム送受信機「HI-STETHO」	33	吸引シミュレータ Qちゃん
7	MMIマキュレス血圧計卓上型	34	経管栄養シミュレータ (経管栄養ポンプ&注入用セット)
8	リットマン聴診器	35	タイコス アネロイド血圧計
9	パルスオキシメーター	36	人工肛門シミュレータ
10	新お年寄り体験スーツSサイズ	37	レサシアン全身スキルガイドモデル レールダル
11	新お年寄り体験スーツMサイズ	38	呼吸音聴診シミュレータ ラング
12	新お年寄り体験スーツLサイズ	39	超音波診断装置
13	新お年寄り体験スーツLLサイズ	40	標準トレーニングパッド
14	片マヒ体験スーツ (Mサイズ) 坂本モデル	41	バードモノプティ (マックスコア) 16G×160mm
15	片マヒ体験スーツ (Lサイズ) 坂本モデル	42	乳腺バイオブシーファントム1箱2個組 (透明+肌色)
16	心電計	43	乳腺バイオブシーファントム1箱2個組 (肌色)
17	スキルスラボ推奨診断セット	44	乳腺バイオブシーファントム1箱2個組 (透明)
18	胸脇苦満 (漢方用腹診シミュレータ所見モデル)	45	ダブルルーメンチューブ (自動自発呼吸機用延長チューブ)
19	腹直筋緊張 (漢方用腹診シミュレータ腹力モデル)	46	心嚢穿刺S 穿刺パッド 2個組 MW15
20	マルチディスカッション顕微鏡 (5人用) 7ヶ穴レボ	47	胸腔穿刺S 穿刺パッド 左側胸部 2個 MW4
21	顕微鏡デジタルカメラ	48	胸腔穿刺S 穿刺パッド 右背部 2個 MW4
22	フルHDカラーカメラシステム	49	ミニアンPlus 10体セット
23	液晶TV (46型)	50	4点支持杖 スモールベース レギュラータイプ T-2201
24	挿管シミュレータMS-2型 M34	51	4点支持杖 ラージベース レギュラータイプ T-2103
25	血管吻合シミュレーター	52	アルミ製 多機能車いす
26	胸腔・心嚢穿刺シミュレーター MW17	53	アルミ製 自走用車椅子 背折れ式 介護ブレーキ付き
27	採血・静注シミュレータ シンジョーⅡ	54	評価型気道管理シミュレータ

平成27年 シミュレーター月間利用者数



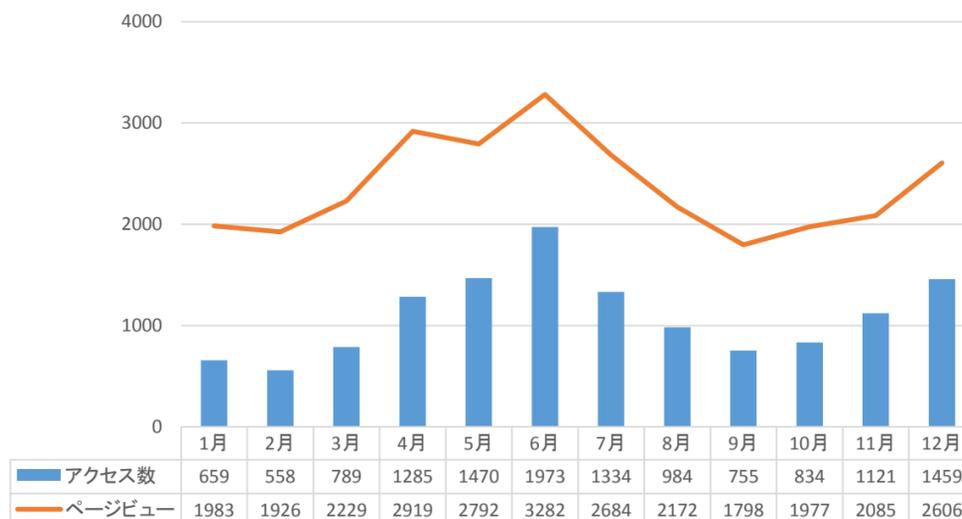
2. ホームページ

本事業の取り組みや成果の公表、学生に向けた地域包括ケア教育に関する情報提供のためホームページを立ち上げた。また、本年度4月よりさらに情報発信を進めるためFacebookページを立ち上げ毎日更新を行っている。

長崎大学 <http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/>



月別HPアクセス数



長崎純心大学 <http://www.n-junshin.ac.jp/cmww/>



3. スタッフ名簿

長崎大学

職名	氏名
センター長	永田 康浩
副センター長	久芳 さやか
助教	石居 公之
助教	相良 郁子
助教	牟田 久美子
助教	松坂 雄亮
助教	高橋 健介
助教	濱口 由子
連携調整員（長崎市役所）	門村 由紀子
連携調整員（長崎市医師会）	濱田 恵子
事務	平尾 加奈子
事務	山崎 美香
事務	小川 若菜
事務	梶村 希
事務	舟越 純子
事務	小笹 絢女
事務	實藤 英子
事務	陣内 恵子
事務	江崎 智子
事務	野田 美紀
事務	山崎 知恵
事務	森 美紀子
事務	安永 智子
事務	松本 知佳

長崎純心大学

職名	氏名
センター長	潮谷 有二
准教授	宮野 澄男
助教	奥村 あすか
助教	吉田 麻衣
事務	森 万記

平成25年度文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業

「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」

つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築

—人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成—

事業報告書

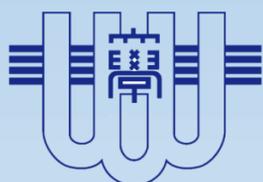
平成27年1月～平成27年12月



長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科
地域包括ケア教育センター

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4

TEL : 095-819-7046



長崎純心大学
医療・福祉連携センター

〒852-8558 長崎市三ツ山町235番地 TEL:095-842-8787